

【資料 1】

公益社団法人計測自動制御学会

2024年度事業報告書

公益社団法人第14期 通算第63期

2024年1月1日～12月31日

目 次

I. 計測自動制御学会の概要	1
II. 2024年度事業報告	
1. はじめに	2
2. 2024年度事業計画	2
3. 2024年度の主要な活動	5
4. 役員と業務執行体制	11
5. 委員会・部門・支部	12
6. 2025～26年度代議員	14
7. 事業実績データ	16
III. 2024年度事業報告附属明細書	
1. 各組織の事業計画・実施報告	19
2. 2024年度に実施した個別事業実施報告	86

SICE®

2025年(令和7年)3月

公益社団法人計測自動制御学会

東京都千代田区神田小川町1-11-9 金子ビル4階

電話 (03) 3292-0314

FAX (03) 3292-3145

URL <https://www.sice.jp/>

I. 計測自動制御学会の概要

名称	公益社団法人 計測自動制御学会 (定款第1条)
所在地	〒101-0052 東京都千代田区神田小川町1-11-9 金子ビル4階 電話: 03-3292-0314 FAX: 03-3292-3145 URL: https://www.sice.jp/
目的	本会は、計測、制御及びシステムに関する学術及び技術の進歩発達をはかり、文化の向上並びに産業の発展に寄与することを目的とする。(定款第3条)
事業	本会は、本会の目的を達成するために次の事業を行う。 (1) 研究集会、講演会及び教育・育成のための講習会等 (2) 調査・研究及び資料収集 (3) 技術者の資格認定・付与 (4) 啓発・普及のための体験活動等 (5) 表彰及びコンクール (6) その他の本会の目的を達成するための事業 本会の事業は日本全国及び必要に応じて海外において行うものとする。 (定款第4条)
会長・副会長	会長 : 佐藤 智典 (三菱電機) 副会長 : 大須賀公一 (大阪大学) : 三平 満司 (東京科学大学)
事務局長	事務局長 : 結城 義敬
設立	設立総会 : 1961年(昭和36年)9月30日 事業開始 : 1962年(昭和37年)1月1日
法人化	社団法人 : 1963年(昭和38年)~2010年(平成22年)9月30日 公益社団法人 : 2010年(平成22年)10月1日~
会員数 2024年12月31日 現在	正会員 : 3,622名 名誉会員 : 44名 准会員 : 24名 学生会員 : 414名 永年会員 : 158名 賛助会員 : 175社 : 220口

II. 2024 年度事業報告

1. はじめに

2024 年度の事業活動は、2024 年 3 月 18 日に開催された公益社団法人 計測自動制御学会 第 14 回定時社員総会で報告しました。「2024 年度事業計画」に従って実施されました。事業の実施結果について、理事会、各委員会・部門・支部関係の主なトピックスを中心に報告します。

2. 2024 年度事業計画

2024 年度の事業計画は、「SICE ミッションと事業計画（2024）」として策定し、2023 年 12 月 22 日開催の理事会で決議されました。この「SICE ミッションと事業計画（2024）」に基づき、各委員会、部門および支部が個別に 2024 年度事業計画を策定しました。

「SICE ミッションと事業計画（2024 年）」を以下に示します。

また、各委員会、部門および支部が策定しました事業計画については、本報告書のⅢ. 2024 年度事業報告附属明細書 1. 各組織の事業計画・実施報告（2024）を参照願います。

SICE ミッションと基幹事業

ミッションステートメント

計測・制御・システムの中核学会として、

- ① 諸分野を横断して知を究め、新しい価値を創造し、
- ② 関連分野・産官学のハブとなり、発信・連携することで、社会的課題の抽出・解決に貢献する。

学会基盤の強化：

本学会の根幹であるカンファレンス開催と論文出版を基盤とする学術活動を再強化する。更に、会員数減少等の環境変化に応じて財務構造と運営基盤を改革し、学会運営・事務局体制の効率化と、学会の魅力化・学会内連携の活性化の両立を進める。

社会貢献：

計測・制御・システムに関する学術及び技術の進歩発達を図り、文化の向上並びに産業の発展に寄与する。そのために、国内外の若手等の多様な人材を育成し、卓越した成果を創出し続ける場を構築するとともに、分野横断を推進し新たな価値を創造する。

国際貢献：

アジアそして世界に向けて、計測・制御・システム分野に関わる様々な知の交流の活性化を図るとともに、研究・技術成果を発信する。その施策として、Annual Conference(AC)開催や英文論文誌発行を進め、更に標準化の推進において国際的役割を果たす。

会員への貢献：

計測・制御・システムに関する会員の活動を支えるために、会員に対する情報提供、情報の発信・交換する場の提供、会員活動に対する表彰に取り組む。

学協会・産業界への貢献：

国内外の学協会および産業界との連携活動に参加するとともに交流を促進し、関連学術・技術分野の横断的な連携の強化に取り組む。

基幹事業

- ・ Annual Conference(AC)開催
- ・ 部門主催講演会、支部主催講演会等の開催
- ・ 部門・支部内各種事業および研究会活動
- ・ 各種セミナー・展示会・見学会開催
- ・ 関連国際会議、国内会議、展示会の共催・協賛
- ・ 国内外学協会・工業会等との連携
- ・ 学会誌、論文集発行
- ・ Web等による情報発信
- ・ 技術者教育と資格認定
- ・ 標準化活動
- ・ 各種学会賞贈呈
- ・ 産学連携
- ・ ダイバーシティ推進による若手・女性研究者の活動支援・活性化
- ・ その他

SICE 中期的課題と事業計画

2024 年度に理事会で策定された「SICE 中期的課題と事業計画」を以下に示します。

	中期的課題	事業計画	主担当組織	副担当組織	
学 会 基 盤 の 強 化	1. 講演会活動の充実	1.1 カンファレンス活動(AC、部門大会、部会研究会、支部大会等)の全体調整と見直し	カンファレンス委、部門、支部	総務委	
	2. 出版活動の充実	2.1 和文論文誌と英文論文誌の位置づけおよび編集方針の見直しによる投稿数拡大、和文論文誌のデジタル化	総務委、和英論文委	総務委	
		2.2 会誌のあり方の見直し、デジタル化の推進	総務委、会誌出版委	総務委	
	3. 組織間連携による学会活動の活性化	3.1 SICE2024 等における部門・支部・委員会連携企画	カンファレンス委、部門、支部	部門協、支部協	
		3.2 特定費用準備資金の有効活用	財務委	部門協、支部協	
		3.3 部門・支部のあり方についての検討	総務委	部門協、支部協	
	4. 学会運営のスリム化と効率化	4.1 理事会、直轄委員会、事務局運営業務のスリム化と効率化	総務委		
		4.2 ウェブ更新効率化による情報発信の促進	メンバー委	総務委、企画委	
	5. SICE の財務基盤の強化	5.1 年間収支のモニタリング・分析に基づく、予算立案プロセス改善と中長期施策の立案、デジタル化の影響の見極め	財務委	総務委	
	6. 継続事業とコンプライアンス	6.1 継続事業の着実な実施とコンプライアンスの順守	全組織		
		6.2 アフターコロナにおける新たな学会活動スタイルの推進	全組織		
	社 会 貢 献	7. Society 5.0、SDGs 等社会的課題への SICE の取り組み	7.1 部門・部会・支部活動の可視化、ウェブ発信	総務委、メンバー委	各部門、支部
			7.2 社会貢献を推進する表彰制度の実施	総務委、学会賞委	メンバー委
国 際 貢 献	8. SICE の国際性向上	8.1 AC を通じた SICE 国際プレゼンスのさらなる向上の志向(裾野の広がりと質の高さを両立する場の形成)	カンファレンス委	総務委	
		8.2 SICE が主催、共催する国際会議、および招聘/現地組織する国際会議(SICE 202x、IFAC、IMEKO、IEEE 関連行事)の開催支援	カンファレンス委	部門協、担当部門	
		8.3 英文論文集の国際的評価基準(Citation Index, Impact Factor)獲得へ向けた活動の継続	英文論文委	総務委	
		8.4 国際標準化活動の促進および表彰	インダストリー委	各部門、支部	
会 員 へ の 貢 献	9. 会員への情報発信と教育支援	9.1 AI, IoT, ビッグデータ等新しい技術に関する SICE 企画	メンバー委	インダストリー委	
		9.2 若手及び中堅会員への活動支援の実施	総務委	メンバー委	
		9.3 教材(理科、制御)の提供、進路相談ならびに資料の提供	メンバー委	総務委	
		9.4 高校生の SICE イベントへの参加、ジュニア会員の創設	メンバー委	総務委	
	10. 企業会員のための施策の強化	10.1 企業成果の効果的発信と論文発表形式の見直し	論文委、カンファレンス委、部門協	インダストリー委	
		10.2 賛助会員の困りごと・期待の調査	総務委	インダストリー委	
		10.3 AC/部門大会におけるチュートリアル活性化	カンファレンス委、部門協	メンバー委	
		10.4 地方活性化の検討(非会員地元企業との連携、など)	メンバー委、支部協	支部、カンファレンス委	
学 協 会 産 業 界 へ の 貢 献	11. 工業会との連携強化	11.1 他団体との連携セミナー企画	インダストリー委	メンバー委	
		11.2 ニューインダストリー分野(自動車・ロボット等)の企画推進	インダストリー委	部門協	
	12. 学協会との連携強化	12.1 IFAC2023 Industry Group 活動継承(Wagora 活動立ち上げ)	インダストリー委		
	13. ダイバーシティ推進	13.1 SICE Diversity and Inclusion Activity (SICE-DIA) の運営、啓蒙や情報発信の企画・実施	メンバー委	総務委	

3. 2024 年度の主要な活動

2024 年度の主要な活動を以下に紹介します。

(学会運営)

●第 14 回定時社員総会

新型コロナウイルス等感染症対策および参加者の便宜のため、会場およびオンラインのハイブリッド形式にて開催しました。

日付：2024 年 3 月 18 日

場所：上智大学四谷キャンパス 6 号館 2 階 201 室/Zoom によるハイブリッド開催

出席者：実参加 28 名、オンライン参加 28 名、計 56 名（事前議決権行使による出席者を含む）

議 題：7 件

議 案：4 件

●賛助会員懇談会

第 14 回定時社員総会時に併催しました。

●理事会

2024 年度は理事会運営規則に定められた 5 回の理事会を開催しました。

2024 年度第 1 回理事会（2024 年 3 月 18 日、ハイブリッド開催 上智大学四谷キャンパス）

2024 年度第 2 回理事会（2024 年 5 月 7 日、Web 開催 SICE 神田小川町事務局）

2024 年度第 3 回理事会（2024 年 8 月 27 日、ハイブリッド開催 高知工科大学永国寺キャンパス）

2024 年度第 4 回理事会（2024 年 12 月 23 日、Web 開催 SICE 神田小川町事務局）

（2024 年度第 5 回理事会は 2025 年 2 月 18 日 Web 開催 SICE 神田小川町事務局）

[2023 年度監事意見への 2024 年度の取組み成果]

(1) 事業：

IFAC2023 の Industry Group 活動をインダストリ委員会傘下の Wagora 活動として継続。企業会員向け事業としてエグゼクティブサロンを実施。

(2) 決算：

AC の FES 化などにより赤字予算を計画していたが、IFAC2023 および IROS2023 等の国際学会分配金収益が予想を大きく上回り、黒字決算（遊休財産積み増し）となった。

(3) 財政基盤強化・健全化：

昨年度と同様、過去のトレンドおよび当該年度の状況に基づくガイドラインを設定し、2025 年度予算を策定した。

(4) パブリケーション/カンファレンス/メンバーアクティビティ：

パブリケーション：会誌および和文論文集の完全電子化の準備を推進した。

カンファレンス：AC の更なる活性化（裾野の広がり と 質の高さの両立）を目指して、SICE Festival 2024 with Annual Conference を高知にて開催した。

メンバーアクティビティ：アウトソーシングおよびダイバーシティに関する活動を推進した。

(5) 将来を見据えた取り組み：

学会運営のスリム化と効率化のため、拡大理事ワークショップにて運営の柔軟化に関する意見交換を実施。アウトソーシングや DX を含めた対応を継続検討する。

(研究集会、講演会及び教育・育成のための講習会等)

●The SICE Festival 2024 with Annual Conference (SICE FES 2024)

期間：2024年8月27日～30日

場所：高知工科大学永国寺キャンパス、高知県立県民文化ホール/Zoomによるオンライン

参加者：647名（台風による参加見合わせを含む）
うち海外13か国/地域46名：中国、台湾、韓国、タイ、イタリア、インド、チェコ、アメリカ、イギリス、オランダ、シンガポール、ドイツ、トルコ



●第67回自動制御連合講演会

期間：2024年11月23日～24日

場所：姫路商工会議所

参加者：583名（一般会員276名、一般非会員23名、学生会員122名、学生非会員157名、その他5名）

講演件数：口頭発表件数 340件（OS 176件、一般セッション164件）

セッション数：全体セッション数51件（OS数21、一般セッション数30）

●部門大会

計測部門：第41回センシングフォーラム 計測部門大会

（2024年9月12日～13日、長崎大学文教キャンパス）

制御部門：第11回制御部門マルチシンポジウム（2024年3月17日～20日、広島大学東広島キャンパス）

システム・情報部門：システム・情報部門学術講演会2024（2024年11月13日～15日、富山県民会館）

システムインテグレーション部門：第25回システムインテグレーション部門講演会（2024年12月18日～20日、いわて県民情報交流センターアイーナ）

産業応用部門：産業応用部門2024年度大会（2024年11月20日、法政大学小金井キャンパス）

ライフエンジニアリング部門：ライフエンジニアリング部門シンポジウム2024（2024年8月29日～30日（30日は台風の影響により中止）、大阪電気通信大学寝屋川キャンパス）

●安全のための計測・制御・システムを考える会

内容：東日本大震災以降、近年惹起されるインフラ・産業設備などの重大事故におけるオートメーションのあり方を、産業界の事故や災害の教訓に基づく帰納法的アプローチと、学界の理論に基づく演繹的アプローチの両面から検討することを目的に、講師を招いて学会内でサロン形式の討論会を実施。（ハイブリッド開催）

実施：1月30日、5月29日、6月11日、7月16日

参加者：約20名/回

●プロセス塾（プロセス新塾）

内容：現場に精通したプロセス制御関連技術者を育成することを目標に、2006年から3年間、2010年から3年間ずつ、5期実施（延べ約500名受講）。現在はプロセス新塾 - 考究Ⅱを2022年から3年間実施。プロセス新塾は、日本工学会のECEプログラムの認定を受けている。

塾長：本多 敏 慶応義塾大学名誉教授

期間：（実開催オンライン開催併用）

2024年10月11日~12日、11月8日、12月6日

2025年2月7日、2月28日、3月7日、4月11日、5月16日

受講者：2024年度=17名



（技術者の資格認定・付与）

●計測制御エンジニア資格審査
新制度検討中

●ECEプログラム（日本工学会）修了審査
2023年度プロセス新塾修了認定 22名

（啓発・普及のための体験活動等）

●SICE-DIA: SICE Diversity and Inclusion Activity

内容：ダイバーシティ推進機関としてSICE Diversity and Inclusion Activity(SICE-DIA)運営会議を設立した。

アウトリーチ活動：

SICE ジュニア（2024年5月18日、8月28日）

女子中高生夏の学校参加：（8月11日）

SSH：Super Science High School（外部機関は実施無）

Girls in Control(共催)（8月28日、12月1日）

SICEFES2024企画（8月28日~8月30日・高知工科大学・来場者約50名）

講演2件 Magnus Egerstedt 教授（カリフォルニア大学アーバイン校, IEEE CSS 会長）

Zhixin Liu 教授（中国科学院大学）

Luncheon Session（8月29日・高知工科大学・参加約30名）

Poster（来場者約50名）



●女子中高生夏の学校（システム制御情報学会（ISCIE）と連携）

内容：中高生対象に実習とポスター掲示（どちらも11日）を行った

期間：2024年8月10日~12日

場所：国立女性教育会館



●スーパーサイエンスハイスクール生徒研究発表会（SSH）（システム制御情報学会（ISCIE）と連携）

昨年に続き発表会は開催されたが団体、学会などによる展示は見送りとなった

(その他本会の目的を達成するための事業)

●SICE エグゼクティブサロン

内容： 賛助会員を中心とする企業の経営層を対象に、先進技術のトレンドを探り、異業種の経営者との交流を通じて学びや気づきを深める場を提供することを目的とする。

第1回：実施： 2024年6月3日

講師： 石川正俊氏(東京理科大学)

テーマ：課題解決型では日本は救えない

会場：LEVEL XXI (レベル 21) 東京會館

第2回：実施： 2025年1月22日 (2024年度事業として実施)

講師： 榎木哲夫氏(京都大学)

テーマ：大学におけるグローバル戦略と高度人材育成ならびにリスク管理について

会場：LEVEL XXI (レベル 21) 東京會館



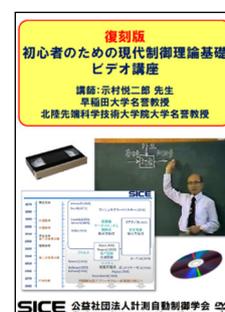
第1回



第2回

●復刻版 初心者のための現代制御理論ビデオ講座の頒布

1985年に刊行した同ビデオ講座 (VHS、ベータ全8巻) をDVD4枚組復刻版として2016年2月より頒布を開始。2024年12月末現在で、112本頒布。



(国際化の推進)

SICE 主催の国際大会

●The SICE Festival 2024 with Annual Conference (SICE FES 2024)

期間：2024年8月27日～30日

場所：高知工科大学永国寺キャンパス、高知県立県民文化ホール/Zoomによるオンライン

参加者：647名（うち海外より46名）

- Plenary Talk I: Century of light” pioneered by invisible light
Prof. Takeshi Yasui (Institute of Post-LED Photonics (pLED), Tokushima University, Japan)
- Plenary Talk II: Mutualistic Interactions in Heterogeneous Multi-Robot Systems
Prof. Magnus Egerstedt (University of California, Irvine / President of IEEE CSS, USA)
- Plenary Talk III: Integration of data-driven and model-based approaches via latent variables
Prof. Takehisa Yairi (The University of Tokyo, Japan)
- JEMIMA Industrial Special Talk: Cybersecurity for Industrial Automation and Control System - challenge of ISA/IEC 62443
Mr. Eric C. Cosman (ISA Life Fellow and 2020 Past President, USA)
- SICE FES 特別講演：知っています，人類が，
ヨビノリたくみ氏
- SICE FES 2024 OS FES#1：知の饗宴1：次世代の研究者が育ち，持続的に発展する研究と社会のあり方とは
オーガナイザー：奥田悠太氏（株式会社 LabBase）
- SICE FES 2024 OS FES#2：知の饗宴2：物理と数学を結ぶ計測と制御：Kitamorism
—単なる数学の応用と工学との違いをみつけよう—
オーガナイザー：大須賀公一氏（大阪大学），足立修一氏（慶應義塾大学）
- SICE FES 2024 OS FES#3：知の饗宴3：制御理論の未来への橋渡し
オーガナイザー：岡 宏一氏（高知県立大学）
- SICE FES 2024 OS FES#4：知の饗宴4：制御学を哲学してみる？
オーガナイザー：足立修一氏（慶應義塾大学）、大須賀公一氏（大阪大学）
講演：岩内章太郎氏（豊橋技術科学大学）

海外学協会との積極的な交流、連携を推進

●SII 2024 (The 16th IEEE/SICE International Symposium on System Integration)

期間：2024年1月8日～11日

場所：ベトナム・ハロン

SICE International Young Authors Award (SIYA) の贈賞



●ECTI-CON 2024 (The 21st International conference on Electrical Engineering/Electronics, Computer, Telecommunications and Information Technologies)

期間：2024年5月27日～30日

場所：タイ・コーンケー



●CCC 2024 (The 43rd Chinese Control Conference)

期間：2024年7月28日～31日

場所：中国・昆明市



●IROS 2024 (The 2024 IEEE/RSJ International Conference on Intelligent Robots and Systems)

(知能ロボットとシステムに関する世界最大規模の国際会議)

期間：2024年10月14日～18日

場所：アブダビ・アラブ首長国連邦

SICE International Young Authors Award (SIYA) の贈賞



●ICCAS 2024 (The 24th International Conference on Control, Automation and Systems)

期間：2024年10月29日～11月1日

場所：韓国・済州島



●CACS 2024 (2024 International Automatic Control Conference)

期間：2024年10月31日～11月3日

場所：台湾・桃園市



●IECON 2024 (The 50th Annual Conference of the IEEE Industrial Electronics Society (IES))

期間：2024年11月3日～6日

場所：アメリカ合衆国・シカゴ



●ICC-10 (The 2024 10th Indian Control Conference)

期間：2024年12月9日～11日

場所：インド・ボーパール



●CDC 2024 (The 63rd IEEE Conference on Decision and Control)

期間：2024年12月16日～19日

場所：イタリア・ミラノ

SICE International Young Authors Award (SIYA) の贈賞



4. 役員と業務執行体制

2024年度の業務は、業務執行理事が会務を分担して行い、理事会がその監督を行うという枠組みで執行されています。2024年度の理事会は、理事22名（会長・副会長を含む）、非業務執行理事1名、監事3名で構成されました。定款により会長1名、副会長2名を置くことが定められていますので、会長には佐藤智典、副会長には大須賀公一、三平満司が就くことが、2024年3月18日に開催された理事会で決められました。またそれ以外の理事の担当会務（委員会等）についても、同理事会で以下の通り決められました。

役員 ^{注1}	担当会務	氏名	所属
会長	本会を代表し総理する	佐藤 智典	三菱電機(株)
副会長	企画 (総務、財務、AC、国際、 事業推進連携、教育・認定、 会員サービスを統括)	大須賀 公一	大阪大学
副会長	学会賞 (論文集、会誌出版、 部門協、支部協を統括)	三平 満司	東京科学大学
常務理事	総 務	杉江 弘	三菱電機(株)
常務理事	総 務	坂東 麻衣	九州大学
常務理事	財 務	黒崎 淳	アズビル(株)
常務理事	財 務	小倉 秀樹	産業技術総合研究所
常務理事	会誌出版	山下 智輝	(株)前川製作所
理事	会誌出版	小木曾 公尚	電気通信大学
常務理事	和文論文集	河村 隆	信州大学
理事	英文論文集	永原 正章	広島大学
常務理事	カンファレンス	野田 哲男	大阪工業大学
常務理事	カンファレンス	申 鉄龍	上智大学
理事	カンファレンス	佐々木 毅	芝浦工業大学
常務理事	インダストリ	手塚 信一郎	横河電機(株)
常務理事	メンバー	村山 大	東芝エネルギーシステムズ(株)
理事	メンバー	小野 功	東京科学大学
常務理事	部門協議会	倉橋 節也	筑波大学
理事	部門協議会	榊原 一紀	富山県立大学
常務理事	支部協議会	市村 匠	県立広島大学
理事	支部協議会	池田 篤俊	近畿大学
理事	～	Hieyong Jeong ^{注2}	Chonnam National University
監事		大原 賢一	名城大学
監事		本間 経康	東北大学
監事		佐野 恵美子	(株)クボタ

注1：役員は全員非常勤

注2：非業務執行理事

5. 委員会・部門・支部

定款の定めと理事会の決議に従い、2024年度は以下に示す委員会で活動が行われました。

委員会	役職	氏名	所属
総務委員会	委員長	杉江 弘	三菱電機(株)
財務委員会	委員長	黒崎 淳	アズビル(株)
企画委員会	委員長	大須賀 公一	大阪大学
学会賞委員会	委員長	三平 満司	東京科学大学
会誌出版委員会	委員長	山下 智輝	(株)前川製作所
和文論文集委員会	委員長	河村 隆	信州大学
英文論文集委員会	委員長	永原 正章	広島大学
カンファレンス委員会	委員長	野田 哲男	大阪工業大学
インダストリ委員会	委員長	佐藤 智典	三菱電機(株)
メンバー委員会	委員長	村山 大	東芝エネルギーシステムズ(株)
部門協議会	議長	倉橋 節也	筑波大学
支部協議会	議長	市村 匠	県立広島大学
倫理委員会	委員長	新井 弘志	元アズビル(株)
候補者推薦委員会	委員長	藤田 政之	金沢工業大学
選挙管理委員会	委員長	山澤 一彰	産業技術総合研究所

2024年度の部門運営は、以下の部門長の下、従来通り6部門体制で行われました。

部門	氏名	所属
計測部門	大串 浩司	産業技術総合研究所
制御部門	中川 繁政	日鉄テックスエンジ(株)
システム・情報部門	飯間 等	京都工芸繊維大学
システムインテグレーション部門	平田 泰久	東北大学
産業応用部門	吉満 俊拓	神奈川工科大学
ライフエンジニアリング部門	中川 誠司	千葉大学

また、部門ごとに、以下の部会・調査研究会が設置されています。

計測部門			
センシングフォーラム委員会	委員長	奈良 高明	東京大学
温度計測部会	主査	相沢 宏明	東洋大学
力学量計測部会	主査	松渕 広一	ザルトリウス・ジャパン(株)
パターン計測部会	主査	長谷川 圭介	埼玉大学
先端電子計測部会	主査	川越 順	日本電気計器検定所
スマートセンシングシステム部会	主査	川喜田 佑介	神奈川工科大学
計測における逆問題部会	主査	奈良 高明	東京大学

制御部門			
制御技術部会	主査	加納 学	京都大学
制御理論部会	主査	滑川 徹	慶應義塾大学
プラントモデリング部会	主査	西田 豪	日本大学
次世代航法誘導制御技術調査研究会	主査	濱田 吉郎	宇宙航空研究開発機構
Society5.0 に資する適応学習制御調査研究会	主査	佐藤 孝雄	兵庫県立大学
ダイナミクスを活用した機械学習による制御理論の革新調査研究会	主査	福永 修一	東京都立産業技術高等専門学校
人の理解/誘導で強化される制御システム調査研究会	主査	井上 正樹	慶應義塾大学
データ・モデル駆動融合による先端的流体・気象制御調査研究会	主査	野々村 拓	名古屋大学
実学界で踊る現場制御理論調査研究会	主査	西村 悠樹	鹿児島大学
システム・情報部門			
システム工学部会	主査	中村 啓太	札幌大学
知能工学部会	主査	田川 聖治	近畿大学
自律分散システム部会	主査	千葉 龍介	旭川医科大学
コンピューテーショナル・インテリジェンス部会	主査	森 禎弘	京都工芸繊維大学
社会システム部会	主査	喜多 一	京都大学
境界と関係性を視座とするシステムズアプローチ調査研究会	主査	黒江 康明	京都工芸繊維大学
サイバーフィジカルシステムとしてのシステムオブシステムズ調査研究会	主査	高橋 真吾	早稲田大学
システムインテグレーション部門			
メカトロニクスシステム部会	主査	矢代 大祐	三重大学
自動化システム部会	主査	相山 康道	筑波大学
ロボティクス部会	主査	島 圭介	横浜国立大学
福祉工学部会	主査	谷口 浩成	大阪工業大学
レスキュー工学部会	主査	昆陽 雅司	東北大学
ユニバーサルデザイン応用システム部会	主査	河原崎 徳之	神奈川工科大学
共創システム部会	主査	野澤 孝之	富山大学
ロボット・セラピー部会	主査	下田 篤	千葉工業大学
安心安全システム部会	主査	梅谷 智弘	甲南大学
バイオシステム部会	主査	伊藤 博道	神戸大学
RT システムインテグレーション部会	主査	高橋 三郎	パナソニックアドバンステクノロジー(株)
ソフトマテリアル応用部会	主査	舛屋 賢	宮崎大学
医工融合システム部会	主査	岩田 浩康	早稲田大学
触覚部会	主査	佐藤 克成	奈良女子大学
バイオメタリックマシン部会	主査	野中 摂護	津山工業高等専門学校
空間知部会	主査	新妻 実保子	中央大学
フィールドロボティクス部会	主査	竹囲 年延	弘前大学
スワームシステム部会	主査	関山 浩介	名城大学
天体観測技術部会	主査	栗田 光樹夫	京都大学
マニピュレーション部会	主査	田原 健二	九州大学

システムインテグレーション学理部 会	主査	野田 哲男	大阪工業大学
産業応用部門			
計装技術交流部会	主査	日下 一正	三菱ケミカル(株)
流体計測制御部会	主査	藤田 壽憲	東京電機大学
産業ネットワーク・システム部会	主査	新井 貴之	横河電機(株)
計測制御エンジニア会 (休会)	総代	木村 政仁	日本計測工業(株)
ライフエンジニアリング部門			
統合情報生物工学部会	主査	浅井 義之	山口大学
電気生理運動学部会	主査	渡邊 航平	中京大学
ユビキタスヘルスケア部会	主査	今泉 一哉	東京医療保健大学
生体・生理工学部会	主査	芥川 正武	徳島大学

2024年度の支部運営は、以下の支部長の下、従来通り8支部体制で行われました。

支部	氏名	所属
北海道支部	鈴木 昭二	公立ほこだて未来大学
東北支部	張山 昌論	東北大学
中部支部	河野 慎司	(株)J-QuAD DYNAMICS
北陸支部	平田 研二	富山大学
関西支部	藤崎 泰正	大阪大学
中国支部	香川 直己	福山大学
四国支部	池田 建司	徳島大学
九州支部	八野 知博	鹿児島大学

また、部門協議会直下に、以下の技術専門委員会・WGが設置され、活動が行われました。

委員会・WG名	役職	氏名	所属
人新世のシステム学技術専門委員会	委員長	黒江 康明	京都工芸繊維大学
自動車制御とモデリング研究技術専門委員会	委員長	安井 裕司	(株)本田技術研究所
クリフォード代数の情報表現能力とその応用 WG	主査	橘 完太	工学院大学
不便益システムWG	主査	川上 浩司	京都先端科学大学

6. 2025～26年度代議員

定款及び本会の規程の定めにより、SICEの代議員は2年に1度、1月に行われる代議員選挙により選出されることになっており、2025年1月が代議員改選の時に当たりました。

そこで2024年度中に、理事会において次期代議員の定数を78名、補欠を2名と定め、2024年度選挙管理委員会（委員長：山澤 一彰）が代議員選挙の候補者の募集を行い、2024年度候補者推薦委員会（委員長：藤田 政之）により候補者名簿が作成されました。その後、2024年度選挙管理委員会により2025年1月17日に投票の告示が行われ、1月27日に投票を締め切り、開票の結果、以下の代議員、および補欠が選出されました。

2025～26年度代議員

番号	氏名	所属
1	青山 忠義	名古屋大学
2	安 琪	東京大学
3	石井 秀明	東京大学
4	泉 清高	佐賀大学
5	市村 匠	県立広島大学
6	伊藤 章	愛知工業大学
7	伊藤 義道	大阪電気通信大学
8	入部 正継	大阪電気通信大学
9	梅谷 智弘	甲南大学
10	梅本 和希	福井大学
11	江口 純一	(一社)日本電気計測器工業会
12	大谷 幸三	広島工業大学
13	大塚 翔	千葉大学
14	岡島 寛	熊本大学
15	岡田 伸廣	北九州市立大学
16	岡部 基彦	東芝インフラシステムズ(株)
17	小口 俊樹	東京都立大学
18	梶原 秀一	室蘭工業大学
19	金田 さやか	大阪公立大学
20	神永 拓	産業技術総合研究所
21	河合 宏之	金沢工業大学
22	河村 隆	信州大学
23	北田 宏	日本製鉄(株)
24	沓澤 京	東北大学
25	倉重 健太郎	室蘭工業大学
26	倉橋 節也	筑波大学
27	栗田 雄一	広島大学
28	黒崎 淳	アズビル(株)
29	伍賀 正典	福山大学
30	後藤 聡	佐賀大学
31	後藤 裕介	芝浦工業大学
32	小林 孝一	北海道大学
33	佐藤 世智	宇宙航空研究開発機構
34	佐藤 浩	防衛大学校
35	佐野 明人	名古屋工業大学
36	佐野 恵美子	(株)クボタ
37	塩澤 成弘	立命館大学
38	朱 俊方	産業技術総合研究所
39	菅原 雄介	東京科学大学

番号	氏名	所属
40	杉江 弘	三菱電機(株)
41	須藤 秀紹	近畿大学
42	関口 和真	京都市大学
43	高木 真人	(公社)日本工学会
44	高柳 洋一	東芝インフラシステムズ(株)
45	瀧 千波	摂南大学
46	田中 仁章	横河電機(株)
47	谷口 浩成	大阪工業大学
48	鄭 心知	京都高度技術研究所
49	辻 徳生	金沢大学
50	土谷 圭央	香川大学
51	椿野 大輔	名古屋大学
52	中川 誠司	千葉大学
53	中島 翔太	山口大学
54	永田 裕一	徳島大学
55	中村 壮亮	法政大学
56	難波江 裕之	東京科学大学
57	成瀬 継太郎	会津大学
58	西尾 唯	本田技研工業(株)
59	西口 純也	アズビル(株)
60	西村 悠樹	鹿児島大学
61	花島 直彦	室蘭工業大学
62	早川 健	中央大学
63	坂東 麻衣	九州大学
64	福井 善朗	九州工業大学
65	藤井 千枝子	慶應義塾大学
66	藤原 幸広	(株)本田技術研究所
67	穆 盛林	愛媛大学
68	細江 陽平	京都大学
69	榊田 温子	弓削商船高等専門学校
70	丸田 一郎	京都大学
71	宮田 喜久子	名城大学
72	村山 大	東芝エネルギーシステムズ(株)
73	保田 俊行	富山大学
74	矢田 紀子	千葉大学
75	山本 知生	産業技術総合研究所
76	米陀 佳祐	金沢大学
77	和田 孝之	大阪大学
78	和田 光代	大阪大学

(任期は2027年1月実施の代議員選挙終了時まで)

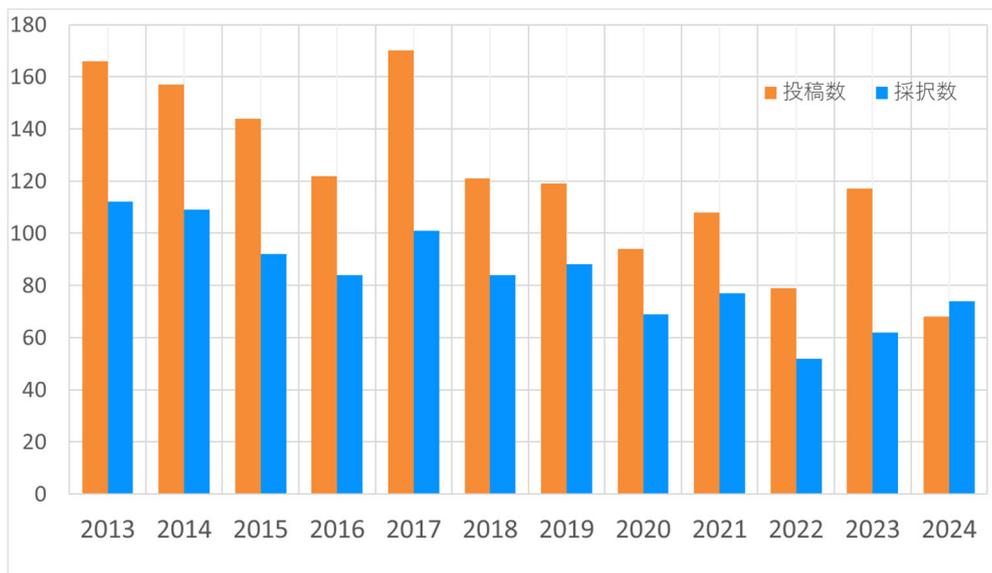
補欠代議員 (補欠候補順)

番号	氏名	所属
1	藤田 政之	金沢工業大学
2	結城 義敬	(公社)計測自動制御学会

7. 事業実績データ

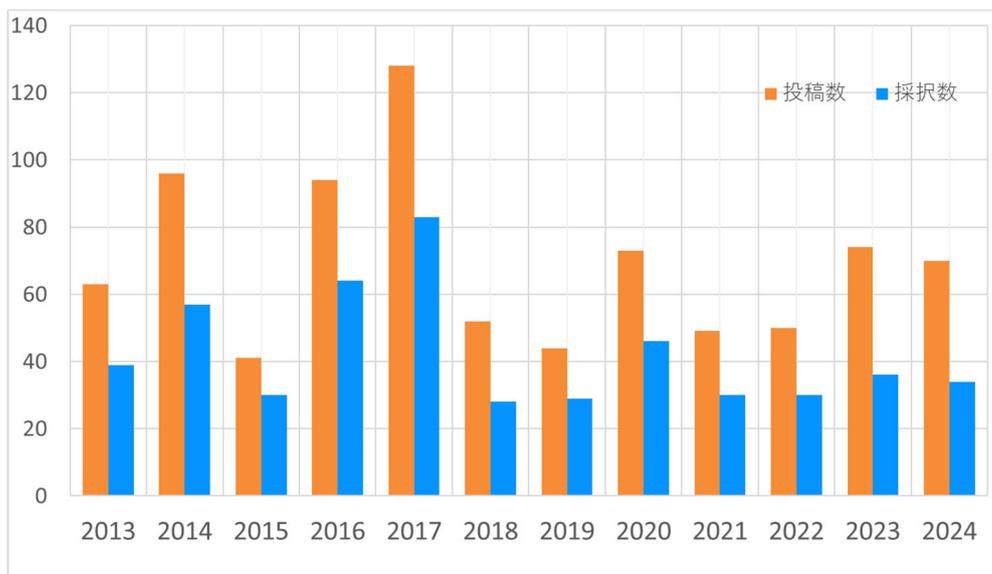
(1) 出版関係（論文集・会誌）

和文論文集の分投稿数、別採択数についての推移を示します。2023年度の投稿数が多かったことから採択数が増加しましたが投稿数は減少しました。



和文論文集の投稿数・採択数等の推移

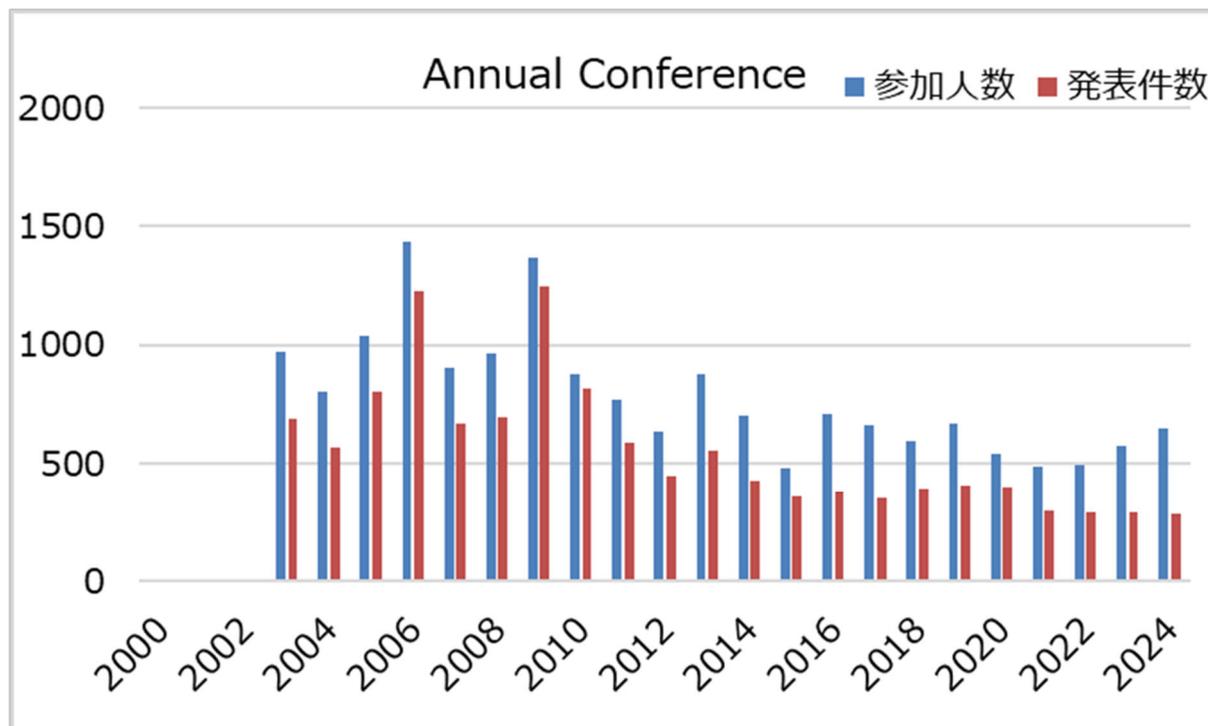
英文論文集の投稿数と採択数の推移を示します。2024年度はWeb of ScienceのCitation Indexを取得し、投稿数は堅調、採択数はやや減少しました。



英論の投稿数・採択数の推移

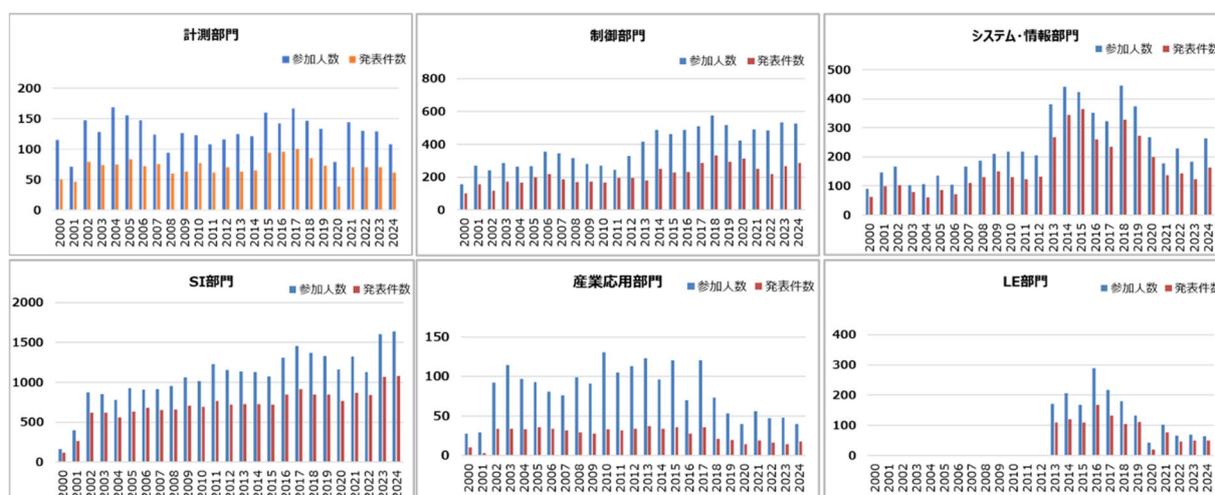
(2) 学術会議関係

SICE Annual Conference の参加者数と発表件数の推移を示します。Joint Conference であった2006年（SICE-ICCAS 2006）と2009年（ICCAS-SICE 2009）を除くと、会員減少と新型コロナウイルス禍の影響により参加者数が低迷していましたが、2023年から実開催+オンラインのハイブリッド開催を行い、参加者数、発表数とも回復しました。さらに2024年度は大会名称をSICE Festival with Annual Conference に改め、参加者数がさらに増加しました。



Annual Conference 参加者数・発表件数の推移

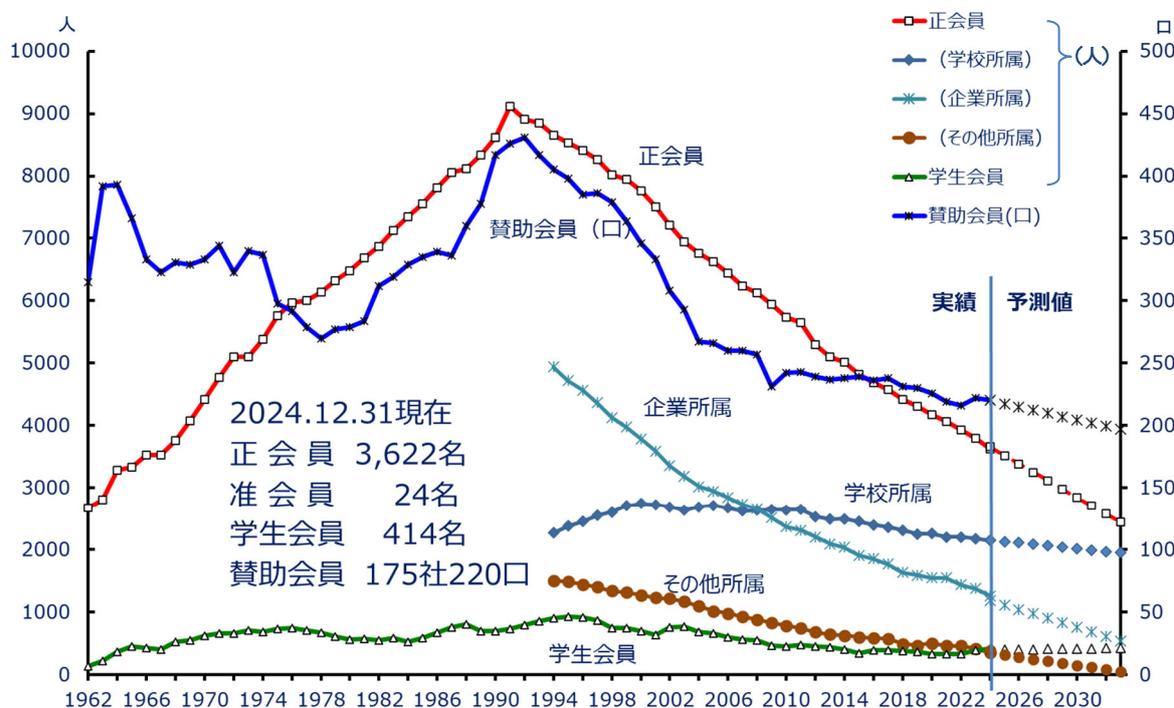
- 部門大会の参加者数と発表件数の推移を示します。システム部門、SI部門、制御部門は参加者数、発表件数とも増加傾向です。計測部門、産業応用部門、LE部門は減少傾向です。



部門大会参加者数と発表件数の推移

(3) 会員数の推移

会員属性ごとの人数の推移を示します。正会員全体は減少し続けており、特に企業会員の減少に連動しています。賛助会員数は久しぶりに増加、学校関係の会員数もやや減少しています。



会員数の推移

	2024 年末現在	2023 年末現在	増減
正会員	3,622 名	3,791 名	▲169 名
名誉会員	44 名	42 名	2 名
准会員	24 名	27 名	▲3 名
学生会員	414 名	396 名	28 名
永年会員	158 名	155 名	3 名
賛助会員	175 社 (220 口)	176 社 (222 口)	▲1 社 (▲2 口)

Ⅲ. 2024 年度事業報告付属明細書

1. 各組織の事業計画・実施報告

各委員会、部門、支部が策定した「2024 年度事業計画・実施報告」を以下に示します。
(現役職で作成)

番号	組織名	担当理事、部門長、支部長
01	総務委員会	業務執行理事 杉江委員長、坂東副委員長
02	財務委員会	業務執行理事 黒崎委員長、小倉副委員長
03	企画委員会	業務執行理事 大須賀委員長、杉江副委員長
04	学会賞委員会	業務執行理事 三平委員長
10	会誌出版委員会	業務執行理事 山下委員長・小木曾副委員長
11	和文論文集委員会	業務執行理事 河村委員長、永原副委員長
12	英文論文集委員会	業務執行理事 永原委員長、河村副委員長
13	カンファレンス委員会	業務執行理事 野田委員長、申副委員長、佐々木副委員長
14	インダストリ委員会	業務執行理事 佐藤委員長、手塚副委員長
15	メンバー委員会	業務執行理事 村山委員長、小野副委員長
30	部門協議会	倉橋議長、榊原副議長
31	計測部門	大串部門長
32	制御部門	中川（繁）部門長
33	システム・情報部門	飯間部門長
34	システムインテグレーション部門	平田（泰）部門長
35	産業応用部門	吉満部門長
36	ライフエンジニアリング部門	中川部門長
50	支部協議会	市村議長、池田（篤）副議長
51	北海道支部	鈴木支部長
52	東北支部	張山支部長
53	中部支部	河野支部長
54	北陸支部	平田（研）支部長
55	関西支部	藤崎支部長
56	中国支部	香川支部長
57	四国支部	池田（建）支部長
58	九州支部	八野支部長

2024 年度事業計画・実施報告

組織名	総務委員会	担当	杉江委員長、坂東副委員長
-----	-------	----	--------------

2024 年度事業計画（本組織担当分）
1) SICE の活動状況の把握及び短期的な計画の議論や意思決定(8,9,10,12,13) 2) 委員会活動、部門活動、支部活動の把握による学会活動の活性化(10,11,13) 3) 理事会・社員総会の適切な運営(4) 4) 事務局のマネジメント・事務局機能の強化(4) 5) 継続事業の合理化・デジタル化・アーカイブ化及び必要な事業の着実な実施とコンプライアンスの遵守(5,6) 6) 会長・副会長の補佐及び他学協会との連携窓口(4,5)

2024 年度事業計画	2024 年度実施結果
<p>●1～6 月</p> <p>1) SICE の活動状況の把握及び短期的な計画の議論や意思決定 財務、出版、会議開催（カンファレンス）の状況を適宜把握し、短期的な計画の議論や意思決定を総務委員会にて行う。 判断を行う上で財務的な影響に重点を置き、判断根拠となる将来予測に必要なデータの集積を行う。</p> <p>2) 委員会活動、部門活動、支部活動の把握による学会活動の活性化 各委員会の理事等とのテーマを設定した議論、部門協議会への出席、支部協議会への総務理事の出席等を通して委員会活動、部門活動、支部活動を把握し、SICE 内の活動の活性化を図るとともに、部門支部のあり方について検討する。 上期については、特に組織改編した委員会の立ち上がり状況をモニタし、必要に応じた支援を行う。</p> <p>3) 理事会・社員総会の適切な運営 上記の 1) 2) の議論を踏まえ、理事会において重要な経営判断ができるよう、効率的に、かつ適切に運営を行う。3 月に開催される社員総会を適切に運営する。</p> <p>4) 事務局のマネジメント・事務局機能の強化 ・事務局員に対するフォロー ・シニア職員退職に伴う事務局員の業務分担及び業務量の適性化 ・事務局員とのコミュニケーション向上</p> <p>5) 継続事業の合理化・デジタル化・アーカイブ化及び必要な事業の着実な実施とコンプライアンスの遵守 2023 年度に総務委員会の傘下に構成したデジタル化 TF の活動を通じて、会誌・和文論文誌のデジタル化を推進する。また、Industry 委員会／メンバー委員会／SICE-DIA の活動と連携す</p>	<p>●1～6 月</p> <p>1) SICE の活動状況の把握及び短期的な計画の議論や意思決定 ・総務委員会を下記日程で開催 1/17, 2/14, 4/24, 5/13, 6.17 ・総務委員会引継ぎ会議(4/1)を開催し、SICE の課題（会誌等電子化、AC の活性化=FES、ダイバーシティ推進など）</p> <p>2) 委員会活動、部門活動、支部活動の把握による学会活動の活性化 ・部門協議会(4/8)、支部協議会(4/2)に出席部門と支部間の連携強化のための合同会議については、目的の明確化が必要との意見があり、開催の可否を検討中。 ・昨年同様、財務委員会にて各部門と各支部に対する要望ヒアリングを実施し、結果を総務委員会(7/8)、部門協議会(7/10)、支部協議会(7/17)にて報告</p> <p>3) 理事会・社員総会の適切な運営 ・3/18 に定時社員総会、学会賞表彰式及び第 1 回理事会を開催(12 月開催の大規模行事=SI 部門大会を決算に織込むため、開催を例年の 2 月から 3 月に変更) ・第 2 回理事会を 5/7 に開催</p> <p>4) 事務局のマネジメント・事務局機能の強化 ・上期職員面談を実施 ・事務局長後任および定年退職予定職員後任の募集を開始 ・定年延長に関する議論に着手。</p> <p>5) 継続事業の合理化・デジタル化・アーカイブ化及び必要な事業の着実な実施とコンプライアンスの遵守 ・会誌と和論のデジタル化に向けた電子化準備委員会を開催(3/7, 4/22, 6/28) ・賛助会員（産業界の経営層）向けの新たなサービスとして第 1 回 SICE エグゼクティブサロンを</p>

ることで、SICE 内の各種活動の把握を通して活動の合理化を行う。活動の実績が失われることなくアクセス可能とするためにデジタル化・アーカイブ化を進める。全ての活動においてコンプライアンスを遵守する。

**6) 会長・副会長の補佐及び他学協会との連携
窓口**

会長・副会長の補佐を行う。他学協会との連携の際の窓口を務める。

開催(6/3)。内容は石川元会長による独創的研究開発に関する講演。

・ SICE FES 2024(高知)にて託児サービスの実施を決定

**6) 会長・副会長の補佐及び他学協会との連携窓
口**

・ 5/25 に ISCIE 連絡会議を実施

・ 5/29 にタイ ECTI-CON にて前会長がキーノートスピーチ（オンライン）を実施

2024 年度事業計画	2024 年度実施結果
<p>●7～12 月</p> <p>1) SICE の活動状況の把握及び短期的な計画の議論や意思決定 財務、出版、会議開催（カンファレンス）の状況を適宜把握し、短期的な計画の議論や意思決定を総務委員会にて行う。 判断を行う上で財務的な影響に重点を置き、判断根拠となる将来予測に必要なデータの集積を行う。</p> <p>2) 委員会活動、部門活動、支部活動の把握による学会活動の活性化 各委員会の理事等とのテーマを設定した議論、部門協議会への出席、支部協議会への総務理事の出席等を通して委員会活動、部門活動、支部活動を把握する。必要に応じて規程改正の共同提案等を行い、SICE 内の活動の活性化を図る。 上期については、特に組織改編した委員会の立ち上がり状況をモニタし、必要に応じた支援を行う。</p> <p>3) 理事会・社員総会の適切な運営 上記の 1) 2) の議論を踏まえ、理事会において重要な経営判断ができるよう、効率的に、かつ適切に運営を行う。3 月に開催される社員総会を適切に運営する。</p> <p>4) 事務局のマネジメント・事務局機能の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局員に対するフォロー ・事務局員の業務分担及び業務量の適性化 ・事務局員とのコミュニケーション向上 <p>5) 継続事業の合理化・デジタル化・アーカイブ化及び必要な事業の着実な実施とコンプライアンスの遵守 2023 年度に総務委員会の傘下に構成したデジタル化 TF の活動を通じて、会誌・和文論文誌のデジタル化を推進する。また、Industry 委員会／メンバー委員会／SICE-DIA の活動と連携することで、SICE 内の各種活動の把握を通して活動の合理化を行う。活動の実績が失われることなくアクセス可能とするためにデジタル化・アーカイブ化を進める。精査の結果、必要な事業については着実な実施をする。全ての活動においてコンプライアンスを遵守する。</p> <p>6) 会長・副会長の補佐及び他学協会との連携窓口 会長・副会長の補佐を行う。他学協会との連携の際の窓口を務める。</p>	<p>●7～12 月</p> <p>1) SICE の活動状況の把握及び短期的な計画の議論や意思決定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総務委員会開催（7/8、8/21、9/18、10/7、11/23、12/17） ・八役予算編成会議にて 24 年度決算、25 年度予算について確認（12/9）【財務委員会】 ・SICE FES 2024 開催（8/28-30）。【インダストリ委員会】JEMIMA 特別講演、パネルセッション 2 件、Industry OS 2 件を企画 ・IFAC2023 の Industry Group 活動を”Wagora”の名称でインダストリ委員会にて緩やかに継承 <p>2) 委員会活動、部門活動、支部活動の把握による学会活動の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インダストリ委員会に参加し状況を把握（8/23、12/9） ・部門協議会に参加し状況を把握（7/16、10/4） ・支部協議会にて状況を把握（7/17、10/2） <p>3) 理事会・社員総会の適切な運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第 3 回理事会（8/27）、第 4 回理事会(12/23)を開催。 <p>4) 事務局のマネジメント・事務局機能の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会誌編集の外部委託化により事務負担を軽減 ・職員給与、賞与、契約について審議 ・事務局員と会長との面談を実施(8/16) <p>5) 継続事業の合理化・デジタル化・アーカイブ化及び必要な事業の着実な実施とコンプライアンスの遵守</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電子化準備委員会にて会誌および和文論文誌のデジタル化について議論し電子化案を作成（7/26）。拡大理事ワークショップにて電子化案に対する意見を聴取（8/26）。会誌 11 月号にて電子化案の概要を会員に提示。 ・拡大理事ワークショップにて運営の柔軟化について議論(8/26-27)。その中で DX ツールの導入についても検討。 ・第 2 回 SICE エグゼクティブサロンとして榎木元会長の講演会を企画(1/22 予定)【インダストリ委員会】。 <p>6) 会長・副会長の補佐及び他学協会との連携窓口</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ISCIE-SICE 連携 PJ 第 2 回ステアリング会議を開催（11/2、姫路商工会議所／Zoom）

2024 年度事業計画・実施報告

組織名	財務委員会	担当	黒崎委員長、小倉副委員長
-----	-------	----	--------------

2024 年度事業計画（本組織担当分）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 特定費用準備資金（国際・オープンサイス）のフォローアップ（3.2） ・ 年間収支のモニタリングと事業および業務適正化による財務基盤の強化（5.1） ・ 継続事業の着実な実施とコンプライアンスの順守（6.1）

2024 年度事業計画	2024 年度実施結果
<p>●1～6 月</p> <p>【定常業務】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 期末決算・事業報告作成（1～3 月） 2. 期末決算・事業報告内閣府提出準備（3 月） 3. 期末決算・事業報告 内閣府提出（3 月末） 4. 新役員変更届内閣府提出（4 月末） 5. 上期活動計画の見直し（4～6 月） 6. 中間決算（6 月末） <p>【財務基盤強化、業務見直し・効率化推進】</p> <ol style="list-style-type: none"> 7. 財務トレンドに基づく予算策定方法の検討 <ol style="list-style-type: none"> 8. 財務トレンドのさらなる可視化とデータ更新方法を含むデータ管理体制の検討 <ol style="list-style-type: none"> 9. 特定費用準備資金（国際・オープンサイス）の運用確認、見直し・修正を適宜実施 <ol style="list-style-type: none"> 10. 財務構造の見直し （受取会費の法人・公益配分比率、等） <ol style="list-style-type: none"> 11. 収益事業新設の検討 	<p>●1～6 月</p> <p>【定常業務】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 期末決算・事業報告作成（1～3 月） 2. 期末決算・事業報告内閣府提出準備（3 月） 3. 期末決算・事業報告 内閣府提出（3 月末） 4. 新役員変更届内閣府提出（4 月末） 5. 上期活動計画の見直しは実施せず 6. 中間決算について直轄委員会・部門・支部へ依頼 <p>【財務基盤強化、業務見直し・効率化推進】</p> <ol style="list-style-type: none"> 7. 財務トレンドに基づく予算策定方法の検討として、会員数減少を見越した収入予測、年次大会の利益の見直し、各部門・支部に対する収支、事務局人件費の動向を踏まえ、予算策定ガイドラインを策定した。第 2 回財務委員会において承認を目指す。 8. 予算策定ガイドラインの策定に関連し、財務トレンドのさらなる可視化とデータ更新方法を含むデータ管理体制の検討を進めた。 9. 各部門・支部との意見交換会の中で、特定費用準備資金の執行状況改善のために執行に向けた手順などの説明を行った。また今年度新規に積み立てた国際主催共催会議推進資金の運用方法を検討する WG をカンファレンス委員会内に設立した。 10. 各部門・支部との意見交換会の中で、活動の現状を把握するとともに、財務に関する要望を中心に意見聴取を行った。短期的な要望と中長期的な要望に分けて事業運営に反映し、財務構造の見直しにも繋げて行く。また昨年度に引き続き、会誌論文誌のデジタル化に向けた財務インパクトの試算を継続している。下期は更にこれらの議論を深める。 11. 収益事業新設の検討について、予算策定ガイドラインの策定に注力したため、下期に本格的に検討を行う予定である。

2024 年度事業計画	2024 年度実施結果
<p>●7～12 月</p> <p>【定常業務】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 上期活動計画・中間決算結果報告（7 月） 2. 事業計画策定・予算策定（7～10 月） 3. 事業計画・予算レビュー（11 月） 4. 事業計画・予算内閣府提出準備（11～12 月） 5. 事業計画・予算内閣府提出（12 月末） 6. 期末決算（12 月） <p>【財務基盤強化、業務見直し・効率化推進】</p> <ol style="list-style-type: none"> 7. 財務トレンドに基づく予算策定方法の検討 <p>8. 財務トレンドのさらなる可視化とデータ更新方法を含むデータ管理体制の検討</p> <p>9. 特定費用準備資金（国際・オープンサイス）の運用確認、見直し・修正を適宜実施</p> <p>10. 財務構造の見直し （受取会費の法人・公益配分比率、等）</p> <p>11. 収益事業新設の検討</p>	<p>●7～12 月</p> <p>【定常業務】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 上期活動計画・中間決算結果報告（7 月） 2. 事業計画策定・予算策定（7～10 月） 3. 事業計画・予算レビュー（11 月） 4. 事業計画・予算内閣府提出準備（11～12 月） 5. 事業計画・予算内閣府提出（12 月末） 6. 期末決算（12 月） <p>上記定常業務を実施時期に合わせて実行した。</p> <p>【財務基盤強化、業務見直し・効率化推進】</p> <ol style="list-style-type: none"> 7. 財務トレンドに基づく予算策定方法の一環とし、部門活動の自由度を高めて活性化を図るため、部門の複数年度予算運用ルールの見直しを実施した。 <p>8. 予算策定を行うにあたり、財務トレンドの整理を進めたが、データ管理体制の見直しについては未実施となった。</p> <p>9. 部門・支部での特定費用準備資金（国際・オープンサイス）の利活用については、上期に実施した意見交換会を通じて理解を深めることができ、予算策定においても積極的な利用に向けた検討が進められていることを確認した。なお今年度新設した国際主催共催会議推進資金については、今期中の活用には間に合わず本格的な運用は来期以降になる。</p> <p>10. 会員数減による会費収入の減少トレンドを踏まえ、受取会費の法人・公益配分比率の見直しを検討したが、予算策定には間に合わず理事会提案は来期以降に行う。国際会議共催サープラス収益を中長期的な安定財源とすべく、カンファレンス委員会内に設立した WG で国際主催共催会議推進資金の戦略的な運用方法の検討を進めた。また上期に引き続き、電子化準備委員会による会誌論文誌のデジタル化に向け、紙媒体有償配布費用等の試算に協力した。</p> <p>11. 収益事業新設の検討について、事務局とともに議論は実施したが十分に検討は進んでおらず、本格的な検討は来期以降に行う。</p>

2024 年度事業計画・実施報告

組織名	企画委員会	担当	大須賀委員長、杉江副委員長
-----	-------	----	---------------

2024 年度事業計画（本組織担当分）
・ SICE ミッションの策定と各組織への展開

2024 年度事業計画	2024 年度実施結果
<p>●1～6 月</p> <p>委員会開催 委員の決定 委員会開催 2～3 回</p> <p>1. 学会活動の将来に向けた課題の洗い出しと整理 ・ 拡大理事ワークショップ（意見聴取または討議）のテーマ決定</p> <p>2. 2024 年度拡大理事ワークショップの準備 ・ 実施形態および日時の決定 （Annual Conference 開催期間 8/27～30 を想定）</p>	<p>●1～6 月</p> <p>委員会開催 引継ぎ会議(4/1) 第 1 回企画委員会(6/3)</p> <p>1. 学会活動の将来に向けた課題の洗い出しと整理 ・ 拡大理事ワークショップのテーマ決定 今年度の検討テーマをこれまでに抽出された課題や財務委員会による支部と部門へのヒアリング結果に基づき ① SICE の在り方／存在意義 ② ダイバーシティ ③ フレキシビリティ（運営の柔軟化） と仮決定し、総務委員会(7/8)、部門協議会(7/10)、支部協議会(7/17)にて報告。</p> <p>2. 2024 年度拡大理事ワークショップの準備 ・ 実施形態および日時の決定 SICE FES 2024 の前日と初日(8/26-27)に対面で開催することを決定。討議時間が限られるため、事前に議題についての説明を実施することを検討。</p>

2024 年度事業計画	2024 年度実施結果
<p>●7～12 月</p> <p>委員会開催：2～3 回</p> <p>1. 2024 年度拡大理事ワークショップの実施 ・直轄委員会委員長、部門長、支部長への意見聴取または討議を実施（8 月開催を予定）</p> <p>2. 2025 年度 SICE 中期的課題と事業計画へ展開 ・拡大理事ワークショップの結果を受け、中期的課題の更新、事業計画の策定を実施（11 月） ・各組織へ 2025 年度事業計画の提出を依頼し、理事会での提案を実施（12 月）</p>	<p>●7～12 月</p> <p>委員会開催 第 2 回企画委員会(7/19) 第 3 回企画委員会(8/8)</p> <p>1. 2024 年度拡大理事ワークショップの実施 ・事前説明会を Zoom にて開催(8/16) ・FES2024 開催直前に高知ホール(8/26)と高知工科大永国寺キャンパス(8/27)にて開催。参加者 35 名が 3 グループに分かれて下記議題について議論。 ①SICE の本質論と具体論（SICE の在り方／存在意義） ②「そもさい論」と「ダイバーシティ」（SICE のボーダレス） ③「そもさい論」と「フレキシビリティ」（SICE 運営の柔軟化） また、会誌と和文論文集の電子化案を説明し、意見を聴取。 ・拡大理事ワークショップの結果を第 3 回支部協議会(10/2)、第 3 回部門協議会(10/4)にて報告し、支部と部門に展開。</p> <p>2. 2024 年度 SICE 中期的課題と事業計画へ展開 ・拡大理事ワークショップの結果を受け、中期的課題の更新、事業計画の策定を実施（10 月） 「2025 年度 SICE ミッションと事業計画」を策定し、事務局から各組織・部門・支部に展開(10/15)。 ・各組織へ度事業計画の提出を依頼し(10/15)、第 4 回理事会(12/23)にて提案を実施。</p>

2024 年度事業計画・実施報告

組織名	学会賞委員会	担当	三平委員長
-----	--------	----	-------

2024 年度事業計画（本組織担当分）
<ul style="list-style-type: none"> ・他団体表彰への SICE 推薦制度の整理と検討 ・継続事業の着実な実施とコンプライアンスの順守 (6.1) ・新型コロナウイルス感染への的確な対応 (6.2)

2024 年度事業計画	2024 年度実施結果
<p>●1～6 月</p> <p>1) 2023 年度学術奨励賞の選考作業および結果の Web 掲載</p> <p>2) 2023 年度優秀学生賞の募集および贈賞</p> <p>3) (他団体表彰) 2023 年度油空圧機器技術振興財団論文顕彰への推薦論文選考作業</p> <p>4) 2024 年度学会賞（論文賞、技術賞、著述賞、新製品開発賞、教育貢献賞、国際標準化賞）の選考作業</p> <p>5) (他団体表彰) 2024 年度 FA 財団論文賞への推薦論文選考作業</p> <p>6) (他団体表彰) 島津科学技術振興財団論文賞への推薦作業</p> <p>7) (功績賞選考委員会) 2024 年度功績賞授与候補者選考作業</p> <p>8) (フェロー選考委員会) 2024 年度フェロー称号授与候補者選考作業</p> <p>9) SICE FES 2024 Annual Conference Award 選考作業</p> <p>10) (随時) 部門等からの SICE Young Authors Award 募集要項提案の検討・承認および理事会への提案</p> <p>11) (随時) 各部門・部会等が所掌する研究奨励賞等の Web 掲載作業</p>	<p>●1～6 月</p> <p>1) 2023 年度学術奨励賞の選考および贈賞を実施</p> <p>2) 2022 年度優秀学生賞の募集および贈賞を実施</p> <p>3) (他団体表彰) 2024 年油空圧機器技術振興財団論文顕彰への推薦論文選考作業、および財団への推薦を実施</p> <p>4) 2024 年度学会賞（論文賞、技術賞、著述賞、新製品開発賞、教育貢献賞、国際標準化）の選考作業を実施、SICE FES 2024 時に贈賞を行った。</p> <p>5) (他団体表彰) 2024 年度 FA 財団論文賞への推薦論文選考作業、および財団への推薦を実施</p> <p>6) (他団体表彰) 受付締切までに応募がなかった</p> <p>7) (功績賞選考委員会) 推薦締切までに推薦がなかった</p> <p>8) (フェロー選考委員会) 2024 年度フェロー称号授与候補者選考作業を実施、SICE FES 2024 時に贈賞を行った。</p> <p>9) SICE FES 2024 Annual Conference Award 選考を準備</p> <p>10) 部門等からの SICE Young Authors Award 募集要項提案の検討・承認および理事会への提案を随時実施</p> <p>11) 各部門・部会等が所掌する研究奨励賞等の Web 掲載作業準備を随時実施</p>

2024 年度事業計画	2024 年度実施結果
<p>●7～12 月</p> <p>1) SICE FES 2024 Annual Conference Award 選考作業</p> <p>2) (随時) 部門等からの SICE Young Authors Award 募集要項提案の検討・承認および理事会への提案</p> <p>3) 学会賞委員会、各部門、各支部が所掌する賞の整理と見直し</p> <p>4) (随時) 各部門・部会等が所掌する研究奨励賞等の Web 掲載作業</p> <p>5) 各賞の選考作業の見直し</p> <p>6) 2024 年度学術奨励賞の選考作業</p> <p>7) 2025 年度学会賞 (論文賞、技術賞、著述賞、新製品開発賞、教育貢献賞、国際標準化賞) 受賞候補の推薦募集</p> <p>8) 2025 年度功績賞授与候補者の推薦募集</p> <p>9) 2025 年度フェロー称号授与候補者の推薦募集</p>	<p>●7～12 月</p> <p>1) SICE FES 2024 Annual Conference Award 選考作業を実施、台風のため贈呈式が実施できなかったため、Web での公開と受賞者への賞状・副賞を送付した。</p> <p>2) 部門より提案のあった、SIYA-SII2024、SIYA-IROS2024、SIYA-CDC2024 について、選考結果を承認した。</p> <p>3) 今年度は実施しなかった。</p> <p>4) 各部門・部会等が所掌する研究奨励賞等の Web 掲載作業を随時実施した。</p> <p>5) 今年度は実施しなかった。</p> <p>6) 2024 年度学術奨励賞の選考作業を実施した。</p> <p>7) 2025 年度学会賞 (論文賞、技術賞、著述賞、新製品開発賞、教育貢献賞、国際標準化賞) 受賞候補の推薦募集案内を、会誌会告およびホームページに掲載した。</p> <p>8) 2025 年度功績賞授与候補者の推薦募集案内を、会誌会告およびホームページに掲載した。</p> <p>9) 2025 年度フェロー称号授与候補者の推薦募集案内を、会誌会告およびホームページに掲載した。</p>

2024 年度事業計画・実施報告

組織名	会誌出版委員会	担当	山下委員長・小木曾副委員長
-----	---------	----	---------------

2024 年度事業計画（本組織担当分）
<ul style="list-style-type: none"> ・ イベントや会誌発行におけるウィズコロナ社会、アフターコロナ社会に供する積極的情報発信 ・ 会員に対する SICE 活動の告知・理解に資する積極的情報発信 ・ 継続事業の着実な実施とコンプライアンスの順守 (6.1) ・ 新型コロナウイルス感染への的確な対応 (6.2)

2024 年度事業計画	2024 年度実施結果
<p>●1～6 月</p> <p>1.学会誌特集の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特集企画・記事の公募，タイムリーな特集記事出版の検討. ・ 企業会員にも魅力的なテーマ選定、キーワード解説の充実 ・ 多面的な側面から SICE の研究領域を捉えた特集の充実 ・ 企業研究者/エンジニア、産業応用大学研究者による産業応用記事の充実に向けた体制検討 ・ 女性研究者、若手研究者(40 歳以下)を紹介する“FACE the future” の人選と継続 <p>2.計測・制御セレクションシリーズの出版・企画継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前年度に企画・公募した計測・制御セレクションシリーズの出版。 ・ 新たな公募テーマの企画 ・ 出版継続体制構築に向けた出版担当委員選出方法を引き続き議論（必要に応じて総務委員会と連携） <p>3.学会誌のあり方検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特集企画回数を適正化，持ち込み特集企画・投稿原稿・SICE 活動報告等のタイムリーな企画導入活性化を引き続き検討する ・ 電子出版化・冊子合本化など会誌出版の在り方を継続して検討する（PATF の答申に沿って検討） ・ SICE や会誌に対する会員の意見を会誌の記事構成や内容に反映させる方策の検討を開始する <p>4.会誌出版体制の長期的持続のための運営体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 理事・委員の選出方法，部門に対する負荷分担の在り方等について，継続して検討する（PATF の答申に沿って検討） 	<p>●1～6 月</p> <p>1.学会誌特集の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会的・技術的に関心の高い研究分野についての特集号を企画し，出版ないし編修を進めた ・ 多面的な側面から SICE を知らしめる記事の企画・調整を視野に入れた特別会誌出版委員会の開催を計画した ・ 女性研究者、若手研究者(40 歳以下)を紹介する“FACE the future” を継続して企画・掲載した ・ 初の試みとして特集号企画の一般公募を行い，2 件が採択された <p>2.計測・制御セレクションシリーズの出版・企画継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前年度までの公募・打診企画 2 件の出版に向け作業中 ・ 次年度に向けて新たな企画公募の準備を進めた <p>3.学会誌のあり方検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特集企画回数を適正化，持ち込み特集企画・投稿原稿・SICE 活動報告等のタイムリーな企画導入活性化の実現性や方法などを検討中 ・ PATF 答申についての実現性や方法などを引き続き検討，その一環として 4 月より総務委員会，論文集委員会，会誌出版委員会等を構成メンバーとして電子化準備委員会が発足．2025 年の会誌・和論文集電子出版化に向けた検討を始めた <p>4.会誌出版体制の長期的持続のための運営体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事務局での出版業務効率化の一環として，1 月より外部出版業者による出版業務委託を開始した ・ 理事・委員の選出，部門への負荷分散等については，学会誌のあり方検討を先行させており，この方向性がある程度見えることにより検討の位置づけとし、一旦保留中

2024 年度事業計画	2024 年度実施結果
<p>●7～12 月</p> <p>1.学会誌特集の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業会員にも魅力的なテーマ選定、キーワード解説の充実 ・多面的な側面から SICE の研究領域を捉えた特集の充実 ・企業研究者/エンジニア、産業応用大学研究者による産業応用記事の充実に向けた体制検討 ・女性研究者、若手研究者(40 歳以下)を紹介する“FACE the future” の人選と継続 <p>2.計測・制御セレクションシリーズの出版・企画継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年度に企画・公募した計測・制御セレクションシリーズの出版。 ・新たな公募テーマの応募案件の推進 ・出版継続体制構築に向けた出版担当委員選出方法を引き続き議論（必要に応じて総務委員会と連携） <p>3.学会誌のあり方検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特集企画回数を適正化，持ち込み特集企画・投稿原稿・SICE 活動報告等のタイムリーな企画導入活性化を引き続き検討する ・電子出版化・冊子合本化など会誌出版の在り方を継続して検討する（PATF の答申に沿って検討） ・SICE や会誌に対する会員の意見を会誌の記事構成や内容に反映させる方策を検討引き続き検討する <p>4.会誌出版体制の長期的持続のための運営体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理事・委員の選出方法，部門に対する負荷分担の在り方等について，継続して検討する（PATF の答申に沿って検討） 	<p>●7～12 月</p> <p>1.学会誌特集の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会的・技術的に関心の高い研究分野についての特集号を企画し，出版ないし編集を進めた ・多面的な側面から SICE を知らしめる記事の企画・調整を視野に入れた特別会誌出版委員会を開催した ・会誌の web 公開の手段について検討を開始した ・女性研究者、若手研究者(40 歳以下)を紹介する“FACE the future” を継続して企画・掲載した ・SICE-DIA との連携企画の検討を行った（2025 年前半期に掲載開始予定） <p>2.計測・制御セレクションシリーズの出版・企画継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2024 年度の企画を公募し，1 件選定した ・次年度に向けて新たな企画公募の準備を進めた <p>3.学会誌のあり方検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特集企画回数を適正化，持ち込み特集企画・投稿原稿・SICE 活動報告等のタイムリーな企画導入活性化の実現性や方法などを検討中 ・PATF 答申についての実現性や方法などを検討。その一環として前期に引き続き電子化準備委員会等を通して会誌の電子出版の具体的方法を検討した <p>4.会誌出版体制の長期的持続のための運営体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学会誌のあり方検討を先行させており，この方向性がある程度見えることにより検討の位置づけとし、一旦保留中

2024 年度事業計画・実施報告

組織名	和文論文集委員会	担当	河村委員長, 永原副委員長
-----	----------	----	---------------

2024 年度事業計画（本組織担当分）
<ul style="list-style-type: none"> ● 和文論文集の着実な発行 ● 編集にかかる業務の内容・方法, 運営についての効率化と投稿数増加に向けての見直し ● 論文投稿数増加に向けての, 論文集の魅力向上策の検討と策定および情報発信 ● 学会デジタル化への対応 ● 継続事業の着実な実施とコンプライアンスの順守 (6.1)

2024 年度事業計画	2024 年度実施結果
<p>● 1～6 月</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 分離した和文誌編集委員会と英文誌編集委員会の活動状況を精査し, 業務内容・役割分担を確認し論文投稿数の向上を目指す. ● EiC は論文の投稿・編集・出版状況を各論文集委員会で報告し, 担当理事は理事会にそれを報告する. ● 編集委員会(EB)は, 編集から発行まで, 維持・発展のための実務について意見交換・議論を行い, 特集号を企画する. ● 論文の投稿・編集・出版状況を解析し, 投稿数増加のための採択基準の徹底と, 編集手順を確認・検討する. ● 事務局担当者との連携について状況を確認し必要な修正を行う. ● 交代期の E, AE について確認しスムーズな移行を図る. 委嘱状の発送も適宜行う. ● 会誌編集委員会と協力して, 学会誌で, 論文投稿呼びかけを目的とした特集号を企画し編集する. (発行時期 24 年 9 月～25 年 8 月) ● 学会のデジタル化の方針に沿って和文論文集発行にかかるすべての業務について確認し必要な修正を行い実施する. ● 和文誌の魅力を高める方策について検討しデジタル化との相乗効果を高める ● 投稿環境を整えるため, 論文テンプレートの更新, 提出方法・手順を整える. ● 論文集委員会の開催 (3 月) ● 投稿勧誘のための論文セミナーの計画と実施 ● 和文論文集の発行 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 1～6 号の着実な発行と, コンプライアンスの順守 ➢ 外注先との連携による論文受付から発行作業までの確実な実施 ➢ 投稿数増加のための採択基準と, 編集手順の確認 ➢ 特集号の実施と計画 ➢ 外注業者から論文の投稿・編集・出版状況の入手と解析 (1～2 月), 理事会への報告 	<p>● 1～6 月</p> <p>和文誌編集委員会と英文誌編集委員会はそれぞれ活動を継続した.</p> <p>和文誌の EiC が交代した. 編集委員会は引き続き有効に機能している.</p> <p>和文論文集編集委員会を 5 月 15 日に開催した.</p> <p>投稿状況を随時確認した</p> <p>十分な確認ができていなかった</p> <p>順調に行った</p> <p>24 年 11 月号の特集号を編集中である</p> <p>詳細については今後の作業である</p> <p>開始特集号をベースに検討する</p> <p>後期の課題とする</p> <p>和文誌編集委員会を 4 月 11 日に開催した.</p> <p>部門などに論文塾などの実施を提案している</p> <p>発行業務を粛々と続けている</p>

2024 年度事業計画	2024 年度実施結果
<p>●7～12 月</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 上期の状況を踏まえて論文投稿数の向上を目指す。 ● EiC は論文の投稿・編集・出版状況を各論文集委員会で報告し、担当理事は理事会にそれを報告する。 ● 編集委員会(EB)は、編集から発行まで、維持・発展のための実務について意見交換・議論を行い、特集号を企画する。 ● 論文の投稿・編集・出版状況を解析し、投稿数増加のための採択基準の徹底と、編集手順を確認・検討する。 ● 事務局担当者との連携について状況を確認し必要な修正を行う。 ● 会誌編集委員会と協力して、学会誌で、論文投稿呼びかけを目的とした特集号を編集する。(発行予定時期 24 年 9 月～25 年 8 月) ● 学会のデジタル化の方針に沿って和文論文集発行にかかるすべての業務について確認し必要な修正を行い実施する。 ● 和文誌の魅力を高める方策について検討しデジタル化との相乗効果を高める ● 投稿環境を整えるため、論文テンプレートの更新、提出方法・手順を整える。 ● 論文集編集委員会の開催 (8 or 9 月) ● 投稿勧誘のための論文セミナーの計画と実施 ● 和文論文集の発行 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 7～12 号の着実な発行と、コンプライアンスの順守 ➢ 外注先との連携による論文受付から発行作業までの確実な実施 ➢ 投稿数増加のための採択基準と、編集手順の確認 ➢ 特集号の実施と計画 ➢ 外注業者から論文の投稿・編集・出版状況の入手と解析 (7～8 月)、理事会への報告 	<p>●7～12 月</p> <p>残念ながら 2024 年度の投稿数は 2023 より少なく厳しい状況 編集委員会は有効に機能している。</p> <p>和文論文集編集委員会を 9 月 11 日に開催した。</p> <p>投稿状況を随時確認した</p> <p>順調に行った</p> <p>24 年 11 月号に特集号を発行した</p> <p>詳細については今後の作業である</p> <p>開始特集号をベースに検討する</p> <p>出版社との打ち合わせを行った。 LaTeX クラスファイルのサンプルを作成した 当初後期開催の予定であった和文誌論文集編集委員会を 5 月 15 日に開催した。</p> <p>SI2024 において SI 部門との共催で論文塾を開催した。</p> <p>発行業務を粛々と続けている</p>

2024 年度事業計画・実施報告

組織名	英文論文集委員会	担当	永原委員長、河村副委員長
-----	----------	----	--------------

2024 年度事業計画（本組織担当分）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 英文論文集の経営外部委託による編集から発行までの運営の定常化 ・ 事務局人員削減に対応した論文集発行と委員会運営の構造の確立 ・ 英文論文集の国際的評価基準（Citation Index, Impact Factor）獲得へ向けた活動の継続 ・ 論文投稿数の減少の防止と、増加を狙った活動の促進 ・ 和英分離の新論文集委員会体制に沿った他委員会との連携法の整理と定着化 ・ 継続事業の着実な実施とコンプライアンスの順守（6.1）

2024 年度事業計画	2024 年度実施結果
<p>●1～6 月</p> <p>1. 和英分離の新論文集委員会による事業体制の確立</p> <p>1-1 和文論文集委員会と英文論文集委員会を確立</p> <p>① 2 月の委員会開催まで、旧論文集委員長が両委員会の委員長を務める。各旧副委員長は、副委員長として両委員会に出席する。</p> <p>② 3 月の委員会開催から、和文担当理事が和文論文集委員会の委員長、英文担当理事が英文論文集委員会の委員長を務め、両者が他方の論文の副委員長となり出席する。新しい論文担当理事（和を主担当）は両論文集の 2 名目の副委員長となる。</p> <p>③ 各論文担当理事は 2 年間続けて片方の論文集の主担当となり、他方の論文集の運営を把握サポートする。</p> <p>④ 外注と経営外部委託が違い、および、著者と読者の層が全く異なる両論文集の性格に合わせ、論文集の維持発展を図る SICE から環境提供について議論し、各論文集委員会は SICE と和文編集委員会、および、JCMSI Editorial Board(EB)をつなげる。</p> <p>⑤ 各 EiC は論文の投稿・編集・出版状況を各論文集委員会で報告し、担当理事は理事会にそれを報告する。</p> <p>⑥ 論文賞等、和英分離の新論文集委員会体制に沿った他委員会業務への協力窓口・体制の明確化する。</p> <p>1.2 新論文集委員会の体制下での各編集委員会(EB)を確立</p> <p>① 和論文と英論文の EiC は、それぞれ和文編集委員会と和文編集委員会と JCMSI EB を開催し、各論文の論文集委員長と副委員長も出席する。</p> <p>② 各編集委員会(EB)は、編集から発行まで、維持・発展のための実務について意見交換・議論を行い、特集号を企画する。</p> <p>③ 論文の投稿・編集・出版状況を解析し、投稿数増加のための採択基準と、編集手順を確認・検討する。</p>	<p>●1～6 月</p> <p>1. 和英分離の新論文集委員会による事業体制の確立</p> <p>1-1 和文論文集委員会と英文論文集委員会を確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 1 月 24 日に 2023 年度第 3 回英文論文集委員会を開催した。 ● 4 月 11 日に第 1 回和文論文集委員会が開催され、英文論文集委員長が出席した。 ● 4 月 12 日に第 1 回英文論文集委員会が開催され、和文論文集委員長が出席した。 ● T&F 社の Richard Goodman 氏とメールにて密に連絡を取り合い、情報の共有などを行った。 ● T&F 社からのレポートにもとづき、EiC から論文の投稿・編集・出版状況の報告が行われた。 ● 計測部門論文賞の選考における協力の要請があり、必要最小限の情報のみ閲覧していただく方法で協力した。 <p>1.2 新論文集委員会の体制下での各編集委員会(EB)を確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ● EiC 主導のもと、引き続き EB の強化と国際化を進めている。 ● 日本語・英語に分けたメーリングリストを運用している。極力英語 ML を使うこととしている。 ● EiC 主導のもと、JCMSI Editorial Procedures を参照しながら採択基準と編集手順を確認している。

<p>2. 事務局人員削減と和文外注・英文委託、および、新論文集委員会となった事業運営体制に対応した SICE 事務局業務の定着</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和文論文集委員会、英文論文集委員会、和文論文集編集委員会、JCMSI Editorial Board の名簿を管理し、委嘱状発送する（2 月末）。 ・理事会や他の委員会・会員に対する論文集委員会事項の連携窓口 となる。 <p>3. 英文論文集の発行</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オープンアクセスによる論文毎の着実な発行と、コンプライアンスの順守 ・新しい EiC 体制における T&F への経営委託による論文受付から発行作業までの定着化 ・投稿数増加のための採択基準と、編集手順の確認 ・2021 年 AC 特集号の発行、および、その他の特集号の実施と計画 ・論文セミナー実施による投稿の勧誘 ・論文投稿数増加を目指した、英文校正サービス補助制度の確立 ・Editorial Board の国際性の強化 ・招待論文を利用した国際性と知名度の強化 ・文献引用データベースの評価基準の獲得へ向けた <p>T&F との方針の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・T&F が提供する戦略的各種サービスの検討 ・T&F からの投稿・編集・出版状況の入手と解析（1～2 月）と、理事会への報告 	<p>2. 事務局人員削減と和文外注・英文委託、および、新論文集委員会となった事業運営体制に対応した SICE 事務局業務の定着</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英文論文集委員会 JCMSI Editorial Board の名簿を管理し、委嘱状を発行した（事務局）。 ・英文論文集委員会のスケジュール管理や出欠管理を実施した（事務局）。 <p>3. 英文論文集の発行</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SICE FES 特集号の他、IEEE/SICE SII、SICE ISCS 特集号を企画している。 ・英文論文誌への投稿促進のため、会員サービスとして英文校正費用の補助を引き続き行っている。ただ、利用が少ないため、利用者を増やせるように周知を行うこととした。 ・SICE FES から依頼があり、JCMSI に掲載済みまたは採択済みの論文を、SICE FES において発表することができるカンファレンスオプションの提案があり、了承した。 ・海外からの投稿が増えているが、迅速に論文ハンドリングを行うため、AE がリジェクト判定することを可能とした。 ・Editorial Board の国際化のため積極的な推薦をお願いしている。ただし海外からの自己推薦については注意が必要である。 ・海外からの特集号の企画も注意する。Pubpeer 等を利用する。 ・海外研究期間所属の著者による invited survey paper を企画し、掲載料無料のクーポンを利用することとなった。
--	--

2024 年度事業計画	2024 年度実施結果
<p>●7～12 月</p> <p>1. 和英分離の新論文集委員会による事業体制の定着化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Annual Conference の時期に合わせた、両論文委員会および両編集委員会(EB)の開催 ・ 両論文集委員会と両論文集編集委員会(EB)の取り扱い事項の整理と、会議回数等の見直しの検討 <p>2. SICE 事務局による事業サポート業務の定着化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 両論文委員会のサポート、および、両編集委員会(EB)も含めた名簿の管理と委嘱状発行 <p>3. 英文論文集の発行</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ オープンアクセスによる論文毎の着実な発行と、コンプライアンスの順守 <p>投稿数増加のための採択基準と、編集手順の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2024 年 AC 特集号の企画、および、その他の特集号の実施と計画 ・ 論文投稿数増加を目指した、英文校正サービス補助制度の実施 ・ 招待論文を利用した国際性と知名度の強化 ・ 文献引用データベースの評価基準の獲得へ向けた <p>T&F とのスケジュールと戦略の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ T&F が提供する戦略的各種サービスの検討 ・ T&F からの投稿・編集・出版状況の入手と解析(8～9 月)、理事会への報告 	<p>●7～12 月</p> <p>1. 和英分離の新論文集委員会による事業体制の定着化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 9 月 11 日に 2024 年度第 2 回和文論文集委員会が開催され、英文論文集委員長が出席した。 ・ 9 月 13 日に 2024 年度 第 2 回 英文論文集委員会を開催した。 ・ 9 月 30 日に JCMSI Editorial Board Meeting を開催した。 <p>2. SICE 事務局による事業サポート業務の定着化</p> <p>英文論文集委員会開催に係る日程調整や資料取りまとめの事務作業について、事務局によるサポートは定着し、着実に業務効率化が進んでいる。</p> <p>3. 英文論文集の発行</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ オープンアクセスによる論文の発行を実施し、7～12 月は、11 編の論文が掲載された。 ・ 特集号として、AC2024 特集号を実施中 ・ 無料クーポンを利用し、招待サーベイ論文を掲載した。 ・ 英文校正サービスの費用補助の取組を行っている。 ・ 論文引用データベースのインデックス取得に向け、T&F と協力し、Editorial Board の国際化、国際共著論文投稿勧誘などを引き続き行った結果、Web of Science への掲載が決定した。 ・ T&F からの編集・出版状況情報に基づき、理事会への報告、英文論文集委員会、EditorialBoard での報告・議論を行い、今後に向けた意見等をいただいた。 ・ Outstanding Reviewers 賞の検討を開始した。

2024 年度事業計画・実施報告

組織名	カンファレンス委員会	担当	野田委員長、申副委員長、佐々木副委員長
-----	------------	----	---------------------

2024 年度事業計画（本組織担当分）
<ul style="list-style-type: none"> ・ AC を通じた SICE 国際プレゼンスのさらなる向上の志向 (8.1) ・ SICE が主催、共催する国際会議、および招聘/現地組織する国際会議(IROS2024, IFAC2025)への開催支援 (8.2) <p style="text-align: center;">-----以下、前 Annual Conference 委員会-----</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ AC (SICE2024) 開催に向けた準備 ・ 継続事業の着実な実施とコンプライアンスの順守 (6.1)

2024 年度事業計画	2024 年度実施結果
<p>●1～6 月</p> <p>1-1 海外学会との交流</p> <p>1-1-1 海外学会との共催・協賛、ならびに Technical Co-Sponsorship の締結・推進</p> <p>1 海外学会イベントの共催・協賛管理</p> <p>2 MOU 締結状態の維持、新規締結検討（適宜） （更新時：内容検討/更新可否の議論） 備考：IEEE：2019 年末に更新済（22 まで有効） IEEE CSS：2020 年末に更新済（25 まで有効） ICROS：更新済（自動更新） TCCT：2019 年末に更新済（24 まで有効）</p> <p>3 SICE AC2024 の Tech. Co.締結/ IEEE Conference Application 登録作業（w/事務局）</p> <ul style="list-style-type: none"> - Tech. Co. 依頼発信→受諾受領 IEEE CSS/RAS/IES, 韓国 ICROS, 中国 TCCT, タイ ECTI,CACS,ISA,JEMIMA - IEEE Conference Application 登録（IEEE/CSS/RAS/IES との Tech. Co.締結完了） <p>1-1-2 海外団体との交流 旧来の「代表者派遣」の考え方を見直し、オンライン参加・オンライン会議を活用した新しい交流活動の推進を検討。</p> <p>1-1-3 海外学会・団体との関係維持・強化 各種国際会議への SICE AC 2024 案内発信各海外団体に国際委員会内にリエゾンを設置することで協力関係の強化を検討。</p> <p>1-2 Annual Conference を通じた国際活動</p> <p>1-2-1 SICE AC 2024 対応着手</p> <p>1 VIP Reception 計画検討開始（Invitation 案, 宛先リスト作成（事務局））</p> <p>2 Friendship Lunch Meeting 等の計画検討開始（招待状, 招待客リスト作成（事務局））</p> <p>3 STGA 準備（募集事項検討・WEB 掲載依頼・審査委員決定）</p>	<p>●1～6 月</p> <p>1-1 海外学会との交流</p> <p>1-1-1 海外学会との共催・協賛、ならびに Technical Co-Sponsorship の締結・推進 適宜実施</p> <p>1-1-2 海外団体との交流 実施なし</p> <p>1-1-3 海外学会・団体との関係維持・強化 リエゾン維持</p> <p>1-2 Annual Conference を通じた国際活動</p> <p>1-2-1 SICE AC 2024 対応着手 例年通り進行中</p> <p>1-3 国際団体への協力活動</p> <p>1-3-1 IFAC 委員会との連携 実施なし？リエゾン石井先生に要確認</p> <p>1-3-2 IROS2024 に向けた活動支援 国際主催共催会議推進WGを設置 初代委員長は東京理科大吉田先生</p> <p>2-1 SICE の国際プレゼンス向上活動</p> <p>2-1-1 海外人材育成 アジア地区他学会カンファレンス支援</p> <ul style="list-style-type: none"> - 各リエゾンに要確認 <p>2-1-2 海外コミュニティ活動支援 各リエゾンに要確認</p> <p>2. FESw/AC2024 の準備、広報 ACDC による FES 化進行中</p> <p>3. FESw/AC2023（現地+オンライン）の実績 解析、問題点の把握と改善 FES with AC と呼称する開催形態へ変更し活性化を期する</p> <p>4. FESw/AC2026 以降の開催についての検討 2026 東京, 小木曾先生(電通大)</p>

<p>1-3 国際団体への協力活動</p> <p>1-3-1 IFAC 委員会との連携</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 IFAC2024 実行委員会参加 2 IFAC2024 世界大会 (Australia) 開催支援 (体制助言、国際化準備資金活用) 3 IFAC 関連会議活動広報 4 制御部門との連携 <p>1-3-2 IROS2024 に向けた活動支援</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 IROS2024 (Abu Dhabi) 実行委員会との連携・活動支援 (国際化準備資金活用) 2 SI 部門との連携 <p>2-1 SICE の国際プレゼンス向上活動</p> <p>2-1-1 海外人材育成</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 アジア地区他学会カンファレンス支援 <ul style="list-style-type: none"> - Joint Session 検討支援 (韓国 ICROS, タイ ECTI, 中国 TCCT, 台湾 CACS, インド CS) <p>2-1-2 海外コミュニティ活動支援</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 SICE2024 コミュニティ支援 <ul style="list-style-type: none"> - コミュニティ WS 支援 (AC 委) 2 ASEAN 地域学生支援 (AC 委, 実行委員会) <p>前 Annual Conference 委員会</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. SICE2024 (高知) の実施に向けた準備 <ol style="list-style-type: none"> 1-1 論文採択戦略の議論 1-2 開催地の文化や観光情報なども発信するなど、PR 方法の改善・強化を実施 1-3 日本語イベント (WS や企業展示) を企画し、賛助会員へ宣伝、展示は出展勧誘も実施 1-4 企業 (賛助会員) 向け企画の企画・準備 1-5 SICEWEEK2024 の企画・準備 2. SICE2024 の準備、広報 <ol style="list-style-type: none"> 2-1 SICE2026 の準備、実行委員会等の決定 2-2 SICE2024 バンケット等での広報 3. SICE2023 (現地+オンライン) の実績解析、問題点の把握と改善 4. SICE2026 以降の開催についての検討 <ol style="list-style-type: none"> 4.1 開催地選定の方法の改善の是非・検討 4.2 オンライン・ハイブリッド等、AC の開催形態についての検討 (継続) 5. 支部・部門における、実施に関わる負荷分散の検討 6. AC 参加者データベースの構築と活用の検討 (継続) 	<p>その先検討中</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 支部・部門における、実施に関わる負荷分散の検討 検討中 6. AC 参加者データベースの構築と活用の検討 (継続) 一旦保留
--	--

2024 年度事業計画	2024 年度実施結果
<p>●7～12 月</p> <p>1-1 海外学会との交流</p> <p>1-1-1 海外学会との共催・協賛、ならびに Technical Co-Sponsorship の締結・推進</p> <p>1 海外学会イベントの共催・協賛管理</p> <p>2 MOU 締結状態の維持、新規締結検討（適宜） （更新時：内容検討/更新可否の議論）</p> <p>3 SICE AC2024 の Tech. Co.締結/IEEE Conference Application 登録作業（w/事務局）</p> <p>- Tech. Co. 依頼発信作業着手 IEEE CSS/RAS/IES, 韓国 ICROS, 中国 TCCT, タイ ECTI,CACS,ISA,JEMIMA</p> <p>1-1-2 海外団体との交流</p> <p>旧来の「代表者派遣」の考え方を見直し、オンライン参加・オンライン会議を活用した新しい交流活動の推進を検討。</p> <p>1-1-3 海外学会・団体との関係維持・強化</p> <p>1 各種国際会議への SICE AC 2022/2024 案内早期発信</p> <p>2 関係維持管理の効率化（w/事務局） / 関係強化方法、SICE AC 活性化(海外投稿数増)方法等検討</p> <p>1-2 Annual Conference を通じた国際活動</p> <p>1-2-1 SICE AC 2022 対応</p> <p>1 Invitation の早期発行（ビザ必要国）</p> <p>2 VIP Reception 実施（プログラム、司会等）</p> <p>3 Friendship Lunch Meeting 実施（記念品準備、司会、協力関係確認（SICE 事務局と協力））</p> <p>- ICROS,ECTI,TCCT 等</p> <p>4 STGA 選考・表彰（応募受理・整理（事務局）、審査・選考、表彰状（事務局）、Award Ceremony 司会）</p> <p>1-3 国際団体への協力活動</p> <p>1-3-1 IFAC 委員会連携</p> <p>1 IFAC2024 実行委員会への参加</p> <p>2 IFAC2024 世界大会(横浜)開催支援（体制助言、国際化準備資金活用）</p> <p>3 IFAC 関連会議活動広報</p> <p>4 制御部門との連携</p> <p>1-3-2 IROS2022 に向けた活動支援</p> <p>1 IROS2022(京都)実行委員会との連携・活動支援（国際化準備資金活用）</p> <p>2 SI 部門との連携</p> <p>2-1 SICE の国際プレゼンス向上活動</p> <p>2-1-1 海外人材育成</p>	<p>●7～12 月</p> <p>左記項目を実施</p> <p>特記事項：</p> <p>IROS 等, 会長, 事務局長派遣</p> <p>国際主催共催会議推進WG, 立ち上げカンファレンス委員会配下 WG 委員長 東京理科大・吉田英二先生 国際主催共催会議推進資金の運用を検討する</p> <p>カンファレンス委員会内ビジネス SNS, 導入 Slack というシステムを使用, 無料 まずは協賛承認・集計作業を省力化</p> <p>SICE FES 初回実績 台風による多大な影響をうけつつ成功</p> <p>AC 部分参加者数：527 名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般参加者：507 ・招待参加者：20(事務局 6 名含む) 不定：13 名 不参加：136 <p>ヨビノリさん講演： オンライン参加 161 現地参加 200 人程度。</p> <p>GiC（オンライン開催） 小学生 1 名（女子 1 名）+保護者 1 名 （申込は 4 名）</p> <p>SICE ジュニア（対面） 小学生 7 名（女子 2 名）+保護者 6 名 （申込は 9 名）</p> <p>制御工学勉強会 現地：16 名（SICEFES 参加者） オンライン：35 名 （FES 参加登録者以外は保護者含めて、 2+13+35=50）</p> <p>当初見込み SICE 心柱（647 人） 登録者数：617 人（会員メイン） （論文数：RP(128)+PP(153)+LP(74)=355 本） 当日参加見込み：約 30 人（～50 人）</p> <p>SICE EFS（325 人） ヨビノリさん講演会：160 人（地元大学生） ジュニア・GIC：20 人（地元小中高生） 制御工学勉強会 in SICE FES!!：50 人 （会場参加以外のオンライン参加） 香美キャンパスのホンダの試乗体験イベント：95 人（一般の人々）</p>

<p>1 アジア地区他学会カンファレンス支援</p> <ul style="list-style-type: none"> - Joint Session 検討支援 (韓国 ICROS, タイ ECTI, 中国 TCCT, 台湾 CACS, インド CS) <p>2-1-2 海外コミュニティ活動支援</p> <p>1 SICE2022 コミュニティ支援</p> <ul style="list-style-type: none"> - コミュニティ WS 支援 (AC 委) - ASEAN 地域学生支援 (AC 委, 実行委員会) <p>前 Annual Conference 委員会</p> <p>1. SICE2024 (高知) の実施</p> <p>1-1 日本語イベント (WS や企業展示, ダイバーシティ関連) の実施</p> <p>1-2 企業 (賛助会員) 向け企画の実施</p> <p>1-3 SICEWEEK2024 の実施</p> <p>2. SICE2024 の準備、広報 (継続)</p> <p>2-1 SICE2026 の準備、実行委員会等の決定</p> <p>2-2 SICE2024 バンケット等での広報</p> <p>3. SICE2024 (高知) の実績解析、問題点の把握と改善</p> <p>4. SICE2026 以降の開催についての検討</p> <p>4.1 開催地選定の方法の改善の是非・検討</p> <p>4.2 オンライン・ハイブリッド等, AC の開催形態についての検討 (継続)</p> <p>5. 支部・部門における, 実施に関わる負荷分散の検討 (継続)</p> <p>6. AC 参加者データベースの構築の活用と検討 (継続)</p>	<p>→SICE 宣伝チラシを配布することで広報 合計：972 人</p>
---	---

2024 年度事業計画・実施報告

組織名	インダストリ委員会	担当	佐藤委員長、手塚副委員長
-----	-----------	----	--------------

2024 年度事業計画（本組織担当分）
<ul style="list-style-type: none"> ・国際標準化活動の促進および表彰（8.4） ・賛助会員の困りごと・期待の調査（10.2） ・賛助会員サロンの企画・実施 ・他団体との連携セミナー企画（11.1） ・ニューインダストリ分野（自動車・ロボット等）の企画推進（11.2） ・IFAC2023 Industry Group 活動継承（Wagora 活動立ち上げ）（12.1）

2024 年度事業計画	2024 年度実施結果
<p>●1～6 月 委員会開催：2 回以上予定</p> <p>◆企業への情報発信と教育支援</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 工業会との連携セミナー企画推進（JEMIMA、NECA 他） 2) 「安全のための計測・制御・システムを考える会」の活動（定期的な会合） 3) 計測展 2024 への参画検討 4) IFAC2023 IG 活動継承 Wagora の推進サポート 5) 賛助会員の困りごと・期待の調査（総務委員会等と連携） <p>◆国際標準化活動の促進および表彰</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) SICE_FES 2024（8 月：高知工科大学）SICE Industry に向けた SPS の企画策定、および Plenary Talk の企画・招聘 2) 国際標準化動向の調査 <ul style="list-style-type: none"> ・AC の論文の調査 ・リエゾン委員との情報交換 3) 特に、SDGs やカーボンニュートラルなど社会課題への貢献という視点でトピックスがあれば随時情報共有を図る。 4) 国際標準化関連の情報発信検討 5) 国際標準化賞の推薦 功績賞と奨励賞の候補者について、その妥当性を評価・審議し、適当と認められた者を学会賞委員会に推薦する。 6) JIS 規格の定期見直しと改廃の検討 7) 国際標準化の課題検 	<p>●1～6 月 委員会開催：2 回実施（4/12、6/5）</p> <p>◆企業への情報発信と教育支援</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) SICE FES、計測展 OSAKA(10/30-11/1)での連携セミナーを企画 2) 1/30、5/29、6/11 に安全サロンを開催 3) 計測展 OSAKA にて、SICE ブース展示、パネルディスカッション(SICE-DIA と連携)、学生ポスター展示/ライトニングトーク 3) 計測展 OSAKA にて、ブース展示を計画 4) 6/13 に Wagora 第 1 回ミーティング開催。9 月に第 2 回公開フォーラムを計画中。 5) 6/3 に SICE エグゼクティブサロン 第 1 回を開催。東京理科大学学長 石川正俊氏に講演いただき、意見交換実施。 <p>◆国際標準化活動の促進および表彰</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) SICE FES でネット部会と連携して OT セキュリティの標準化に関する Special Panel Sessions を行う。Plenary Talk には OT セキュリティに関する世界の第一人者である米国の Eric Cosman 氏を招聘する。 2) 5/14 奨励賞(SICE FES 2024 で表彰予定)に 1 件応募あり。推薦小委員会で応募者の審査を実施した。 3) JIS 規格の定期見直しと改廃を検討中。 4) 国際標準化の課題として、関係者(SICE/JEMIMA/NECA)からは高齢化・若手の育成が挙げられている。

2024 年度事業計画	2024 年度実施結果
<p>●7～12 月</p> <p>委員会開催：3 回</p> <p>◆会員への情報発信と教育支援</p> <p>1) 工業会との連携セミナー企画推進 (JEMIMA、NECA 他) 計測展 2024 参画</p> <p>2) 「安全のための計測・制御・システムを考える会」の活動 (定期的な会合)</p> <p>3) Wagora の活動</p> <p>4) 賛助会員の困りごと・期待の調査 (総務委員会等と連携)</p> <p>◆国際標準化活動</p> <p>1) SICE 2024 (9 月：高知工科大学) での OS を企画・実施する。</p> <p>2) 国際標準化動向の調査 ・AC の論文の調査 ・リエゾン委員との情報交換</p> <p>3) 国際標準化関連セミナーの開催検討</p> <p>4) 国際標準化賞の推薦 (上期にて実施)</p> <p>5) JIS 規格の定期見直しと改廃の検討</p> <p>6) 国際標準化の課題検討</p>	<p>●7～12 月</p> <p>・委員会開催：3 回(8/23、12/9、1/17)</p> <p>◆会員への情報発信と教育支援</p> <p>1) ・ARC アジアフォーラム 2024(7/2 両国 KFC ホール) パネル企画/ブース出展 ・計測展 2024 OSAKA 連携活動(10/30-11/1 グランキューブ大阪) 出展者セミナー、学生ライトニングトーク支援、3 団体パネルディスカッション ・第 10 回沖縄海洋ロボットコンペティションへ協賛(11/16-17 宜野湾マリン支援センター)</p> <p>2) 安全のための計測・制御・システムを考える会 TF(7/16、10/16)サロン(10/16) ※安全 TF 有料講習会(1/20)</p> <p>3) Wagora ミーティング開催(9/19、11/25) 公開オンラインフォーラム(11/25)</p> <p>4) ・1/22 に SICE エグゼクティブサロン第 2 回開催。 京都大学名誉教授榎木哲夫氏に講演いただき、意見交換実施。 ・SICE FES 2025 の SICE Industry 広報活動 (HP 等) ・産業応用部門大会における SICE Industry 活動の発表(11/20 法政大学)</p> <p>◆国際標準化活動</p> <p>・国際標準化委員会 開催：2 回(11 月 4 日、12 月 4 日)</p> <p>1) SICE 2024 の関連企画の企画、準備、実行。 ・国際標準化スペシャルパネルセッション ・JEMIMA プレナリトーク:Eric Cosman 氏</p> <p>2) 国際標準化動向の調査 ・SICE FES 論文の調査→ネット部会 OS に安全・セキュリティ標準関連の発表 ・リエゾン委員との情報交換 (国際標準化委員会にて実施)</p> <p>3) 国際標準化賞→奨励賞 1 件授与(FES)</p> <p>4) JIS 規格の廃止提案</p> <p>5) 国際標準化の課題検討 ・SICE 各部門/部会の標準化関連活動の把握→アンケート調査の実施</p>

2024 年度事業計画・実施報告

組織名	メンバー委員会	担当	村山委員長、小野副委員長
-----	---------	----	--------------

2024 年度事業計画（本組織担当分）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 企業会員のための施策の強化(10) 企業会員のためのチュートリアル講演会の企画・実施 WG の設置(10.3) 企業成果の効果的発信と論文発表形式の見直し(10.1) ・ 会員への情報発信と教育支援(9) SICE 内相談窓口機能の設置検討（技術相談、講演相談等） 企業（賛助会員等）を対象としたイベント開催による企業技術者教育と情報発信強化、非会員に向けた情報発信 SICE 共創塾の企画と運営 継続事業の着実な実施とコンプライアンスの順守（6.1） アフターコロナにおける新たな学会活動スタイルの推進（6.2）

2024 年度事業計画	2024 年度実施結果
<p>●1～6 月 委員会活動：2 回</p> <p>◆企業会員のための施策の強化 ・ 新 WG によるチュートリアル講演会の企画</p> <p>◆会員への情報発信と教育支援 ・ 「安全のための計測・制御・システムを考える会」の活動</p> <p>・ 体験セミナー・企業見学会 年間計画策定(3 月) －準備、実施、フォローアップ</p> <p>・ 産業応用セミナー(教育・認定委員会と連携) －実施、フォローアップ</p> <p>・ その他友好団体との連携 －男女共同参画学協会連絡会への参加 －夏の学校出展準備 －会員増強施策の検討</p> <p>・ SNS コンテンツの拡充フォロー</p> <p>◆広報・リエゾン機能の強化活動 ・ ISCIE 連携 －企画運営会議・ステアリング会議(5 月) －SSH 出展準備</p>	<p>●1～6 月 2024 年 2 月 2 日（金） 2024 年 4 月 26 日（金）</p> <p>特になし</p> <p>特になし</p> <p>特になし</p> <p>2024/6 開催の総会に参加</p> <p>2024/8/10-12 の開催に向けて準備</p> <p>特になし</p> <p>2024/7/2 コンテンツ制作のための座談会を実施</p> <p>2024/5/25 ISCIE 連携会議を大阪工業大学でハイブリッド開催</p> <p>特になし</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・ JEMIMA 連携 <ul style="list-style-type: none"> － IIFES、計測展、スマート保安など － JEMIMA-SICE 連携会議(3月) ・ 横幹連合連携 <ul style="list-style-type: none"> － 定時総会(4月) ・ その他学会連携 <ul style="list-style-type: none"> － 他学会行事協賛(随時) ◆ 教育・認定活動 教育 WG SICE エンジニア認定 <ul style="list-style-type: none"> － WG 会合 (3, 5月) － 試験問題の作成 － オンライン実施の日程確定・準備 － 受験者増対策の検討, 受験者勧誘 学生受講者のインセンティブとして事業会 員 サ委員会と連携して「産業応用セミナー」 を 実施する 会員ページで認定試験スコアの確認ができ る ようにウェブサイトを整備 ・ プロセス塾(プロセス新塾 2023) 第 4 回目 (1月) 第 5 回目 (2月) 第 6 回目 (3月) 第 7 回目 (4月) 第 8 回目 (5月) － プロセス新塾 2024 実施計画の策定 － WG 会合 － 教育内容を検討 (通年) － 次年度以降計画の検討 ・ SICE 共創塾 <ul style="list-style-type: none"> － 企業エンジニアの新たな気づきの場の提供 － SICE CPS 共創塾の企画 － 5月実施に向け, WG 会合 (1,2,3,4月) ・ オンデマンド受講動画の整備 <ul style="list-style-type: none"> － SICE 関連分野に関する学びが可能な動画の 調査 － 動画ポータルサイト構築と公開に向けての準備 ・ CPD ポイント <ul style="list-style-type: none"> － ポイント集計と表彰者決定 ・ JABEE <ul style="list-style-type: none"> － 情報収集 (通年) － 審査支援 (通年) 	<p>IIFES2024 に SICE として出展 特になし</p> <p>2024 年 5 月 23 日 の定時総会に参加 特になし</p> <p>準備中</p> <p>準備中</p> <p>第 4 回目 (1月) 第 5 回目 (2月) 第 6 回目 (3 月) 第 7 回目 (4月) 第 8 回目 (5月) を実施</p> <p>準備中</p> <p>実施体制について検討中</p> <p>WEB 発信のあり方について検討中</p> <p>準備中</p> <p>機械学会との連携について確認</p>
--	---

2024 年度事業計画	2024 年度実施結果
<p>●7～12 月</p> <p>委員会活動：3 回</p> <p>◆企業会員のための施策の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新 WG によるチュートリアル講演会の企画 <p>◆会員への情報発信と教育支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その他友好団体との連携 <ul style="list-style-type: none"> －男女共同参画学協会連絡会への参加 －夏の学校出展（8 月） ・SICE 内相談窓口機能の設置に向けた具現化 ・会員増強施策の検討まとめ ・SNS コンテンツの拡充フォロー <p>◆広報・リエゾン機能の強化活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ISCIE 連携 <ul style="list-style-type: none"> －ステアリング会議(11 月) －SSH 出展 ・横幹連合連携 ・その他学会連携 <ul style="list-style-type: none"> －他学会行事協賛(随時) <p>・日本学術会議と連携（多分野応用小委員会） <ul style="list-style-type: none"> －自動制御連合講演会 開催協力 </p> <p>・リエゾン機能を持つ組織（委員会、WG 等）の検討まとめ</p> <p>◆教育・認定活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SICE エンジニア認定 <ul style="list-style-type: none"> －WG 会合（7, 9 月） －試験問題の作成 －オンライン実施の日程確定・準備 －受験者増対策の検討，受験者勧誘 学生受講者のインセンティブとして事業会員サ委員会と連携して「産業応用セミナー」を実施する 会員ページで認定試験スコアの確認ができるようにウェブサイトを整備 	<p>●7～12 月</p> <p>委員会活動 2 回</p> <p>2024 年 7 月 29 日</p> <p>2024 年 10 月 21 日</p> <p>（男女共同参画学協会連絡会） 「連絡会」に出席した 「女子中高生夏の学校 2024」 （2024 年 8 月 11 日（日）@国立女性教育会館）にて、ポスター展示と進路&キャリア相談実施」</p> <p>（Youtube チャンネル「公益社団法人計測自動制御学会」にてコンテンツ公開） 第 2 回 人追従型走行ロボット車の社会実装 地方創生を目的とした研究 -2024/03/02 第 3 回：SICE で活躍する女性研究者 (2024/10/10)</p> <p>（保育サービス） SICE FES 2024 期間中に保育サービス実施</p> <p>（ISCIE 連携）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連合講演会会場にてステアリング会議実施 ・SSH 展は開催されなかった <p>（横幹連合）以下に参加</p> <p>第 15 回横幹連合コンファレンス 日時：2024 年 12 月 14 日（土）、15 日（日） 場所：東京科学大学 大岡山キャンパス</p> <p>第 16 回横幹連合コンファレンス 日時：2025 年 12 月 13 日（土）、14 日（日） 場所：金沢工業大学</p> <p>高知工科大学永国寺キャンパスにて「Girls in Control」を実施（台風のため部分実施）</p> <p>第 67 回自動制御連合講演会を実施 （当年幹事学会は ISCIE） 2024.11.23（土）-24（日）at 姫路商工会議所</p> <p>エンジニア認定について、継続して検討した。</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・プロセス塾 <ul style="list-style-type: none"> －プロセス新塾 2024 実施 －プロセス新塾 2025 実施計画の策定 －WG 会合 －教育内容を検討（通年） ・ SICE 共創塾 <ul style="list-style-type: none"> －企業エンジニアの新たな気づきの場の提供 －SICE CPS 共創塾の企画 －11 月実施に向け，WG 会合（6,7,8,9 月） ・ オンデマンド受講動画の整備 <ul style="list-style-type: none"> －SICE 関連分野に関する学びが可能な動画の調査 －動画ポータルサイトの構築と公開に向けての準備 ・ CPD ポイント <ul style="list-style-type: none"> －表彰式・賞状授与 ・ JABEE <ul style="list-style-type: none"> －情報収集（通年） －審査支援（通年） 	<p>(プロセス塾：2024 年下期実施)</p> <p>1 回目:10 月 11 日(金),12 日(土)(慶応日吉) 2 回目:11 月 8 日(金) (Webex) 3 回目:12 月 6 日(金), 7 日(土) (慶応日吉)</p> <p>(プロセス塾：2025 年上期実施予定)</p> <p>4 回目:2025 年 2 月 7 日(金) (Webex) 5 回目:2 月 28 日(金) (北海道/苫小牧) 6 回目:3 月 7 日(金) (慶応日吉) 7 回目:4 月 11 日(金) (Webex) 8 回目:5 月 16 日(金) (兵庫県/加古川)</p> <p>(SICE 共創塾) 実施方法を継続検討</p> <p>(オンデマンド受講)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ オンデマンド受講のための WEB サービス検討を継続 <p>(CPD)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 継続して CPD ポイント集計し、高得点者を表彰した <p>(JABEE)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本機械学会等と連携
---	---

2024 年度事業計画・実施報告

組織名	部門協議会	担当	倉橋議長、榊原副議長
-----	-------	----	------------

2024 年度事業計画（本組織担当分）
<ul style="list-style-type: none"> ・ Society 5.0 における SICE の役割明示とそのプロモーションのために、講習会開催や会誌発行による情報発信 (7.1) ・ AI、IoT、ビッグデータ等新しい技術に関する SICE 企画 (9.1) ・ 部門へのインセンティブルールの見直し (1.1) ・ 継続事業の着実な実施とコンプライアンス順守 (6.1) <p>【副担当】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 強化すべき広報機能の明確化と広報体制の検討 ・ SICE 活動を俯瞰したリエゾン機能を持つ組織（委員会、WG 等）の検討。広報機能強化との合同/連携の検討 ・ 部門・支部行事への参加者情報（会員 / 非会員）の整備および参加者動向の分析。会員数減少への対策 WG の設置の検討 (9.1)

2024 年度事業計画	2024 年度実施結果
<p>●1～6 月</p> <p><u>1. 部門活動の促進サポート(6.1)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3 回の部門協議会を開催 <p><u>2. 支部協議会との連携(6.1)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 支部協議会への参加と情報共有 ・ 合同の協議会を開催し合同講演会開催の検討 <p><u>3. 企画委員会などとの連携強化(9.1、1.1、6.1)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 財務委員会、企画委員会に参加し、内容を部門へ報告 <p><u>4. 部門活性化方策の検討と活動の広報の見直し(7.1、9.1、1.1)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 会員情報 DB 整備、部門ごとの名簿の整理 ・ 各 WG と専門委員会の活動状況把握 ・ 部門関連データの活用策検討 <p><u>5. 部門運営の負荷の把握および効率化の検討(6.1)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各部門における活動の把握 ・ 各部門から SICE 本体選出委員の把握 ・ 会員の希望と負担のバランス調査 	<p>●1～6 月</p> <p><u>1. 部門活動の促進サポート(6.1)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2 回の部門協議会 (1/24, 4/8) を開催 3 回目は 7/10 に開催予定 <p><u>2. 支部協議会との連携(6.1)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 支部協議会への参加と情報共有 ・ 執行部が参加する合同の協議会を 7/17 に開催予定 <p><u>3. 企画委員会などとの連携強化(9.1、1.1、6.1)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 財務委員会 5/15、企画委員会 6/3 に参加し、内容を部門へ報告予定 <p><u>4. 部門活性化方策の検討と活動の広報の見直し(7.1、9.1、1.1)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 会員情報 DB・部門名簿整理を各部門で実施 ・ 各 WG と専門委員会の活動状況を部門協議会で共有 ・ 部門関連データの活用策として Web 統一は困難だが、情報の一元化を検討 ・ SICE DIA との連携強化を確認 <p><u>5. 部門運営の負荷の把握および効率化の検討(6.1)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 部門協議会にて各部門活動を把握 ・ 各部門から SICE 本体選出委員は把握せず、部門協議会にて会員の希望と負担のバランスに関する意見交換を実施 ・ 部門協議会への報告書について、各部門で粒度が異なることから、共有が必要な情報について各部門で再考

2024 年度事業計画	2024 年度実施結果
<p>●7～12 月</p> <p><u>1. 部門活動の促進サポート(6.1)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3 回の部門協議会を開催 <p><u>2. 支部協議会との連携(6.1)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 支部協議会への参加と情報共有 <p><u>3. 企画委員会などとの連携強化(9.1、1.1、6.1)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 財務委員会、企画委員会に参加し、内容を部門へ報告 <p><u>4. 部門活性化方策の検討と活動の広報の見直し(7.1、9.1、1.1)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 会員情報 DB 整備、部門ごとの名簿の整理 ・ 各 WG と専門委員会の活動状況把握 ・ 部門関連データの活用策検討 <p><u>5. AC 活性化、OS 企画・貢献(7.1、9.1)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各部門で個別実施 <p><u>6. 部門運営の負荷の把握および効率化の検討(6.1)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各部門における活動の把握 ・ 会員の希望と負担のバランス調査 ・ 上期の協議結果を踏まえた 2025 年度計画立案 	<p>●7～12 月</p> <p><u>1. 部門活動の促進サポート(6.1)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3 回の部門協議会を開催 2024/7/10 第 2 回 2024/10/4 第 3 回 2024/12/6 第 4 回 <p><u>2. 支部協議会との連携(6.1)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 支部協議会への参加と情報共有 ・ 部門と支部のオンライン連絡会の検討 <p><u>3. 企画委員会などとの連携強化(9.1、1.1、6.1)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 財務委員会、企画委員会に参加し、内容を部門へ報告 ・ 2024 年度拡大理事ワークショップの課題共有 <p><u>4. 部門活性化方策の検討と活動の広報の見直し(7.1、9.1、1.1)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各 WG と専門委員会の活動状況把握 ・ 部門関連データの活用策検討 ・ 人新世のシステム学技術専門委員会の活性化 ・ SICE-DIA と連携し、ダイバーシティ推進連携ワークショップ企画 <p><u>5. AC 活性化、OS 企画・貢献(7.1、9.1)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各部門で個別実施 <p><u>6. 部門運営の負荷の把握および効率化の検討(6.1)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各部門における活動の把握 ・ 会員の希望と負担のバランス調査 ・ 2025 年度計画立案の準備 ・ 複数年度予算運用

2024 年度事業計画・実施報告

組織名	計測部門	担当	大串部門長
-----	------	----	-------

2024 年度事業計画（本組織担当分）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 支部再編に向けた意向調査に基づく協議と部門へのインセンティブルールの見直し (3.3) ・ 継続事業の着実な実施とコンプライアンスの順守 (6.1) ・ Society 5.0 における SICE の役割明示とそのプロモーションのために、講習会開催や会誌発行による、メーカ、サービス、ユーザ企業さらに異業種を含む社会への情報発信 (7.1)

2024 年度事業計画	2024 年度実施結果
<p>●1～6 月</p> <p>1 月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 温度計測部会運営委員会 <p>2 月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 先端電子計測部会運営委員会 ・ 第 124 回力学量計測部会行事: 力学量計測部会講演会・見学会 ・ センシングフォーラム運営委員会 ・ 計測部門運営委員会 <p>3 月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ パターン計測部会協賛企画・動的画像処理実利用化ワークショップ ・ 第 47 回リモートセンシングシンポジウム <p>4 月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ パターン計測部会 Technical Sponsor: QCAV2024 (隔年開催で今年度は無し) ・ 第 152 回温度計測部会行事: 講演会 <p>6 月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 力学量計測部会運営委員会 ・ 第 125 回力学量計測部会行事: 第 70 回有機微量分析合同シンポジウム(岐阜大学) ・ センシングフォーラム運営委員会 ・ 計測部門運営委員会 	<p>●1～6 月</p> <p>1 月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <p>2 月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ・ (力学量計測部会見学会は 5 月に延期) ・ 2/9(金)2023 年度 第 4 回 / 2024 年度 第 1 回計測部門運営委員会(オンライン開催)参加者 12 名 ・ 2/29(木)2023 年度 第 3 回センシングフォーラム運営委員会(オンライン開催)参加者 15 名 <p>3 月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3/4(月)-5(火)パターン計測部会協賛企画・動的画像処理実利用化ワークショップ (DIA2024)(大分・別府)参加者 225 名 ・ リモートセンシング部会は閉会 <p>4 月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ・ <p>5 月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 5/20 第 124 回力学量計測部会行事: 力学量計測部会講演会・見学会 (東京、(株)東日製作所 トルクセンター 参加者 10 名) <p>6 月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 6/18(火) 力学量計測部会運営委員会(通算 117 回) 事務局&オンライン 参加者 17 名 ・ 6/18(火) 2024 年度第 1 回センシングフォーラム運営委員会 (オンライン) 参加者 19 名 ・ 6/18(火) 2024 年度第 2 回計測部門運営委員会 (オンライン) 参加者 9 名

2024 年度事業計画	2024 年度実施結果
<p>●7～12 月</p> <p>7 月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <p>8 月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パターン計測部会協賛行事: 画像の認識・理解シンポジウム(MIRU2024) <p>9 月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計測部門大会 第 41 回センシングフォーラム ・センシングフォーラム運営委員会 ・計測部門運営委員会 <p>10 月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <p>11 月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第 29 回パターン計測シンポジウム ・第 153 回温度計測部会行事: 見学会 ・スマートセンシングシステム部会研究会 (電子情報通信学会と併催) ・第 126 回力学量計測部会行事: 計量史をさぐる会 <p>12 月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パターン計測部会共同企画: ビジョン技術の実利用ワークショップ ViEW 2024 ・力学量計測部会運営委員会 	<p>●7～12 月</p> <p>7 月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第 125 回力学量計測部会行事 第 41 回合同シンポジウム (第 91 回日本分析化学会有機微量分析研究懇談会・第 125 回計測自動制御学会力学量計測部会) 7 月 11 日～7 月 13 日、参加者 74 名 ・スマートセンシングシステム部会研究発表会、7/18-19 (はこだて未来大学)、発表 10 件、参加者 12 名 <p>8 月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パターン計測部会協賛行事: 画像の認識・理解シンポジウム(MIRU2024)、参加者 1591 名、発表 629 件 <p>9 月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9/12(木)～13(金)第 4 1 回センシングフォーラム (長崎大学) 参加者 108 名 ・9/12(木) 2024 年度第 2 回センシングフォーラム運営委員会 (長崎大学) 参加者 21 名 ・9/13(金) 2024 年度第 3 回計測部門運営委員会 (長崎大学) 参加者 9 名 <p>10 月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第 126 回力学量計測部会行事: 計量史をさぐる会 (八王子)、10 月 4 日、参加者 20 名、発表 3 件 <p>11 月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第 29 回パターン計測シンポジウム (神戸)、11 月 20 日、参加者 15 名、発表 7 件 ・ ・ <p>12 月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12/5(木)～6(金) ビジョン技術の実利用ワークショップ ViEW 2024 (パシフィコ横浜アネックスホール) 参加者 708 名、発表 100 件 ・12/2(月) 力学量計測部会運営委員会(通算 118 回) 事務局&オンライン 参加者 27 名、発表 1 件

2024 年度事業計画・実施報告

組織名	制御部門	担当	中川（繁） 部門長
-----	------	----	-----------

2024 年度事業計画（本組織担当分）
<p>SICEミッションと事業計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SICE2024に向けた部門・支部・委員会連携企画（3.1） ・ 特定費用準備資金の有効活用（3.2） ・ Society 5.0, SDGs等社会課題へのSICEの取り組みと連携した部門活動の可視化（7.1、7.2） ・ SICE2024の開催支援等を通じたSICEの国際性向上（8.1） ・ AI, IoT, ビッグデータ等新しい技術に関するSICE企画（9.1） ・ コンファレンス活動（AC、部門大会、部会研究会、支部大会等）の全体調整と見直し（1.1）

2024 年度事業計画	2024 年度実施結果
<p>●1～6 月</p> <p>第11回制御部門マルチシンポジウム（MSCS2024）開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SICE International Symposium on Control Systems 2024 ・ 第52回 制御理論シンポジウム ・ 第15回 プラントモデリングシンポジウム ・ 第24回 適応学習制御シンポジウム ・ 第43回 誘導制御シンポジウム ・ 第10回 システム構築と制御技術シンポジウム <p>MSCSにおける産業応用部門とのJoint OS等の検討</p> <p>部門賞贈呈式</p> <p>第1回制御部門運営委員会開催</p> <p>各委員会・部会・調査研究会の運営委員会・研究会・講演会・見学会・セミナーなどの実施</p>	<p>●1～6 月</p> <p>1 月 19 日 Society 5.0 に資する適応学習制御調査研究会 第 5 回適応学習制御セミナー 参加者 121 名</p> <p>3 月 4 日 Society 5.0 に資する適応学習制御調査研究会 第 6 回適応学習制御セミナー 参加者 67 名</p> <p>3 月 17-20 日 第 11 回制御部門マルチシンポジウム（MSCS2024）を開催（広島大学）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 左記の各シンポジウム、部会・調査研究会等企画の OS を実施。 ・ 発表件数 261 件 ・ 参加者数 502 名，他招待者 31 名 <p>3 月 19 日 MSCS2024 において，部門賞贈呈式を実施</p> <p>3 月 19 日 Society5.0 に資する適応学習制御調査研究会第 4 回委員会開催</p> <p>3 月 20 日 第 1 回制御部門運営委員会開催</p> <p>4 月 5-6 日 プラントモデリング部会・研究会「モデルベースデザインとデータ行動型モデリング」開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 発表件数：6 件 ・ 参加者：198 名 <p>6 月 11 日 データモデル駆動融合による先進的流体・気象制御調査研究会 第 1 回研究会開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 発表件数：4 件 ・ 参加者：30 名

2024 年度事業計画	2024 年度実施結果
<p>●7～12 月</p> <p>第 2 回制御部門運営委員会開催</p> <p>第 12 回制御部門マルチシンポジウム (MSCS2025)の企画・検討・準備</p> <p>部門賞の選考</p> <p>SIYA CDC 2024 の選考と贈呈</p> <p>産業応用部門大会における Joint OS の開催</p> <p>第 3 回制御部門運営委員会開催</p> <p>各委員会・部会・調査研究会の運営委員会・研究会・講演会・見学会・セミナーなどの実施</p>	<p>●7～12 月</p> <p>7 月 12 日 Society 5.0 に資する適応学習制御調査研究会 第 7 回適応学習制御セミナー (参加者 87 名)</p> <p>7 月 26 日 Society 5.0 に資する適応学習制御調査研究会 第 8 回適応学習制御セミナー (参加者 127 名)</p> <p>8 月 28 日 Society 5.0 に資する適応学習制御調査研究会 第 5 回委員会 (参加者 127 名)</p> <p>9 月 10 日, 11 日 制御理論部会 制御理論若手合宿 2024 (発表 44 件、参加者 55 名)</p> <p>9 月 12 日 制御理論部会第 2 回運営委員会</p> <p>9 月 17 日 SICE セミナー「モデル予測制御～最適制御の基礎から応用事例・ソフトウェアツールまで～」2024 (事業委員会) (参加者 63 名)</p> <p>9 月 18 日 Society 5.0 に資する適応学習制御調査研究会 第 10 回適応学習制御セミナー(参加者 77 名)</p> <p>9 月 24 日 第 2 回制御部門運営委員会開催</p> <p>10 月 15 日 Society 5.0 に資する適応学習制御調査研究会 第 11 回適応学習制御セミナー(参加者 75 名)</p> <p>11 月 12 日 SICE セミナー「モデル予測制御～最適制御の基礎から応用事例・ソフトウェアツールまで～」2024 (事業委員会) (参加者 99 名)</p> <p>11 月 15 日 (メール審議) SIYA CDC2024 の選考</p> <p>11 月 23 日、24 日 第 67 回自動制御連合講演会 (調査研究会等企画の OS 実施)</p> <p>11 月 24 日、25 日 人の理解/誘導で強化される制御システム調査研究会 CPHS 合宿(発表 20 件、参加者 27 名)</p> <p>11 月 25 日 Society 5.0 に資する適応学習制御調査研究会第 6 回委員会開催</p> <p>11 月 28 日 プラントモデリング部会・研究会「データサイエンスと制御設計の融合と将来展望」(発表 6 件)</p>

2024 年度事業計画・実施報告

組織名	システム・情報部門	担当	飯間部門長
-----	-----------	----	-------

2024 年度事業計画（本組織担当分）
<ul style="list-style-type: none"> ・継続事業の着実な実施とコンプライアンスの順守（6.1） ・アフターコロナにおける新たな学会活動スタイルの推進（6.2） ・SSI の実施体制の改善と持続可能な実施体制の模索 ・多様な人材の登用と部門活性化の検討

2024 年度事業計画	2024 年度実施結果
<p>●1～6 月 部門大会における部会・研究会とのシンポジウム共催の検討 部門大会の実行委員会などの組織化・開催準備 部会シンポジウムなどの開催（適宜、部門間ならびに部門内での連携・協調の可能性・有効性を模索） 部門賞選考プロセス（表彰委員会の構成・発表賞の選考）の点検・見直し 部門大会特集号の論文募集・査読プロセス管理・採録論文決定 活動計画実施状況のレビューと PDCA による評価・見直しのねらい・ポイントの再確認・明確化 部会・研究会の決算報告や部門予算管理におけるインセンティブの運用方策・方式について検討 Society 5.0 における SICE の役割明示とそのプロモーションのための情報発信方法の検討 会員情報 DB の整備と部門大会活性化の検討 境界と関係性調査研究会は新規調査研究会として申請中(以下新調査研究会)</p> <p>1 月 スマーターワールド 研究会・運営委員会</p> <p>第 36 回自律分散システムシンポジウム</p> <p>新調査研究会 研究会・運営委員会</p> <p>3 月 スマーターワールド 研究会・運営委員会 第 51 回知能システムシンポジウム（3/14-15）</p> <p>第 66 回システム工学部会研究会</p> <p>第 1 回システム工学部会運営委員会 第 1 回社会システム部会運営委員会</p>	<p>●1～6 月 部門大会で実施する企画を検討しているところである。 部門大会の実行委員会などが組織化され、開催の準備を進めている。 部会シンポジウムなどを開催したり、開催の準備を検討していたりする。</p> <p>部門賞選考プロセス（表彰委員会の構成・発表賞の選考）の点検・見直しを進めている。 部門大会特集号は企画していない。 活動計画実施状況をレビューし、PDCA による評価などを検討しているところである。 特定費用準備資金利用の促進を図っている。</p> <p>役割明示と情報発信方法は未検討</p> <p>部門大会の活性化を進めている。</p> <p>境界と関係性調査研究会は継続することとなった。</p> <p>1 月 スマーターワールド調査研究会は終了しているので、研究会・運営委員会は開催されていない。 （以下も同様なので記載を省略する） 第 36 回自律分散システムシンポジウムは 2 月の開催となった。 21 日 境界と関係性を視座とするシステム学調査研究会合同研究会（参加者 14 名）を開催した。</p> <p>2 月 16-17 日 第 36 回自律分散システムシンポジウム（東京農工大学、講演 54 件、参加者 99 名）を開催した。</p> <p>3 月 11-12 日 第 51 回知能システムシンポジウム（近畿大学、講演 35 件、参加者 62 名）を開催した。 8 日 第 66 回システム工学部会研究会（オンライン、特別講演 1 件、参加者 11 名）を開催した。</p>

<p>新調査研究会 知能システムシンポジウム OS 企画・運営委員会</p> <p>4 月 CI 部会運営委員会 (ZOOM 開催)</p> <p>5 月 新調査研究会 研究会・運営委員会 第 4 回 CPSoS 調査研究会</p> <p>6 月 スマーターワールド 研究会・運営委員会 第 24 回 CI 研究会, 部会運営委員会 第 35 回社会システム部会研究会 6/15, 22, 7/20,27</p> <p>第 71 回自律分散システム部会研究会</p>	<p>11-13 日 第 34 回社会システム部会研究会 (アートホテル石垣島+オンライン) を開催した。参加者 93 名, 発表 63 件</p> <p>12 日 2024 年第 1 会社会システム部会運営委員会 (アートホテル石垣島+オンライン) 参加者 17 名</p> <p>11 日 境界と関係性調査研究会が知能システムシンポジウムの OS「境界と関係性を視座とするシステム学」を企画した。</p> <p>4 月</p> <p>5 月 11 日 第 4 回 CPSoS 調査研究会 (金沢工業大学、見学会、17 名) を開催した。</p> <p>6 月 15, 22 日 第 35 回社会システム部会研究会 ハイブリッド (オンライン, 芝浦工業大学 大宮キャンパス)</p>
---	---

2024 年度事業計画	2024 年度実施結果
<p>●7～12 月 部門大会における部会・研究会とのシンポジウム共催の検討 部門大会の実行委員会などの組織化・開催準備 部会シンポジウムなどの開催（適宜，部門間ならびに部門内での連携・協調の可能性・有効性を模索） 部門賞選考プロセス（表彰委員会の構成・発表賞の選考）の点検・見直し 部門大会特集号の論文募集・査読プロセス管理・採録論文決定 活動計画実施状況のレビューと PDCA による評価・見直しのねらい・ポイントの再確認・明確化 部会・研究会の決算報告や部門予算管理におけるインセンティブの運用方策・方式について検討</p> <p>7 月 新調査研究会 HCII での OS 企画・運営委員会</p> <p>8 月</p> <p>9 月 第 36 回社会システム部会研究会 9/1-2, マホロバツインズ三浦 スマーターワールド 研究会・運営委員会 FAN シンポジウム, CI 部会運営委員会</p> <p>創発システム勉強会 新調査研究会 SICEAC での OS 企画・運営委員会</p> <p>10 月 分子ロボティクス年次大会および BIOMOD 国内大会</p> <p>11 月 SSI2024</p> <p>第 4 回部門運営委員会</p> <p>部門賞審査委員会</p>	<p>●7～12 月</p> <p>7 月 26 日 第 24 回コンピューターショナル・インテリジェンス研究会（京都府立中丹勤労者福祉会館＋オンライン、講演 6 件、参加者 12 名）を開催した。</p> <p>8 月</p> <p>9 月 3 日 第 71 回自律分散システム研究会（大阪府大阪市三上 plus02＋オンライン、講演 2 件、参加者 28 名）を開催した。 17 日 2024 年度第 2 回自律分散システム部会運営委員会（大阪大学＋オンライン、参加者 12 名）を開催した。 17 日 創発システム勉強会 2024（大阪大学＋オンライン、講演 2 件、参加者 35 名（仮））を開催した。 29 日 境界と関係性を視座とするシステム学調査研究会合同研究会（立命館大学茨木キャンパス、参加者 11 名）を開催した。</p> <p>10 月 5 日 第 5 回 CPSoS 調査研究会（京都先端科学大学＋オンライン、17 名）を開催した。</p> <p>11 月 13-15 日 SSI2024（富山県民会館，発表 162 件，参加者 263 名）を開催した。 14 日 第 4 回部門運営委員会（富山県民会館，議題 9 件，参加者 12 名）を開催した。 14 日 部門賞選考過程について部門運営委員会で報告した。</p>

<p>第2回システム工学部会運営委員会 第2回社会システム部会運営委員会</p> <p>新調査研究会 SICE SSI でのGS企画・運営委員会</p> <p>12月 スマーターワールド 研究会・運営委員会 第23回CI研究会, CIフォーラム, CI部会運営委員会 新調査研究会 研究会・運営委員会</p>	<p>14日 第2回知能工学部会運営委員会（富山県民会館、議題3件、参加者10名）を開催した。</p> <p>23-24日 境界と関係性を視座とするシステム学調査研究会2024例会(合宿研究会), (発表9件, 参加者10名) を開催した.</p> <p>12月 25日 第25回コンピューテーショナル・インテリジェンス研究会（クレオ大阪中央+オンライン、講演5件、参加者10名）を開催した。</p>
--	--

2024 年度事業計画・実施報告

組織名	システムインテグレーション部門	担当	平田（泰） 部門長
-----	-----------------	----	-----------

2024 年度事業計画（本組織担当分）
<ul style="list-style-type: none"> ・ Society 5.0 における SICE の役割明示とそのプロモーションのために講習会開催や会誌発行による情報発信（1. 1、7. 1） ・ 継続事業の着実な実施とコンプライアンスの順守（6. 1） ・ アフターコロナに向けた新たな学会活動スタイルの推進（6. 2） ・ 他団体表彰（FA 財団, WRS）（7. 2） ・ SICE が主催、共催する国際会議（IROS2024）への開催支援（8. 2）

2024 年度事業計画	2024 年度実施結果
<p>●1～6 月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 部門運営委員会（幹事団）による部会活動フォロー 計画消化, 支部・他部門連携, コンプライアンス ・ WWW サイト情報発信 ・ 部門学術講演会 SI 前年度会計処理フォロー ・ 部門学術講演会 SI 運営企画フォロー ・ 部門国際会議 SII 運営企画フォロー ・ SIYA-IROS 賞運営 ・ 運営委員会の部門協議会に合わせた開催 ・ 第 1 回運営委員会（1 月第 4 週予定） ・ 第 2 回運営委員会（3 月：メール審議） ・ 第 3 回運営委員会（3 月：メール審議） ・ FA 財団賞ノミネート 	<p>●1～6 月</p> <p>下記を計画通り実施した. 詳細は部門協議会で報告済</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 部門運営委員会（幹事団）による部会活動フォロー 計画消化, 支部・他部門連携, コンプライアンス ・ WWW サイト情報発信 ・ 部門学術講演会 SI 前年度会計処理フォロー ・ 部門学術講演会 SI 運営企画フォロー ・ 部門国際会議 SII 運営企画フォロー ・ SIYA-IROS 賞運営 ・ 運営委員会の部門協議会に合わせた開催 ・ 第 1 回 SI 部門新旧合同運営委員会 日時：2024 年 1 月 26 日（金） 場所：中央大学後楽園キャンパス（オンラインとハイブリッド） 議題：審議 5 件, 報告 6 件 計 11 件 参加人数：31 名（うちオンライン 18 名） ・ 第 2 回 SI 部門運営委員会 日時：2024 年 3 月 4 日（月）～3 月 8 日（金） 場所：メール審議 議題：審議 3 件, 報告 2 件 計 5 件 ・ 第 3 回 SI 部門運営委員会 日時：2024 年 3 月 30 日（土）～4 月 3 日（水） 場所：メール審議 議題：審議 2 件, 報告 3 件 計 5 件 ・ FA 財団賞ノミネートと選考 2024 年 5 月 27 日に幹事団で実施 ・ 部門賞募集と選定

2024 年度事業計画	2024 年度実施結果
<p>●7～12 月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部門運営委員会（幹事団）による部会活動フォロー 計画消化，支部・他部門連携，コンプライアンス ・WWW サイト情報発信 ・表彰委員会による部門賞選定と部門学術講演会における贈賞 ・レスキューロボットコンテスト ・RT ミドルウェアコンテスト ・当年度，次年度，次次年度部門学術講演会運営企画フォロー ・次年度部門国際会議 SII 開催に向けた SII Steering Committee の運営フォローと次次年度以降の SII 開催地、実行委員長選定、企画運営のフォロー ・SIYA-SII 賞運営 ・2024 年度体制の決定と予算策定の実施 ・本部委員の供出・情報発信 和英会誌，学会賞，AC，代議員 ・経産省 WRS 競技会 表彰 ・特定費用準備資金による IROS 事業支援 ・部門学術講演会 SI ・第 5 回運営委員会（7 月：メール審議） ・第 6 回運営委員会（8 月） ・第 7 回運営委員会（10 月：メール審議） 	<p>●7～12 月</p> <p>下記を計画通り実施した。詳細は部門協議会で報告済み。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部門運営委員会（幹事団）による部会活動フォロー 計画消化，支部・他部門連携，コンプライアンス ・WWW サイトにて情報を発信した ・表彰委員会による部門賞の募集を実施した ・部門運営委員会にて当年度，次年度，次次年度部門学術講演会の運営企画をフォローした。 ・第 5 回 SI 部門運営委員会 日時：2024 年 07 月 12 日 場所：メール審議 議題：8 件，報告 2 件 計 10 件 ・第 6 回 SI 部門運営委員会 日時：2024 年 08 月 27 日 場所：SICE FES 会場 議題：11 件，報告 6 件 計 17 件 ・レスキューロボットコンテスト 日時：6 月 23 日、8 月 10～11 日 場所：神戸サンボーホール+オンライン

<ul style="list-style-type: none"> ・第 8 回運営委員会（11 月：メール審議） ・2025 年度体制の決定と予算策定の実施 ・SIYA-SII 賞運営 ・次年度部門国際会議 SII 開催に向けた SII Steering Committee の運営フォローと次次年度以降の SII 開催地、実行委員長選定、企画運営のフォロー ・RT ミドルウェアコンテスト ・本部委員の供出・情報発信 和英会誌，学会賞，AC，代議員 ・経産省 WRS 競技会 表彰 ・特定費用準備資金による IROS 事業支援 ・部門学術講演会 SI ・第 9 回運営委員会（12 月） 	<ul style="list-style-type: none"> ・第 7 回 SI 部門運営委員会 日時：2024 年 10 月 21 日 議題：5 件，報告 6 件 計 11 件 ・第 8 回 SI 部門運営委員会 日時：2024 年 11 月 22 日 議題：7 件，報告 2 件 計 9 件 ・2025 年度体制の決定と予算策定の実施 ・SIYA-SII 賞運営，募集終了，審査委員会組織 ・次年度部門国際会議 SII 開催に向けた SII Steering Committee の運営フォローと次次年度以降の SII 開催地、実行委員長選定、企画運営のフォロー ・RT ミドルウェアコンテスト 日時：2024 年 12 月 18 日 場所：アイーナ岩手県民情報交流センター ・本部委員の供出・情報発信 和英会誌，学会賞，AC，代議員の選定 ・経産省 WRS 競技会 表彰 日時：2024 年 10 月 4 日～5 日 場所：福島ロボットテストフィールド ・特定費用準備資金による IROS 事業支援 日時：2024 年 10 月 14 日～18 日 場所：UAE ・部門学術講演会 SI2024 日時：2024 年 12 月 18 日～20 日 場所：アイーナ岩手県民情報交流センター ・第 9 回 SI 部門運営委員会 日時：2024 年 12 月 19 日 場所：マリオス、ハイブリッド 議題：審議 3 件、報告 8 件 計 11 件
--	---

2024 年度事業計画・実施報告

組織名	産業応用部門	担当	吉満部門長
-----	--------	----	-------

2024 年度事業計画（本組織担当分）
<ul style="list-style-type: none"> ・ AI、IoT、ビッグデータ等新しい技術に関する SICE 企画（9.1） ・ 企業会員のためのチュートリアル講演会の企画・実施（新 WG の検討）（10.3） ・ コンファレンス活動（AC、部門大会、部会研究会、支部大会等）の全体調整と見直し（1.1） ・ 新規特定用途準備資金の有効活用（3.2） ・ 継続事業の着実な実施とコンプライアンスの順守（6.1）

2024 年度事業計画	2024 年度実施結果
<p>●1～6 月</p> <p>◆部門運営委員会 新年度運営体制構築 部門大会企画準備 学会運営業務負荷低減策検討</p> <p>◆制御部門マルチシンポジウム（MSCS2024）との連携の企画・実施</p> <p>◆部会活動 会員企業向けセミナー(1) 計装寺子屋セミナー（3 月） よく知る会（5 月）</p> <p>◆産業応用部門大会 ・ 制御部門招待 OS 立案</p> <p>・ 部門賞候補者推薦募集</p> <p>・ 各部会主催行事の準備・実施</p>	<p>●1～6 月</p> <p>・ 部門運営委員会：</p> <p>2/29 第一回 新年度、体制の確認 年間イベントの確認 産業応用部門 2024 年度大会 2024 年 11 月 20 日（水） 場所 法政大学小金井キャンパス</p> <p>5/14 第二回 部門大会 各日程確認・企画準備</p> <p>3/18 制御部門マルチシンポジウム（MSC2024）との連携 産業応用部門招待 OS 企画・実施 発表件数 3 件</p>

2024 年度事業計画	2024 年度実施結果
<p>●7～12 月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部門運営委員会 部門大会の企画確認、各種広報 部門大会の実施準備⇒11/14 次年度部門大会での OS 連携に向けた企画調整 ・SICE AC(8 月)におけるスペシャルセッション や 関連 OS の運営・実施 ・産業応用部門大会(11/14)の実施 ・部門賞候補者推薦 審査・決定、表彰の実施 ・各部会主催行事の準備・実施 ・会員企業向けセミナー(2) 計装寺子屋セミナー (9 月) よく知る会 (12 月) 	<p>●7～12 月</p> <p>部門運営委員会</p> <p>7/19 第三回 部門大会について、会場確認</p> <p>10/4 第四回 部門大会、各種表彰について</p> <p>12/20 第五回 部門大会について会計報告</p> <p>産業応用部門大会(11/20)の実施 講演 18 件参加人数 33 名 法政大学小金井キャンパスにて実施</p> <p>計装技術交流部会 11/28 計装寺子屋セミナー (流量計)</p>

2024 年度事業計画・実施報告

組織名	ライフエンジニアリング部門	担当	中川（誠） 部門長
-----	---------------	----	-----------

2024 年度事業計画（本組織担当分）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 支部再編に向けた意向調査に基づく協議と部門へのインセンティブルールの見直し (3.3) ・ Society 5.0 における SICE の役割明示とそのプロモーションのために、講習会開催や会誌発行による、メーカ、サービス、ユーザ企業さらに異業種を含む社会への情報発信 (7.1) ・ 部門と支部を中心とした会員情報 DB の整備による会員管理及び 会員数拡大 ・ 国際化に向けて部門シンポジウム・研究会の国際化・海外研究者との交流等を推進 (8.4)

2024 年度事業計画	2024 年度実施結果
<p>●1～6 月</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本生体医工学会, 電子情報通信学会 ME と バイオサイバネティクス研究会等と合同で 生体医工学に関する講演会を実施する. 2. 前, 現, 次期, 次次期部門長会議により, 中期ビジョンが達成できる組織運営を築く. 3. 部門・部会合同運営委員会を実施することにより, 効率的な管理体制を構築し, 財務体質の健全化を図る. 4. 部門・部会のイベント開催や諸事業の収益構造の改善を通じて部門の財務体質の健全化を図る. 	<p>●1～6 月</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生体・生理工学部会講演会を開催した（電子情報通信学会 MBE 研究会・NC 研究会と共催, 3 月 11 日～12 日, 東京大学）[発表件数 2 件, 参加人数 ?名] 2. 第 10 回 SICE 電気生理運動学研究会・第 22 回日本電気生理運動学会を開催した（3 月 8 日, 東京工業大学, 電気生理運動学部会共催）[発表件数 16 件, 参加人数 30 名] 3. 第 1 回部門・4 部会合同運営委員会（4 月 9 日, オンライン）において, 今後の部門の在り方や学会運営に関して, 意見交換を行った. 4. LE 部門シンポジウム 2024 の開催（8 月 29 日～30 日）に向けての準備を進めている.

2024 年度事業計画	2024 年度実施結果
<p>●7～12 月</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ライフエンジニアリング部門シンポジウム／生体・生理工学シンポジウムを部門主導のもと、全部会の協力で実施する。 2. ライフエンジニアリング分野の若手研究者の研究を奨励するため、ライフエンジニアリング部門シンポジウム発表者の中から、優秀な研究者を選抜し、研究奨励賞を授与する。 3. 日本生体医工学会、電子情報通信学会 ME とバイオサイバネティクス研究会等と合同で大学院生、若手研究者を対象に、生体医工学に関するサマースクールを実施する。 4. 電気生理運動学部会において、研究会を実施する。 5. ユビキタスヘルスケア部会において、研究会を実施する。 6. 統合情報生物工学部会において、研究会を実施する。 7. 上期に引き続き、前、現、次期、次次期部門長会議により、中期ビジョンが達成できる組織運営を築く。 8. 上期に引き続き、部門・部会合同運営委員会を実施することにより、効率的な管理体制を構築し、財務体質の健全化を図る。 9. 上期に引き続き、部門・部会のイベント開催や諸事業の収益構造の改善を通じて部門の財務体質の健全化を図る。 	<p>●7～12 月</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 第 24 回 国際電気生理運動学会を電気生理運動学部会 主査の渡邊先生を大会長、副査の中村先生を実行委員として開催した(6 月 26～29 日 名古屋国際会議場) [参加人数：国内外合わせて 420 名] 2. 部門協賛事業として Bioengineering Hackathon in 生体医工学サマースクール 2024「生体医工学×歯科工学」を開催した(8 月 26～27 日, 神奈川県三浦市 ホテル マホロバマインズ三浦)。 3. ライフエンジニアリング部門シンポジウム 2024 を開催した(8 月 29 日～30 日, 大阪電気通信大学)。 4. ライフエンジニアリング部門シンポジウム 2024 の発表者から、優秀な研究者を選抜し、研究奨励賞を 1 名に、学生奨励賞を 2 名に授与した。 5. ライフエンジニアリング部門シンポジウム 2024 でオーガナイズドセッションを開催した(8 月 30 日, 大阪電気通信大学, ユビキタスヘルスケア部会) 6. 第 2 回部門・4 部会合同運営委員会(8 月 29 日, 大阪電気通信大学)において、今後の部門の在り方や学会運営に関して、意見交換を行った。 7. 第 80 回バイオ情報学(SIGBIO)研究会を開催した(12 月 4 日, 早稲田大学, 発表件数 10 演題, 参加者 18 名, 統合情報生物工学部会協賛)。

2024 年度事業計画・実施報告

組織名	支部協議会	担当	市村議長、池田（篤）副議長
-----	-------	----	---------------

2024 年度事業計画（本組織担当分）
<ul style="list-style-type: none"> ・カンファレンス活動(支部大会等)の全体調整と見直し(1.1) ・SICE2024 等における部門・支部・委員会連携企画(3.1) ・特定用途準備資金の有効活用(3.2) ・部門・支部のあり方についての検討（支部新設協議の継続）(3.3) ・支部活動の可視化、ウェブ発信(7.1) ・国際標準化活動の促進および表彰(8.4) ・AI、IoT、ビッグデータ等新しい技術に関する SICE 企画(9.1) ・若手及び中堅会員への活動支援の実施(9.2) ・地方活性化の検討（非会員地元企業との連携など）(10.4) ・SICE-DIA の啓蒙や情報発信の企画・実施(13.1)

2024 年度事業計画	2024 年度実施結果
<p>●1～6 月</p> <p>2 月 支部協議会準備会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各支部の新体制の確認 ・2024 年度支部協議会・各支部事業計画の確認 <p>①支部協議会 年 4 回開催</p> <p>②部門・支部合同会議 開催有無含め議論</p> <p>③各支部現況報告および支部事業計画確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支部活性化に関する検討状況の情報共有支部活動活性化策について： <ul style="list-style-type: none"> - 支部・部門活動好事例の共有及びその方法 - インセンティブ事業 - 部門・支部合同会議について など - その他 <p>3 月 部門・支部合同会議</p> <ul style="list-style-type: none"> - 支部活性化に関する検討 - その他 <p>4 月 第 1 回支部協議会（SICE 事務局＋Web）</p> <ul style="list-style-type: none"> - 審議事項：各支部付議事項の審議 - 各支部活動状況の確認（周年事業準備状況確認を含む） - 支部活性化に関する検討状況の確認 - その他 	<p>●1～6 月</p> <p>1 月 24 日第 5 回支部協議会（SICE 事務局＋Web）（支部協議会準備会）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各支部の新体制の確認 ・2024 年度支部協議会・各支部事業計画の確認 <p>①支部協議会 年 6 回開催</p> <p>②部門・支部合同会議 開催有無含め議論</p> <p>③各支部事業計画確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支部活性化に関する検討状況の情報共有支部活動活性化策について： <ul style="list-style-type: none"> - 支部・部門活動好事例の共有及びその方法 - インセンティブ事業 - 部門・支部合同会議について - 北関東支部設立について - その他 <p>3 月 部門・支部合同会議</p> <ul style="list-style-type: none"> - 今年度は開催を見送った <p>4 月 2 日 2023 年度第 6 回及び 2024 年度第 1 回支部協議会（SICE 事務局＋Web）</p> <ul style="list-style-type: none"> - 審議事項：各支部付議事項の審議 - 各支部活動状況の確認（周年事業準備状況確認を含む） - 支部活性化に関する検討状況の確認 - 北関東支部設立の検討継続について - その他

2024 年度事業計画	2024 年度実施結果
<p>●7～12 月</p> <p>7 月 第 2 回支部協議会 (SICE 事務局+Web)</p> <ul style="list-style-type: none"> - 審議事項：各支部付議事項の審議 - 各支部活動状況の確認 (周年事業準備状況確認を含む) - 支部活性化に関する検討状況の確認 - その他 <p>8 月 第 3 回支部協議会 (SICE 事務局+Web)</p> <ul style="list-style-type: none"> - 審議事項：各支部付議事項の審議 - 各支部活動状況の確認 (周年事業準備状況確認を含む) - 支部活性化に関する検討状況の確認 - その他 <p>9 月 部門・支部合同会議 (SICE-AC、拡大理事ワークショップ、部門協議会と併催)</p> <ul style="list-style-type: none"> - 部門・支部連携企画等の確認と情報共有 <p>11 月 第 4 回支部協議会 (SICE 事務局+Web)</p> <ul style="list-style-type: none"> - 審議事項：各支部付議事項の審議 - 各支部活動状況の確認 (周年事業準備状況確認を含む) - 支部活性化に関する検討状況の確認 - その他 	<p>●7～12 月</p> <p>7 月 17 日 第 2 回支部協議会 (SICE 事務局+Web)</p> <ul style="list-style-type: none"> - 審議事項：各支部付議事項の審議 - 各支部活動状況の確認 - 北陸支部 30 周年行事について - 各委員会報告 (拡大 WS, 財務) - 拡大理事ワークショップについて - 2024 年度各支部予算策定基準について - 意見交換 - その他 <p>10 月 2 日 第 3 回支部協議会 (SICE 事務局+Web)</p> <ul style="list-style-type: none"> - 審議事項：各支部付議事項の審議 - 各支部活動状況の確認 - 東北支部 60 周年行事について - 北陸支部 30 周年行事について - 支部活動課題共有について - 拡大理事ワークショップまとめ - SICE-DIA について - その他 <p>8 月 部門・支部合同会議 (SICESICE SICE-AC、拡大理事ワークショップ、部門協議会と併催)</p> <ul style="list-style-type: none"> - 今年度は開催を見送った <p>11 月 28 日 第 4 回支部協議会 (Web)</p> <ul style="list-style-type: none"> - 審議事項：各支部付議事項の審議 - 各支部活動状況の確認 - 次年度の事業計画について - 部門・支部合同会議の実施の検討 - その他

2024 年度事業計画・実施報告

組織名	北海道支部	担当	鈴木支部長
-----	-------	----	-------

2024 年度事業計画 (本組織担当分)
<ul style="list-style-type: none"> ・ Society 5.0 の概念整理・用語整備とポストコロナ未来社会 WG 活動の継続 (7) ・ Society 5.0 における SICE の役割明示とそのプロモーションのために、講習会開催や会誌発行による情報発信 (7) ・ AI, IoT, ビッグデータ等新しい技術に関する SICE 企画 (9. 1) ・ 国際規格の作成に向けた活動とそのプロモーション (8. 4) ・ コンファレンス活動 (AC、部門大会、部会研究会、支部大会等) の全体調整と見直し (1. 1)

2024 年度事業計画	2024 年度実施結果
<p>●1～6月</p> <p>支部会議</p> <p>第 56 回計測自動制御学会北海道支部学術講演会 (日本ロボット学会北海道ロボット技術研究専門委員会との共催)</p> <p>計測自動制御学会北海道支部主催特別講演会</p> <p>共催行事: 日本ロボット学会北海道ロボット技術研究専門委員会特別講演会</p> <p>支部奨励賞の贈賞</p> <p>共催行事: 複雑系マイクロシンポジウム</p> <p>支部運営委員会</p>	<p>●1～6月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1月31日(水) Zoom 開催, 出席 8 名, 委任状 32 通. R5 事業報告, 会計報告, 令和 6 年度事業計画, 予算, 役員選任 ・ 3月7日(木), 8日(金), 北海道大学+オンライン, 講演 27 件, 参加登録 46 名, 共催の RSJ-HRT は講演 5 件, 参加登録 7 名. 支部奨励賞を選考 ・ 支部学術講演会に合わせ 3月8日に実施, 講師: 野田五十樹先生(北海道大学), 題目: マルチエージェントシミュレーションを用いたオンデマンド交通サービス, 参加者 36 名 (うち 9 名はオンライン) ・ 同上 ・ 支部学術講演会発表者より以下の 2 名を選考し贈賞 <ul style="list-style-type: none"> ・ 鎌田 颯太 (北見工業大学) ・ 川口 舞子 (神奈川大学) ・ 共催行事: 複雑系マイクロシンポジウム 3月2日, 公立ほこだて未来大学, 講演 29 件, 参加人数 48 名 ・ 1月31日(水) 第 1 回支部運営会議, Zoom 開催, 出席 8 名, 複雑系マイクロシンポジウムの共催依頼に対する審議, 支部学術講演会開催について 3月27日(水), 第 2 回支部運営会議, Zoom 開催, 出席 7 名, 支部奨励賞選考, 支部学術講演会の振り返り 6月19日(水)～24日(月) 第 3 回支部運営会議, メール審議, 共催依頼の審議

2024 年度事業計画	2024 年度実施結果
<p>●7～12月 協賛事業：ロボットトライアスロン</p> <p>協賛事業：大規模環境3次元計測と認識・モデル化技術集中講演会</p> <p>計測制御エンジニアセミナー</p> <p>計測制御エンジニア試験への協力</p> <p>産業応用セミナー</p> <p>支部運営委員会</p> <p>支部選挙</p>	<p>●7～12月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協賛事業：ロボットトライアスロン 9月15日（日）北見工業大学 参加チーム 16, 参加者 67名（学生）+9名（教員），一般観戦者 約10名 ・実施なし ・実施なし ・実施なし ・実施なし ・ 9月9日（月）～13日（金）第4回支部運営会議，メール審議，支部講演会論文集に関するJSTからの著者抄録許諾依頼への可否判断 ・ 10月30日（水），第5回支部運営会議，Zoom開催，出席8名，2025年度事業計画・予算案の承認，支部学術講演会と支部選挙および支部総会について ・ 投票期間を2024年12月17日（火）-2025年1月22日（木）としてオンラインで実施 計測自動制御学会ホームページの会員ページの投票機能を利用

2024 年度事業計画・実施報告

組織名	東北支部	担当	張山支部長
-----	------	----	-------

2024 年度事業計画（本組織担当分）
<ul style="list-style-type: none"> ・カンファレンス活動（AC、部門大会、部会研究会、支部大会等）の全体調整と見直し（1.1） ・ウェブ更新効率化による情報発信の促進（4.2） ・継続事業の着実な実施とコンプライアンスの順守（6.1） ・部門・部会・支部活動の可視化、ウェブ発信（7.1） ・若手及び中堅会員への活動支援の実施（9.2） ・地方活性化の検討（非会員地元企業との連携、など）（10.4）

2024 年度事業計画	2024 年度実施結果
<p>●1～6月</p> <p>東北支部会議（1月）</p> <p>東北支部研究集会（第349回～351回）</p> <p>東北支部優秀発表奨励賞（各研究集会ごと）</p> <p>若手研究者講演会（第1回）</p> <p>特別講演会（2月）</p> <p>東北支部専門委員会（第1回～第4回）</p> <p>【後援事業】学都仙台・宮城サイエンス・デイ 2024</p>	<p>●1～6月</p> <p>東北支部会議（オンライン） 日時：2月14日（水）10:00～11:00</p> <p>第347回 東北支部研究集会 日時：3月7日（木）13:30～16:05 場所：東北大学 演題数：7件</p> <p>学術奨励賞（候補）：北原寛(東北大学)「シナジーに基づく異なる速度の歩行運動における筋活動と運動の関連性の分析」</p> <p>第348回 東北支部研究集会 日時：5月31日（金）13:30～17:00 場所：岩手大学 復興祈念銀河ホール 演題数：8件 参加者数：20</p> <p>学術奨励賞（候補）：星野翔(岩手大学)「風洞装置を用いたスター型2次元超音波風速計の校正」、田中裕人(東北大学)「シナジーを利用した低品質な教示動作を含むデータセットからの模倣学習」</p>

2024 年度事業計画	2024 年度実施結果
<p>●7～12 月</p> <p>東北支部研究集会（第 352 回～354 回）</p> <p>東北支部優秀発表奨励賞（各研究集会ごと）</p> <p>若手研究者講演会（第 2 回）</p> <p>東北支部専門委員会（第 5 回～第 6 回）</p> <p>【共催事業】電気自動車エコラン競技大会（8 月）東北支部特別賞（エコラン競技大会）</p>	<p>●7～12 月</p> <p>第 349 回 東北支部研究集会 日時：7 月 12 日（金）13:30～15:25 場所：弘前大学 理工学部 演題数：5 件 参加者数：50 学術奨励賞（候補）：菅原聖弥(弘前大学)「ステレオ視による鶏胸肉血管モデルの血管深さ推定」</p> <p>【後援事業】学都仙台・宮城サイエンス・デイ 2024 日時：7 月 14 日（日） 場所：東北大学 川内キャンパス</p> <p>第 350 回 東北支部研究集会 日時：9 月 25 日（金）13:30～15:45 場所：秋田大学 手形キャンパス 演題数：6 件 参加者数：13 学術奨励賞（候補）：高橋 日向子（秋田大学）「眼球運動を実現する眼窩エピテーゼの開発」</p> <p>【後援事業】電気自動車エコラン競技大会 2024 World Electric Vehicle Challenge in NATORI 日時：2024 年 12 月 1 日(日) 場所：名取サイクルスポーツセンター ミドルコース</p> <p>チーム数：24 チーム （青森県，秋田県，岩手県，宮城県，福島県，群馬県，埼玉県，東京都，千葉県，長野県，大阪府） 参加者数：250</p> <p>東北支部 60 周年記念学術講演会 日時：12 月 17 日（火）13:00-17:40 場所：東北大学工学部青葉記念会館 特別招待公演：田所諭教授（東北大学） 講演数：21 件 参加者数：49（一般：26，学生 23）</p> <p>学術奨励賞（候補）： 1) Wentong Zhou (東北大学) 「マルチモーダル MRI を用いた脳腫瘍セグメンテーションの深層学習モデルに関する評価」 2) 長塚一真 (東北大学) 「平滑化フィルタを用いた画像ベース深層能動推論制御器の性能向上」</p>

2024 年度事業計画・実施報告

組織名	中部支部	担当	河野支部長
-----	------	----	-------

2024 年度事業計画 (本組織担当分)
<ul style="list-style-type: none"> ・ Society 5.0 の概念整理・用語整備とポストコロナ未来社会 WG 活動の継続 (7) ・ Society 5.0 における SICE の役割明示とそのプロモーションのために、講習会開催や会誌発行による情報発信 (7) ・ AI, IoT, ビッグデータ等新しい技術に関する SICE 企画 (9.1) ・ 継続事業の着実な実施とコンプライアンスの順守 (6.1) ・ アフターコロナにおける新たな学会活動スタイルの推進 (6.2)

2024 年度事業計画	2024 年度実施結果
<p>●1～6 月</p> <p>(1 月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 支部会議 ・ 特別講演会 ・ 支部賞表彰 ・ 第 1 回運営委員会・事業委員会 <p>(2 月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第 55 期学業優秀賞審査 <p>(3 月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第 55 期学業優秀賞表彰 	<p>●1～6 月</p> <p>(2 月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 支部会議 参加者 24 名 2 月 10 日(土) 名城大学とオンライン ・ 特別講演会 2 月 10 日(土) 名城大学とオンライン 演題: 「運転や生活をやさしく支援するための画像認識」 講師: 名古屋大学名誉教授・特任教授村瀬洋氏 ・ 54 期支部賞表彰 教育賞 4 件 <ol style="list-style-type: none"> 1. 田崎 豪(名城大学) 2. 計測自動制御学会中部支部教育工学研究委員会代表 川福 基裕 (大同大学) 3. 名古屋大学宇宙開発チーム NAFTA 顧問 原進 (名古屋大学) 4. 浅井 徹(名古屋大学) 奨励賞 1 件 仲野 聡史 (名古屋工業大学) ・ 第一回運営委員会・事業委員会 参加者 24 名 2 月 10 日(土) 名城大学とオンライン <p>(3 月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第 55 期学業優秀賞審査を実施 (申請 14 件) ・ 第 55 期学業優秀賞表彰 (受賞 14 件) 加田愛貴 (名古屋大学), 岡田全史 (信州大学), 白井亮太 (信州大学), 野上成美 (名古屋工業大学), 高村莉玖 (名古屋工業大学), 黒田真琉 (名城大学), 久保田峻介 (名城大学), 村田 晶斗 (三重大学), 吉野草太 (豊田工業大学), 岡野隼士 (岐阜工業高等専門学校), 中谷尚生 (岐阜大学), 内田裕貴 (南山大学), 林凌生 (豊橋技術科学大学), 山内愛貴 (三重大学) <p>(4 月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第 2 回運営委員会・事業委員会 参加者 21 名

<p>(4月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2回運営委員会・事業委員会 <p>(5月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中部支部技術講習会 <p>(1-6月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支部研究委員会事業 	<p>4月24日(水) オンライン(ZOOM)</p> <p>(1~6月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支部研究委員会事業 <p>○第175回教育工学研究会 3月21日(木) 大同大学滝春校舎 発表8件, 参加者18名 学生優秀発表賞 1名表彰</p> <p>題目: 遠隔操作ロボットへの Nucleo ボードを用いたローカルフィードバック制御の実装</p> <p>発表者: ◎森本満喜 (岐阜高専), 小林義光</p> <p>○統合知能メカトロシステム研究委員会 講演会 5月27日(月) 岐阜大学, Teams ウェビナ併用 題目: 模倣学習を用いた位置・力制御による人間レベルの不定形環境操作</p> <p>講演者: 筑波大学 境野翔 准教授 現地参加19名, オンライン参加185名(含オンデマンド)</p>
---	---

2024 年度事業計画	2024 年度実施結果
<p>●7～12 月 (7 月) ・第 3 回運営委員会・事業委員会</p> <p>(9 月) ・中部支部シンポジウム&若手研究発表会</p> <p>(10 月) ・見学会 ・第 55 期支部賞審査</p>	<p>●7～12 月 (7 月) ・第 3 回運営委員会・事業委員会 参加者 20 名 7 月 31 日(水) オンライン(ZOOM)</p> <p>○中部支部シンポジウム シンポジウム, 特別講演, 技術交流会, 学生賞表彰 9 月 2 日 信州大学 シンポジウム 一般: 8 名, 学生: 49 名 特別講演オンライン参加 一般: 1 名 技術交流会 一般: 8 名, 学生: 20 名 学生表彰 5 名 (氏名 1) 別所耕吉 (所属 1)信州大 (氏名 2) 松永泰成 (所属 2)信州大 (氏名 3) 坂風樹 (所属 3)信州大 (氏名 4) 花村朋樹 (所属 4)信州大 (氏名 5) 熊本涼介 (所属 5)信州大</p> <p>○研究発表会&企業交流会 (若手研究発表会から変更) 11 月 27 日 emCAMPUS STUDIO (豊橋市) 発表 38 件 参加者 86 名 (学校関係参加者 54 名、企業参加 11 社 22 名、運営スタッフ 10 名) 学生表彰 5 名</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 梅田恒志郎 (岐阜工業高等専門学校 本科 5 年, 指導教員 河野託也) ● 土屋遼平 (岐阜工業高等専門学校 本科 5 年, 指導教員 河野託也) ● 原田和真 (豊田工業高等専門学校 専攻科 2 年, 指導教員 田中淑晴, 小谷明) ● 川崎磨那斗 (南山大学 修士 1 年, 指導教員 坂本登) ● 宮本 峻志 (筑波大学 博士後期課程 2 年, 指導教員 鈴木健嗣) <p>(11 月) ○第 55 期支部賞審査 応募 1 件 教育賞 1 件 ブロック教材を用いた STEAM 教育向け教材の開発 (山田 実先生・岐阜工業高等専門学校) 推薦者: 川福 基裕 先生 (大同大学)</p> <p>○中部支部技術講習会「機械学習の基礎とロボティクスへの応用」 11 月 19 日 zoom によるオンライン開催 参加者 26 名 第一部 「機械学習・深層学習の基礎」 講師 山崎浩先生 [長野県工科短期大学校教授]</p>

<p>(11月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第4回運営委員会・事業委員会 ・顧問会議 <p>(7-12月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支部研究委員会事業 	<p>第二部 「MATLAB&Simulink による AI・ディープラーニングとロボットシステムへの実装」 講師：草野駿一様 [MathWorks Japan アプリケーションエンジニアリング部シニアアプリケーションエンジニア]</p> <p>(12月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第4回運営委員会・事業委員会 ・顧問会議 <p>参加者 29名 12月3日(火) オンライン(ZOOM)</p> <p>(7~12月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支部研究委員会事業 <p>○南山大学理工学部・理工学研究センター講演会 7月5日 16時00分~17時30分 南山大学 講演者：山本 薫 先生 (九州大学 大学院システム情報科学研究院 准教授) 題 目：サンプル値制御系再訪ーサンプル点間挙動最適化の重要性と今後の展望 参加者 26名</p> <p>○信州地区計測制御研究委員会 講演会 8月1日(木) 信州大学繊維学部(上田キャンパス) 31番講義室 講演題目：感覚的ファッションを支える、推論と実験 参加者 23名</p> <p>○第176回教育工学研究会 9月17日(火) 大同大学 滝春校舎 発表 13件, 参加者 24名 学生優秀発表賞 2名表彰</p> <ul style="list-style-type: none"> ・IoT に適した周期推定法 ARS の解像度の改善手法の提案 <p>発表者：◎福田祐司 (愛知県立大学), 神谷幸宏 ・ MATLAB/Simulink を用いた水素と水力を利用した 超電導発電システムの最適化に関する研究 発表者：◎三輪大和 (豊田工業高等専門学校), 都築啓太</p> <p>○電機計測制御技術ワーキングセミナー 10月18日信州大学工学部 講義棟 (C3棟) 203号室+オンライン 参加者 68名</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「大電力向け高周波絶縁型電力変換器の基本回路とその応用技術」 武道 宏平 氏 (岐阜大学 工学部 助教) 2. 「EMC 性能の研究と製品開発への応用」 市川 浩司 氏 (名古屋工業大学 特任教授) <p>○信州地区計測制御研究委員会第2回講演会</p>
---	---

	<p>11月8日 参加者 30名</p> <p>講演① 講演者：原口 隆太郎 様（日置電機株式会社, R&D 本部, 応用電気計測ブロック） 題目：電極抵抗測定システムによる LIB 電極シートの界面抵抗の評価</p> <p>講演② 講演者：関 憲一 様（日置電機株式会社, R&D 本部 SS ユニット） 題目：インバータ・モータの効率評価における電力計測技術</p> <p>○統合知能メカトロシステム研究委員会講演会 11月25日 岐阜大学, Teams ウェビナ併用 参加者 41名 題目：力制御技術を応用したロボットインスペクション 講演者：芝浦工業大学 桑原央明 先生</p> <p>○電機計測制御技術ワーキングセミナー 題目：「科学で迫る勝敗の法則」 講演者：小中 英嗣 先生（名城大学） 参加者 46名 名古屋大学 研究所 共同館Ⅱ 2F ホール</p>
--	---

2024 年度事業計画・実施報告

組織名	北陸支部	担当	平田 (研) 支部長
-----	------	----	------------

2024 年度事業計画 (本組織担当分)
<ul style="list-style-type: none"> ・支部の継続事業の着実な実施とコンプライアンスの順守を遂行する。(6.1) ・アフターコロナにおける新たな学会活動のスタイルを推進する。(6.2) ・AI, IoT, ビッグデータ等新しい技術に関する企画を実施し, SICE の役割の明示とプロモーションを行う。(9.1)

2024 年度事業計画	2024 年度実施結果
<p>● 1～6 月</p> <p>1 月 新旧合同運営委員会, 支部会議, 特別講演会</p> <p>2 月 優秀学生賞の表彰</p> <p>3 月 日本機械学会北陸信越支部 2022 年合同講演(共催)</p> <p>4 月 第 1 回運営委員会</p> <p>4 月 計測自動制御学会北陸支部 SICE Annual Conference 学生発表助成の募集</p> <p>4 月 計測自動制御学会北陸支部 SICE Annual Conference 若手奨励賞の募集</p> <p>6 月 計測自動制御学会北陸支部 優秀論文発表賞の募集</p>	<p>● 1～6 月</p> <p>1/12 新旧合同運営委員会, 支部会議, 特別講演会: オンラインにて開催された新旧合同運営委員会には運営委員が 12 名, 6 議題について審議し可決した. 支部会議には運営委員を含む会員が 15 名参加し, 5 議題について審議し可決した. 特別企画は, 講師の北島創氏(日本自動車研究所)に特別講演「マルチエージェント交通流シミュレーションを用いた自動走行システムの高度化に関する取組みと今後の構想」をいただいた.</p> <p>2/1 優秀学生賞の表彰: 北陸地区の高等専門学校, 大学, 大学院 8 校より合計 12 名の学生を表彰した.</p> <p>3/8・3/9 日本機械学会北陸信越支部 2024 年合同講演会(共催): 富山県立大学射水キャンパスにて対面開催され, 249 件の発表(一般講演 153 件, ポスター 96 件)があり, 386 名が参加した.</p> <p>5/15 第 1 回運営委員会: オンラインにて開催され, 7 名の運営委員により, 20 件の議案が審議され可決された.</p> <p>5/17 計測自動制御学会北陸支部 SICE Annual Conference 学生発表助成の募集: 募集開始. 7/19 募集終了.</p> <p>5/17 計測自動制御学会北陸支部 SICE Annual Conference 若手奨励賞の募集: 募集開始. 7/19 募集終了.</p> <p>6/19 計測自動制御学会北陸支部 優秀論文発表賞の募集: 募集開始. 7/31 募集終了.</p>

2024 年度事業計画	2024 年度実施結果
<p>●7～12 月</p> <p>7 月 第 1 回北陸支部講演会の開催</p> <p>7 月 第 2 回運営委員会（メール審議）</p> <p>7 月 福井大学公開講座「親子で学ぶ電波の不思議な世界とラジオ製作」（共催）</p> <p>9 月 電気・情報関係学会北陸支部連合講演会の主催</p> <p>9 月 北陸支部講演会（兼電気・情報関係学会北陸支部招待講演）の開催</p> <p>9 月 第 3 回運営委員会の開催</p> <p>9 月 優秀論文発表賞の表彰</p> <p>9 月 計測自動制御学会北陸支部 SICE Annual Conference 学生参加助成の助成決定通知</p> <p>9 月 計測自動制御学会北陸支部 SICE Annual Conference 若手奨励賞の表彰</p> <p>9 月 自動制御連合講演会参加助成の募集</p> <p>10 月 第 2 回北陸支部講演会の開催</p> <p>11 月 自動制御連合講演会参加助成の助成決定通知</p> <p>11 月 北陸先端大主催の産学官金連携行事（Matching HUB Hokuriku）の後援・参加</p>	<p>●7～12 月</p> <p>7/23～8/10 第 2 回運営委員会（メール審議）：7 名の運営委員により、2 件の議案が審議され可決された。</p> <p>8/11 計測自動制御学会北陸支部 SICE Annual Conference 学生参加助成の助成決定通知：第 2 回運営委員会における審議の結果、東宗太朗氏（金沢大学）、宮本樹氏（富山県立大学）の 2 名に助成決定通知を送付した。</p> <p>8/28 計測自動制御学会北陸支部 SICE Annual Conference 若手奨励賞の表彰：第 2 回運営委員会における審議の結果、宮本樹氏（富山県立大学）の 1 名を表彰した。</p> <p>9/14 電気・情報関係学会北陸支部連合講演会の主催：オンラインにて開催され、182 件の発表があり、484 名が参加した。</p> <p>9/14 北陸支部講演会（兼電気・情報関係学会北陸支部招待講演）の開催：オンラインにて開催され、南裕樹氏（大阪大学大学院工学研究科准教授）による招待講演「制御のための情報圧縮：モデル軽量化と環境刺激の活用」があり、25 名が参加した。</p> <p>9/14 第 3 回運営委員会：オンラインにて開催され、7 名の運営委員により、6 件の議案が審議され可決された。</p> <p>9/14 優秀論文発表賞の表彰：第 3 回運営委員会にて審議を行い、規定に基づき石井諒氏（金沢工業大学）、高木俊佑氏（富山県立大学）の 2 名を表彰することを決定した。</p> <p>9/26～11/17 第 4 回運営委員会：メール審議にて開催され、7 名の運営委員により、6 件の議案が審議され可決された。</p> <p>10/11 第 1 回北陸支部講演会：福井大学文京キャンパスにて開催され、藤澤隆介氏（北九州市立大学環境技術研究所准教授）による講演「ロボティクスを通じた生物の構築する社会構造の解明」があり、12 名が参加した。</p> <p>11/29 第 2 回北陸支部講演会：金沢工業大学にて国際高等専門学校、金沢工業大学 FMT 研究所との共催として開催され、廣瀬知弘氏（株式会社豊田中央研究所データ駆動型プロセス研究領域 主任研究員）による講演「鏡面を有する自動車部品の形状計測、外観検査技術、およびその理論に関する研究」があり、24 名が参加した。</p>

11月 第3回北陸支部講演会の開催	今年は未開催.
11月 第4回運営委員会の開催 (メール審議)	11/18 優秀学生賞の募集: 北陸地区の高等専門学校, 大学, 大学院 13校の正会員代表者に推薦を依頼した.
11月 優秀学生賞の募集	今年は未開催
12月 第4回北陸支部講演会の開催	
12月 日本生体医工学会北陸支部講演会 (共催)	11/30 日本生体医工学会北陸支部講演会 (共催): 大学コンソーシアム富山駅前キャンパスにて対面開催され, 42件の発表があり, 11名が参加した.

2024 年度事業計画・実施報告

組織名	関西支部	担当	藤崎支部長
-----	------	----	-------

2024 年度事業計画（本組織担当分）
<ul style="list-style-type: none"> ・ AI、IoT、ビッグデータ等新しい技術に関する SICE 企画 (9.1) ・ 新規特定用途準備資金の有効活用 (3.2) ・ 継続事業の着実な実施とコンプライアンスの順守 (6.1)

2024 年度事業計画	2024 年度実施結果
<p>●1～6 月</p> <p>(1 月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2023 年度 SICE 関西支部・ISCIE シンポジウム ・ 支部会議 ・ 特別講演会 ・ 支部長賞授賞式 <p>(4 月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和 6 年度 第 1 回運営委員会 <p>(6 月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和 6 年度 第 2 回運営委員会 ・ ISCIE・SICE 関西支部チュートリアル講座 	<p>●1～6 月</p> <p>(1 月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2023 年度 SICE 関西支部・ISCIE シンポジウム (1 月 12 日実施) ・ 発表件数 72 件 ・ 参加者数 133 名 <li style="padding-left: 20px;">会員 40 名 <li style="padding-left: 20px;">会員外 10 名 <li style="padding-left: 20px;">学生会員 14 名 <li style="padding-left: 20px;">学生会員外 64 名 <li style="padding-left: 20px;">招待者 5 名 <li style="padding-left: 20px;">(特別講演講師 1 名, 受賞者 3 名, ISCIE 関係者 1 名) ・ 支部会議 (1 月 12 日実施) ・ 特別講演会 (1 月 12 日実施) ・ 講師：村田忠彦氏(大阪大学 サイバーメディアセンター・大学院情報科学研究科 教授) ・ 講演題目：仮想実社会データ(=合成人口データ+基本行動データ)によるリアルスケール社会シミュレーション ・ 支部長賞授賞式 (1 月 12 日実施) <li style="padding-left: 20px;">奨励賞 3 件 ・ Lee Kunwoo (京都大学) ・ 角田 祐輔 (大阪大学) ・ 長谷川 翔一 (立命館大学) <p>(4 月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第 1 回運営委員会 (4 月 16 日実施) <p>(6 月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第 2 回運営委員会 (6 月 5 日実施) ・ 精密工学会関西支部 <li style="padding-left: 20px;">「生産技術特別セミナー」協賛 <p>※ ISCIE・SICE 関西支部チュートリアル講座は 8 月 5 日開催予定のため、下期に報告予定</p>

2024 年度事業計画	2024 年度実施結果
<p>●7～12 月 (8 月) 令和 6 年度 第 3 回運営委員会</p> <p>(9 月) 会員交流企画</p> <p>(10 月) ・ 令和 6 年度 第 4 回運営委員会</p> <p>(11～12 月) 支部長賞の募集と選考</p> <p>(12 月) ・ 令和 6 年度 第 5 回運営委員会 ・ 支部長賞選考委員会</p>	<p>●7～12 月 (8 月) ・ 第 3 回運営委員会 (8 月 5 日実施) ・ ISCIE・SICE 関西支部チュートリアル講座 (8 月 5 日実施)</p> <p>(10 月) ・ 第 4 回運営委員会 (10 月 9 日実施)</p> <p>(11 月) ・ 2024 年度 SICE 関西支部見学会 (11 月 15 日実施) ・ 参加者数 28 名 ・ 場所 ソニーCSL 京都研究所 ・ 支部長賞の募集(11 月 1 日～11 月 30 日)</p> <p>(12 月) ・ 日本材料学会関西支部 「第 19 回若手シンポジウム ～材料分野の仕事と研究の魅力～」協賛 (12 月 2 日) ・ 支部長賞の選考 (12 月 3 日～12 月 17 日) ・ 支部長賞選考委員会 (12 月 17 日実施) ・ 第 5 回運営委員会 (12 月 18 日実施) ・ 支部長賞規程改正 (12 月 18 日実施) ・ SICE 関西支部研究会設置および運営規程改正 (12 月 18 日実施)</p>

2024 年度事業計画・実施報告

組織名	中国支部	担当	香川支部長
-----	------	----	-------

2024 年度事業計画（本組織担当分）
・支部再編を見据えた活性化と効率化のバランスを考慮した諸活動の推進

2024 年度事業計画	2024 年度実施結果
<p>●1～6月</p> <p>1. 第1回運営委員会 1月中旬, オンラインにて開催</p> <p>2. 支部表彰 1月中旬, オンラインで開催</p> <p>3. 支部会議（総会） 1月中旬, オンラインにて開催</p> <p>4. 拡大運営委員会 5月中旬, Web会議にて開催</p>	<p>●1～6月</p> <p>1. 第1回運営委員会 日時：2024年1月15日（月）14:00-15:20 場所：オンライン開催 議題数：9件 参加人数：21名</p> <p>2. 支部表彰 日時：2024年1月15日（月）15:30-15:55 場所：オンライン開催</p> <p>■優秀賞 松田 裕真 山口大学大学院創成科学研究科 星野 元春 岡山大学 堀内 潤 広島大学</p> <p>■奨励賞 佐藤 裕介 広島大学 西田 翔 近畿大学大学院 西村 咲恵 鳥取大学大学院持続性社会創生科学研究科工学専攻 國澤 憲裕 山口大学大学院創成科学研究科 藤田 采花 山口大学 菅原 貴弘 広島大学 藤原 佳達 宇部工業高等専門学校 河口 駿介 岡山大学</p> <p>■技術賞 該当なし</p> <p>3. 支部会議（総会） 日時：2024年1月15日（月）16:00-16:30 場所：オンライン開催 議題数：10件 参加人数：21名</p> <p>4. 拡大運営委員会 日時：2024年5月29日（水）13:00-14:00 場所：オンライン開催 議題数：5件 参加人数：10名</p>

2024年度事業計画	2024年度実施結果
<p>●7～12月</p> <p>1. 第2回運営委員会（臨時） 9月中旬，必要に応じてメール会議</p> <p>2. 計測制御シンポジウム 9月中旬，オンラインもしくはハイブリッド</p> <p>3. 第3回運営委員会 11月下旬，Web会議にて開催</p> <p>4. 学術講演会 11月23日（土）（予定），福山大学にて開催</p> <p>5. チュートリアル講演会 11～12月頃，開催地未定</p>	<p>●7～12月</p> <p>1. 第2回運営委員会（臨時）（不開催）</p> <p>2. 計測制御シンポジウム2024 日時：2024年9月13日（金）12:50-16:30 場所：オンライン開催 発表件数：3件 参加者数：14名</p> <p>3. 第3回運営委員会 日時：2024年11月20日 場所：メール審議 議題数：4件 参加者数：10名</p> <p>4. 第33回支部学術講演会 日時：2024年11月23日（土） 場所：福山大学社会連携センター+オンライン 発表件数：49件 参加者数：82名</p> <p>5. 2024年度チュートリアル講演会 日時：2024年12月18日（金） 場所：岡山理科大学+オンライン 講演数：3件 参加者数：46名</p>

2024 年度事業計画・実施報告

組織名	四国支部	担当	池田（建）支部長
-----	------	----	----------

2024 年度事業計画（本組織担当分）
<ul style="list-style-type: none"> ・ Society 5.0 の概念整理・用語整備とポストコロナ未来社会 WG 活動の継続 (7) ・ Society 5.0 における SICE の役割明示とそのプロモーションのために、講習会開催や会誌発行による情報発信 (7) ・ AI, IoT, ビッグデータ等新しい技術に関する SICE 企画 (9.1) ・ 継続事業の着実な実施とコンプライアンスの順守 (6.1) ・ アフターコロナにおける新たな学会活動スタイルの推進 (6.2)

2024 年度事業計画	2024 年度実施結果
<p>●1～6月</p> <p>支部会議 1月中、メール会議 議題：2024 年度の各機関の担当委員選出等</p> <p>第 1 回支部運営会議 1 月に高知工科大学にて開催 議題：2023 年度から引継ぎ事項等 高知工科大学 → 徳島大学</p> <p>LED 総合フォーラム 2024 年 1 月 8 日にハイブリッド方式で開催予定 SICE 四国支部は協賛</p> <p>第 1 回支部学術講演会実行委員会 5 月中、メール会議 議題：実行委員会、プログラム委員会メンバーの決定、CFP 案と今後の予定等</p> <p>第 1 回電気関係学会四国支部連合大会実行委員会 5 月中に開催 → 6 月に分担金を支給</p>	<p>●1～6月</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 2024 年度支部委員の決定 2024 年 1 月～2 月にかけて支部長，副支部長，庶務幹事，会計幹事を決定 2. 第 1 回支部運営会議 3/21 Zoom 開催 2024 年の支部講演会の日程を 11/30 で仮決めした。 2023 年の執行部から主に会計関連の引き継ぎがなされた。 3. LED 総合フォーラムには SICE 四国支部の会員の参加がなかったので協賛しなかった。 4. 第 1 回支部学術講演会実行委員会 4/4—5 メール審議 以下が決定された 開催場所は徳島大学とする。 開催日は 11/30(土)とする。 実施形態はフリースタイルセッションとする 5. 第 1 回電気・電子・情報関係学会四国支部連合大会の実行委員会が 5/22(水)10:00～12:00 に遠隔会議にて開催された。 黒崎財務委員長との懇談 6/11 Zoom 開催 特定費用準備資金について説明があった。寄付金の依頼があった。

2024 年度事業計画	2024 年度実施結果
<p>●7～12 月</p> <p>第 2 回電気関係学会四国支部連合大会実行委員会 8 月中、メール会議</p> <p>第 2 回支部学術講演会実行委員会 9 月中、メール会議 各委員の業務分担確認 9 月末に学術講演会ホームページを公開し、講演 申込を受付開始、発表目標件数は 60 件程度</p> <p>電気関係学会四国支部連合大会 9 月に開催 SICE 四国支部は共催</p> <p>四国移動型 & 自律型ロボットトーナメント 2024 (SMART2024) 毎年 11 月～12 月に開催 SICE 四国支部は毎年後援 → 協賛金を支給</p> <p>第 3 回電気関係学会四国支部連合大会実行委員会 11 月中に開催</p> <p>四国支部学術講演会 12 月中、徳島県にて開催 (担当 : 徳島大学) ※優秀な若手発表者に対して毎年表彰</p> <p>第 2 回支部運営委員会 12 月中、四国支部学術講演会にて開催予定</p>	<p>●7～12 月</p> <p>6. 令和 6 年度電気・電子・情報関係学会四国支部連 合大会第 2 回実行委員会が 8/30—9/6 にメール会 議にて開催された。</p> <p>7. 第 2 回四国支部学術講演会実行委員会を 9/18— 9/19 にメール会議にて開催した。各委員の業務分 担および実施要領を確認した。9/25 に学術講演会 ホームページを公開した。</p> <p>8. 9/21(土)に徳島大学常三島キャンパスにて電気関 係学会四国支部大会を実施した。</p> <p>11 月 9, 10 日に一般参加向けの HONDA CiKoMa 自動運転体験イベントを高知工科大学香美キャン パスで開催した。一般参加者 133 名</p> <p>9. 四国移動型 & 自律型ロボットトーナメント 2024 には協賛しなかった。資金に余裕があるため協賛 の必要はないとのこと。</p> <p>10. 第 3 回電気関係学会四国支部連合大会実行委員 会が 12 月 20 日(金) 13:00—14:00 に Teams にて 開催された。</p> <p>11. 11 月 30 日(土) に徳島大学常三島キャンパスに て四国支部学術講演会を開催した。発表件数 38 件、参加者 55 名、優秀講演 4 件を表彰。</p> <p>12. 11 月 30 日(土) に徳島大学常三島キャンパスに て第 2 回支部運営委員会を開催した。支部の活 動報告と 2025 年の執行部と活動計画が議論され た。</p> <p>2025 年度委員 支部長: 前山祥一(香川大) 副支部長: 大西義浩(愛媛大) 幹事(会計): 土谷圭央(香川大) 幹事(庶務): 小水内俊介(香川大)</p>

2024 年度事業計画・実施報告

組織名	九州支部	担当	八野支部長
-----	------	----	-------

2024 年度事業計画（本組織担当分）
<ul style="list-style-type: none"> ・継続事業の着実な実施とコンプライアンスの順守（6.1） ・アフターコロナにおける新たな学会活動スタイルの推進（6.2） ・部門・部会・支部活動の可視化、ウェブ発信（7.1）

2024 年度事業計画	2024 年度実施結果
<p>●1～6 月</p> <p>九州支部第 1 回運営委員会（新旧合同）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・九州支部第 54 期支部 顧問会議（新旧合同） ・九州支部第 54 期支部会議 ・支部奨励賞発表等 <p>九州支部第 1 回事業委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SICE 九州フォーラム実施内容等 <p>九州支部第 2 回運営委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会計報告 ・SICE 九州フォーラム ・九州支部学術講演会等 <p>研究会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・制御理論と応用に関する研究会 ・各地区講演会等 	<p>●1～6 月</p> <p>1 月 20 日 令和 6 年度九州支部第 1 回拡大運営委員会（新旧合同）を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 今年度の活動計画を立案した。 <ol style="list-style-type: none"> a) SICE 九州フォーラム b) 学術講演会・特別講演会・学生発表交流会 2. 支部奨励賞、本部学術奨励賞推薦、学生発表交流会における優秀発表者表彰を決定した。 <p>4 月 1 日 次世代制御理論研究会（RACOT） アクロス福岡、発表 2 件、参加者 15 名</p> <p>4 月 15 日～4 月 26 日 第 1 回事業委員会、メール審議 議題：SICE 九州フォーラムについて</p> <p>6 月 8 日 次世代制御理論研究会（RACOT） アクロス福岡、発表 2 件、参加者 16 名</p>

2024 年度事業計画	2024 年度実施結果
<p>●7～12 月 SICE 九州フォーラム</p> <p>九州支部第 2 回事業委員会 ・九州支部学術講演会プログラム等</p> <p>九州支部第 3 回運営委員会 ・会計報告 ・来年度予算の策定 ・事業報告 ・今年度九州支部学術講演会 ・来年度九州支部学術講演会 ・来年度事業計画 ・来年度の支部運営</p> <p>九州支部学術講演会・学生発表交流会</p> <p>九州支部第 3 回事業委員会 ・来年度事業委員 ・来年度事業計画 ・学生発表交流会表彰，支部奨励賞，本部奨励賞推薦者等</p> <p>研究会 ・制御理論と応用に関する研究会 ・各地区講演会等</p>	<p>●7～12 月</p> <p>7 月 4 日 九州支部第 2 回運営委員会、オンライン開催 議題：SICE 九州フォーラム、九州支部学術講演会について等</p> <p>10 月 1 日～10 月 31 日 第 2 回事業委員会、メール審議 議題：九州支部学術講演会の日程・プログラムについて</p> <p>10 月 17 日 九州支部第 3 回運営委員会、オンライン開催 議題：来年度の予算策定・事業計画・支部運営、九州支部学術講演会、等について</p> <p>10 月 18 日 SICE 九州フォーラム 2024 会場：アクロス福岡 会議室 606 実施形態：対面とオンラインのハイブリッド開催 テーマ：カーボンニュートラルに必要となる VPP (Virtual Power Plant) 講師：由井 俊二郎 氏 (ニチコン (株))、吉村大輔 氏 (東京電力ホールディングス (株)) 参加者：40 名 (SICE 正会員 10 名，学生 24 名，一般 6 名)</p> <p>11 月 12 日 九州支部鹿児島地区講演会 鹿児島大学、発表 1 件、参加者 41 名</p> <p>11 月 30 日、12 月 1 日 九州支部学術講演会・学生発表交流会、熊本大学 黒髪南地区、特別講演 1 件、一般講演 61 件、学生発表交流会 14 件、参加者 112 名</p> <p>12 月 1 日 第 3 回事業委員会、熊本大学 黒髪南地区 議題：来年度の事業計画、学生発表交流会の表彰審査、支部奨励賞審査、等について</p> <p>12 月 9 日 九州支部鹿児島地区講演会 鹿児島大学、発表 1 件、参加者 36 名</p>

2. 2024 年度に実施した個別事業実施報告 (1～12 月)

2024 年度に実施した個別事業の詳細を、定款第 4 条に定められた本会の目的を達成するための事業ごとに分けて、以下に示します。(敬称略。開催場所・組織名などは一部省略。発表件数・参加者などは一部省略。)

1. 研究集会, 講演会及び教育・育成のための講習会等

インダストリ委員会

実施月日	行事・事業・会議（・委員会）などの名称	開催場所	発表件数	参加者数
1月25日	SICE 安全のための計測・制御・システムを考える会 第99回サロン	慶應義塾大学日吉キャンパス&オンライン	—	19
5月29日	SICE 安全のための計測・制御・システムを考える会 第100回サロン	慶應義塾大学日吉キャンパス&オンライン	—	22
6月3日	SICE エグゼクティブサロン 第1回	LEVEL XXI (レベル21) 東京會館	—	23
6月11日	SICE 安全のための計測・制御・システムを考える会 第101回サロン	慶應義塾大学日吉キャンパス&オンライン	—	19
7月16日	SICE 安全のための計測・制御・システムを考える会 第102回サロン	慶應義塾大学日吉キャンパス&オンライン	—	19

メンバー委員会

実施月日	行事・事業・会議（・委員会）などの名称	開催場所	発表件数	参加者数
1月19日	プロセス新塾 2023 年度第4回スクーリング	オンライン	—	31
2月9日	プロセス新塾 2023 年度第5回スクーリング	オンライン	—	33
3月8日	プロセス新塾 2023 年度第6回スクーリング	慶應義塾大学(日吉)	—	33
4月12日	プロセス新塾 2023 年度第7回スクーリング	オンライン	—	35
5月10日	プロセス新塾 2023 年度第8回スクーリング	JFE 蘇我	—	32
8月29日	Diversity 関連の特別講演(Prof. Zhixin Liu, Prof. Magnus Egerstedt)+ランチョンディスカッション	高知工科大学	1	30
10月11日 ~12日	プロセス新塾 2024 年度第1回スクーリング	慶應義塾大学(日吉)	—	40
11月8日	プロセス新塾 2024 年度第2回スクーリング	Web 開催	—	25
12月6日 ~7日	プロセス新塾 2024 年度第3回スクーリング	慶應義塾大学(日吉)	—	28

計測部門

実施月日	行事・事業・会議（・委員会）などの名称	開催場所	発表件数	参加者数
5月20日	第124回力学量計測部会行事「東日製作所 トルクセンター」見学会	東日製作所 トルクセンター	1	10
7月11日 ~13日	第125回力学量計測部会行事 第41回合同シンポジウム (第91回日本分析化学会有機微量分析研究懇談会・第125回計測自動制御学会力学量計測部会)	岐阜大学	19	74
7月18日 ~19日	計測部門スマートセンシングシステム部会研究発表会	公立はこだて未来大学	10	12
9月12日 ~13日	第41回センシングフォーラム (計測部門大会)	長崎大学	62	108
10月4日	第126回力学量計測部会行事 計量史をさぐる会	日本品質保証機構	3	20
11月20日	第29回パターン計測シンポジウム (第109回パターン計測部会研究会)	KOBE Co CREATION CENTER	7	15

制御部門

実施月日	行事・事業・会議（・委員会）などの名称	開催場所	発表件数	参加者数
1月19日	Society 5.0 に資する適応学習制御調査研究会	オンライン	1	121

	第5回適応学習制御セミナー			
3月4日	Society 5.0 に資する適応学習制御調査研究会 第6回適応学習制御セミナー	オンライン	1	67
3月17日	ワークショップ「モデル予測制御のさらなる普及 に向けたベンチマーク問題」(第11回制御部門マル チシンポジウム) 事業委員会	広島大学 東広島キャンパス	3	80
3月17日 ～20日	Society 5.0 に資する適応学習制御調査研究会 (第11回制御部門マルチシンポジウム内) チュー トリアル 探索的最適解発見手法とパラメータ 選択への応用	広島大学 東広島キャンパス	1	50
3月18日	第24回適応学習制御シンポジウム(1)(第11回 制御部門マルチシンポジウム内)(Society5.0 に 資する適応学習制御調査研究会)	広島大学 東広島キャンパス	5	90
3月18日	第52回制御理論シンポジウム(第11回制御部 門マルチシンポジウム内) OS人につながる制御システムの新潮流(人の理 解/誘導で強化される制御システム調査研究会)	広島大学 東広島キャンパス	12	100
3月18日 ～20日	第41回誘導制御シンポジウム(第11回制御部 門マルチシンポジウム内, 次世代航法誘導制御技 術調査研究会, 6セッション)	広島大学 東広島キャンパス	32	40
3月19日	Society 5.0 に資する適応学習制御調査研究会第 4回委員会開催	広島大学 東広島キャンパス	0	10
3月19日	第24回適応学習制御シンポジウム(2)(第11回 制御部門マルチシンポジウム内)(Society5.0 に 資する適応学習制御調査研究会)	広島大学 東広島キャンパス	3	40
3月19日	第24回適応学習制御シンポジウム(3)(第11回 制御部門マルチシンポジウム内)(Society5.0 に 資する適応学習制御調査研究会)	広島大学 東広島キャンパス	6	30
3月20日	第52回制御理論シンポジウム(3)(第11回制御 部門マルチシンポジウム内) チュートリアルセッション:「低次元モデル化に よる流体制御」	広島大学 東広島キャンパス	4	70
3月20日	第52回制御理論シンポジウム(3)(第11回制御 部門マルチシンポジウム内) チュートリアル「低次元不変多様体に注目した容 器内液面振動制御」	広島大学 東広島キャンパス	1	70
3月20日	第52回制御理論シンポジウム(3)(第11回制御 部門マルチシンポジウム内) チュートリアル「データ駆動型低次元モデルとセン サ・アクチュエータ最適化による流体制御」	広島大学 東広島キャンパス	1	70
3月20日	第52回制御理論シンポジウム(3)(第11回制御 部門マルチシンポジウム内) チュートリアル「航空工学におけるデータ駆動型 の空力構造弾性解析に向けた取り組み」	広島大学 東広島キャンパス	1	70
3月20日	第52回制御理論シンポジウム(3)(第11回制御 部門マルチシンポジウム内) チュートリアル「気象の制御可能性解析に向けた 最近の取り組み」	広島大学 東広島キャンパス	1	70
3月20日	第41回誘導制御シンポジウム(第11回制御部 門マルチシンポジウム内, 次世代航法誘導制御技 術調査研究会) 招待講演「サブオービタルスペースプレーンの航 法誘導制御の研究課題について」	広島大学 東広島キャンパス	1	10

4月5~6日	プラントモデリング部会・研究会「モデルベースデザインとデータ行動型モデリング」	オンライン	6	198
4月17日	第1回人の理解/誘導で強化される制御システム調査研究会セミナー	早稲田大学 西早稲田キャンパス&オンライン	1	25
6月6日	DML Lunch Webinar 時系列 TRANSFORMER の野望 (ダイナミクスを活用した機械学習による制御理論の革新調査研究会)	オンライン	1	39
6月14日	データ・モデル駆動融合による先進的流体・気象制御調査研究会 第1回研究会	オンライン	4	30
6月18日	第2回人の理解/誘導で強化される制御システム調査研究会セミナー	慶應義塾大学 矢上キャンパス&オンライン	1	25
7月12日	Society 5.0 に資する適応学習制御調査研究会 第7回適応学習制御セミナー	オンライン	1	87
7月26日	Society 5.0 に資する適応学習制御調査研究会 第8回適応学習制御セミナー	オンライン	1	127
8月22日	Society 5.0 に資する適応学習制御調査研究会 第9回適応学習制御セミナー	オンライン	1	81
8月28日	Society 5.0 に資する適応学習制御調査研究会 Theoretical Developments and New Application Area of Adaptation and Learning Control 1(SICE FES 2024)	高知工科大学 永国寺キャンパス	6	45
8月28日	Society 5.0 に資する適応学習制御調査研究会 Theoretical Developments and New Application Area of Adaptation and Learning Control 2 SICE FES 2024	高知工科大学 永国寺キャンパス	6	40
8月28日	Society 5.0 に資する適応学習制御調査研究会 第5回委員会開催	高知工科大学 永国寺キャンパス	0	13
8月28日	制御工学勉強会 in SICE FES!!	高知工科大学 永国寺キャンパス	3	52
8月28日	SICE FES 2024 OS: Navigation, Guidance and Control of Vehicles and Aerospace Systems - Theory and Applications (次世代航法誘導制御技術調査研究会)	高知工科大学 永国寺キャンパス	5	20
8月28日	SICE Festival 2024 with Annual Conference OS: Innovations in Control Theory by Machine Learning Utilizing Dynamics (ダイナミクスを活用した機械学習による制御理論の革新調査研究会)	高知工科大学 永国寺キャンパス	5	30
9月10日~11日	制御理論部会 制御理論若手合宿 2024	邦和セミナープラザ	44	55
9月26日~27日	SICE セミナー「モデルベース制御系設計~モデリングから制御系設計までを系統的に学ぶ~」2024 (事業委員会)	オンライン	2	68
10月15日	Society 5.0 に資する適応学習制御調査研究会 第11回適応学習制御セミナー	オンライン	1	75
11月9日~12日	2024 Joint 13th International Conference on Soft Computing and Intelligent Systems and 25th International Symposium on Advanced	アクリエ姫路	10	50

	Intelligent Systems, SS-01: Theory and Applications of Intelligent Systems (Society 5.0 に資する適応学習制御調査研究会)			
11月12日	SICE セミナー「モデル予測制御～最適制御の基礎から応用事例・ソフトウェアツールまで～」2024 (事業委員会)	オンライン	1	99
11月23日～24日	第67回自動制御連合講演会 OS 人の理解・誘導のための技術とシステム制御論 (人の理解/誘導で強化される制御システム調査研究会)	姫路商工会議所	17	50
11月23日～24日	第67回自動制御連合講演会 OS13: 航空宇宙機・移動体の制御—理論から応用— (次世代航法誘導制御技術調査研究会)	姫路商工会議所	10	30
11月23日～24日	第67回自動制御連合講演会 OS17: 現場制御理論に基づくオープンな学びと次世代制御工学への挑戦 (実学界で踊る現場制御理論調査研究会)	姫路商工会議所		
11月23日～24日	第67回自動制御連合講演会 OS01: 適応学習制御とデータ駆動制御—理論と応用の最前線—(1) (Society5.0 に資する適応学習制御調査研究会)	姫路商工会議所	8	60
11月23日～24日	第67回自動制御連合講演会 OS01: 適応学習制御とデータ駆動制御—理論と応用の最前線—(2) (Society5.0 に資する適応学習制御調査研究会)	姫路商工会議所	7	50
11月23日～24日	第67回自動制御連合講演会 OS01: 適応学習制御とデータ駆動制御—理論と応用の最前線—(3) (Society 5.0 に資する適応学習制御調査研究会)	姫路商工会議所	5	40
11月23～24日	第67回自動制御連合講演会 OS18: ダイナミクスを活用した機械学習による制御理論の革新 (ダイナミクスを活用した機械学習による制御理論の革新調査研究会)	姫路商工会議所	8	50
11月26日～30日	International Conference on Advanced Mechatronic Systems , OS: Advanced Systems and Control -Theory and Applications- (Society5.0 に資する適応学習制御調査研究会)	立命館大学	5	20
11月28日	プラントモデリング部会・研究会「データサイエンスと制御設計の融合と将来展望」	オンライン	6	173
12月3日	第9回 DML Lecture 「最適輸送と物理学: 制御理論から生成 AI まで」 (ダイナミクスを活用した機械学習による制御理論の革新調査研究会)	ハイブリッド (東大本郷キャンパス・Zoom)	2	100

システム・情報部門

実施月日	行事・事業・会議 (・委員会) などの名称	開催場所	発表件数	参加者数
1月21日	境界と関係性を視座とするシステム学調査研究会合同研究会	オンライン		14
2月16日～17日	第36回自律分散システムシンポジウム	東京農工大学	54	99
3月8日	第66回システム工学部会研究会	オンライン	1	11
3月11日	第51回知能システムシンポジウム	近畿大学	35	62

～12日				
3月11日 ～13日	第34回社会システム部会研究会	アートホテル石垣島 &オンライン	63	93
5月11日	第4回CPSoS調査研究会	金沢工業大学		17
9月3日	第71回自律分散システム研究会	三上 plus02 &オンライン	2	28
9月17日	創発システム勉強会 2024	大阪大学	2	35 (仮)
10月5日	第5回CPSoS調査研究会	京都先端科学大学& オンライン	1	17
11月13日 ～15日	システム・情報部門学術講演会 (SSI2024)	富山県民会館&オン ライン	162	263

システムインテグレーション部門

実施月日	行事・事業・会議（・委員会）などの名称	開催場所	発表件数	参加者数
1月11日	フィールドロボティクス部会 ふゆトピア見学会	北海道北広島市イ ベント広場	1	14
2月19日	UDX ワークショップ 2024	オンライン	7	24
4月26日 ～29日	RoboCup ジャパンオープン 2024	滋賀ダイハツアリー ナ	0	75
5月29日	RT ミドルウェア講習会	ライトキューブ宇都 宮	0	3
6月28日	ソフトマテリアル応用部会研究会	岡山大学	3	10
7月4日	ここまで来たか！植物工場の機能活用	大阪公立大学	4	49
8月19日	自動化システム部会見学会	安川電機	0	11
8月19日	自動化システム部会委員会	有限会社一宮ビル	0	15
8月19日 ～23日	RT ミドルウェアサマーキャンプ 2024	産総研つくばセンタ ー	5	15
9月3日	マニピュレーション秋の学校	大阪工業大学	5	100
9月5日	第3回自動化システム部会	大阪工業大学	0	16
9月11日	触覚若手の会デモ交流会	名城大学	5	37
9月13日	触覚部会第2回運営委員会	名城大学	0	23
9月19日	メカトロニクス部会講演会	名古屋大学	3	18
9月28日 ～29日	第38回共創システム部会研究会・第17回内部 観測研究会	同志社大学	15	13
12月14日 ～15日	ロボカップジャパンオープンキャンプ 2024	檜葉遠隔技術開発セ ンターとオンライン	2	14
12月18日	SI2024 触覚・力覚セッション キーノート	アイーナ岩手県民情 報交流センター	1	120
12月19日	触覚部会第3回運営委員会	アイーナ岩手県民情 報交流センター	0	19
12月20日	SI2024 ユニバーサルデザイン応用システム部 会キーノート	アイーナ岩手県民情 報交流センター	1	50
12月20日	ユニバーサルデザイン応用システム部会運営委 員会	アイーナ岩手県民情 報交流センター	0	6
12月20日	ソフトマテリアル応用部会 研究会	アイーナ岩手県民情 報交流センター	2	90
12月18日 ～20日	SI2024	アイーナ岩手県民情 報交流センター	1077	1551

産業応用部門

実施月日	行事・事業・会議（・委員会）などの名称	開催場所	発表件数	参加者数
3月18日	MSCS2024 ワークショップ 産業応用部門招待 OS「産業制御システムのスマート&セキュア化 への取り組み」(ネットワーク部会が企画提案)	広島大学	3	15
9月7日	SICE 2024 Organized Session	三重大学	8	28

11月20日	産業応用部門 2024 年度大会	法政大学小金井キャンパス	18	33
11月28日	計装寺子屋セミナー (計装交流部会) ~流量計~	オンライン		

ライフエンジニアリング部門

実施月日	行事・事業・会議 (・委員会) などの名称	開催場所	発表件数	参加者数
3月8日	第10回電気生理運動学研究会 (第22回日本電気生理運動学会と共催)	東京工業大学 大岡山キャンパス	16	30
3月11日 ~12日	2024年生体・生理工学部会講演会 (電子情報通信学会 MBE 研究会・NC 研究会と共催)	東京大学 工学部2号館	2	
6月26日 ~29日	第24回 国際電気生理運動学会 (電気生理運動学部会 主査の渡邊先生を大会長, 副査の中村先生を実行委員として開催)	名古屋国際会議場	103	420
8月29日 ~30日	ライフエンジニアリング部門シンポジウム 2024	大阪電気通信大学	50	122
12月4日	第80回バイオ情報学(SIGBIO)研究会	早稲田大学	10	18

北海道支部

実施月日	行事・事業・会議 (・委員会) などの名称	開催場所	発表件数	参加者数
3月7~8日	第56回計測自動制御学会北海道支部学術講演会	北海道大学&オンライン	27 (うち オンライン7)	46
3月8日	北海道支部講演会 演題: マルチエージェントシミュレーションを用いたオンデマンド交通サービス 講師: 野田五十樹先生 (北海道大学)	北海道大学&オンライン	1	36 (うち 9名はオンライン)

東北支部

実施月日	行事・事業・会議 (・委員会) などの名称	開催場所	発表件数	参加者数
2月14日	東北支部会議	オンライン		
3月7日	第347回 東北支部研究集会	東北大学	7	14
5月31日	第348回 東北支部研究集会	岩手大学 復興祈念銀河ホール	8	20
7月12日	第349回 東北支部研究集会	弘前大学 理工学部	5	50
12月17日	東北支部 60周年記念学術講演会	東北大学工学部 青葉記念会館	21	49 (一般: 26, 学生 23)

中部支部

実施月日	行事・事業・会議 (・委員会) などの名称	開催場所	発表件数	参加者数
2月10日	特別講演会	名城大学&オンライン	1	24
3月21日	第175回教育工学研究会	大同大学滝春校舎	8	18
5月27日	第一回統合知能メカトロシステム研究委員会講演会	岐阜大学&オンライン	1	204
8月1日	信州地区計測制御研究委員会 講演会	信州大学繊維学部	1	23
9月2日	中部支部シンポジウム	信州大学繊維学部	29	86
9月17日	第176回教育工学研究会	大同大学滝春校舎	14	24
10月18日	電機計測制御技術ワーキングセミナー	名古屋大学	2	68
11月8日	信州地区計測制御研究委員会第2回講演会	信州大学&オンライン	2	30
11月19日	技術講習会「機械学習の基礎とロボティクスへの応用」	オンライン	2	26
11月25日	統合知能メカトロシステム研究委員会講演会	岐阜大学&オンライン	1	41
11月27日	研究発表&企業交流会	emCAMPUS STUDIO 5F	38	54

12月17日	電機計測制御技術 ワーキングセミナー	名古屋大学 研究所 共同館Ⅱ 2F ホール	1	46
--------	--------------------	--------------------------	---	----

北陸支部

実施月日	行事・事業・会議（・委員会）などの名称	開催場所	発表件数	参加者数
1月12日	特別企画 特別講演「マルチエージェント交通流シミュレーションを用いた自動走行システムの高度化に関する取組みと今後の構想」 講師：北島創氏（日本自動車研究所）	オンライン	1	60
9月14日	2024年度電気・情報関係学会北陸支部連合大会	オンライン	182	484
9月14日	計測自動制御学会北陸支部招待講演 講師：南裕樹氏（大阪大学）	オンライン	1	25
10月11日	計測自動制御学会北陸支部支部講演会 講師：藤澤隆介氏（北九州市立大学）	福井大学 文京キャンパス	1	12
11月29日	計測自動制御学会北陸支部支部講演会 講師：廣瀬知弘氏（株式会社豊田中央研究所）	金沢工業大学	1	24

関西支部

実施月日	行事・事業・会議（・委員会）などの名称	開催場所	発表件数	参加者数
1月12日	2023年度SICE関西支部・ISCIEシンポジウム	大阪工業大学 梅田キャンパス	72	133
11月15日	2024年度SICE関西支部見学会	ソニーコンピュータ サイエンス研究所	-	28

中国支部

実施月日	行事・事業・会議（・委員会）などの名称	開催場所	発表件数	参加者数
9月13日	計測制御シンポジウム2024	オンライン	3	14
11月23日	第33回計測自動制御学会中国支部学術講演会	学校法人福山大学 社会連携推進センタ	49	82

四国支部

実施月日	行事・事業・会議（・委員会）などの名称	開催場所	発表件数	参加者数
9月21日	電気・電子・情報関係学会四国支部連合大会	徳島大学 常三島キャンパス	187	263
11月30日	計測自動制御学会四国支部学術講演会	徳島大学 常三島キャンパス	38	55

九州支部

実施月日	行事・事業・会議（・委員会）などの名称	開催場所	発表件数	参加者数
1月17日	九州支部熊本地区講演会	熊本大学	1	40
4月1日	次世代制御理論研究会（RACOT）	アクロス福岡	2	15
6月8日	次世代制御理論研究会（RACOT）	アクロス福岡	2	16
10月18日	SICE九州フォーラム2024	アクロス福岡	2	40
11月12日	九州支部鹿児島地区講演会	鹿児島大学	1	41
11月30日 ～12月1日	九州支部学術講演会・学生発表交流会（学術講演会61件、学生発表交流会14件）	熊本大学	75	112
12月9日	九州支部鹿児島地区講演会	鹿児島大学	1	36

2. 調査・研究及び資料収集

会誌出版委員会

実施時期	書名、特集などの名称	記事・論文件数など	総ページ	発行部数
1月	計測と制御 第63巻第1号 特集：Virtual Power Plant (VPP) - 制御と最適化が切り開く新時代 -	12	50	5,320

2月	計測と制御 第63巻第2号 特集：誰もが使いやすいデザイン	19	58	4,890
3月	計測と制御 第63巻第3号 特集：データで駆動するシステム制御—理論と応用の新展開と最前線	14	68	4,890
4月	計測と制御 第63巻第4号 特集：強力空中超音波の活用と広がり	9	40	4,890
5月	計測と制御 第63巻第5号 特集：柔らかいロボットが掴む人の心と未来	11	59	4,980
6月	計測と制御 第63巻第6号 特集：新たなサービス創出のためのシステム制御・最適化とスマートシティへの挑戦	11	46	5,100
7月	計測と制御 第63巻第7号 特集：IFAC World Congress 2023 in Yokohama	13	65	5,100
8月	計測と制御 第63巻第8号 特集：計測工学 温故知新	14	80	5,160
9月	計測と制御 第63巻第9号 特集：ロボット・ICTを活用した高齢者のコミュニケーション・ケア支援	16	73	5,260
10月	計測と制御 第63巻第10号 特集：モデリング×インテリジェンスの最新動向を探る—CIFSの活動を中心に—	11	64	5,290
11月	計測と制御 第63巻第11号 特集：論文を書くことについて考える—論文集の過去、現在、未来—	16	62	5,360
12月	計測と制御 第63巻第12号 特集：スマート・マニュファクチャリング	12	76	5,360

和文論文集委員会

実施時期	書名、特集などの名称	記事・論文数など	総ページ	発行部数
和文論文集(計測自動制御学会論文集)				
発行回数：12回 総ページ数：670ページ 総投稿論文数：74 購読数：930				
1月	計測自動制御学会論文集 Vol.60(2024), No.1 特集：第23回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会特集号	特集号論文：8編 特集号ショートペーパー：2編	68	930
2月	計測自動制御学会論文集 Vol.60(2024), No.2	一般論文：3編 ショートペーパー：1編 開発・技術ノート：1編	40	930
3月	"計測自動制御学会論文集 Vol.60(2024), No.3 特集：第10回制御部門マルチシンポジウム論文特集号	特集号論文：21編	192	930
4月	計測自動制御学会論文集 Vol.60(2024), No.4	一般論文：4編	42	930
5月	計測自動制御学会論文集 Vol.60(2024), No.5	一般論文：4編	32	930
6月	計測自動制御学会論文集 Vol.60(2024), No.6	一般論文：4編 ショートペーパー：1編	42	930
7月	計測自動制御学会論文集 Vol.60(2024), No.7	一般論文：4編	38	930
8月	計測自動制御学会論文集 Vol.60(2024), No.8	一般論文：4編	40	930
9月	計測自動制御学会論文集 Vol.60(2024), No.9	一般論文：4編	48	930

10月	計測自動制御学会論文集 Vol.60(2024), No.10	一般論文：4編	42	930
11月	計測自動制御学会論文集 Vol.60(2024), No.11	一般論文：4編	32	930
12月	計測自動制御学会論文集 Vol.60(2024), No.12 特集：第29回計測自動制御学会ロボティクスシンポジウム特集号	特集号論文：5編	52	930

英文論文集委員会

	書名、特集などの名称	総ページ	発行
総論文掲載数：一般・特集：34 総ページ数：377 総投稿数：70			
Issue	SICE Journal of Control, Measurement, and System Integration (一般論文・特集号分別無)	377	online

3. 技術者の資格認定・付与

メンバー委員会

実施時期	行事・事業・会議（・委員会）など名称	開催場所	発表件数	参加者数
企画段階	計測制御エンジニア資格審査（新制度検討中）	計画中	—	—
企画段階	ECEプログラム（日本工学会）修了審査 （ECEプログラム修了資格審査）	計画中	—	—

4. 啓発・普及のための体験活動等

インダストリ委員会

実施時期	行事・事業・会議（・委員会）など名称	開催場所	発表件数	参加者数
6月13日	Wagora 第1回公開オンラインフォーラム	オンライン	—	53
11月25日	Wagora 第2回公開オンラインフォーラム	TKP 神田ビジネスセンター&オンライン	—	28

メンバー委員会

実施時期	行事・事業・会議（・委員会）など名称	開催場所	発表件数	参加者数
5月18日	SICE ジュニア（小学生向け）	大阪大学	1	3
8月11日	「女子中高生夏の学校 2024」	国立女性教育会館	1	350
8月24日	SICE ジュニア（ロボットプログラミング）	高知工科大	1	7

システムインテグレーション部門

実施時期	行事・事業・会議（・委員会）など名称	開催場所	発表件数	参加者数
4月26～29日	RoboCup ジャパンオープン 2024	滋賀ダイハツアリーナ	0	75
6月23日 8月10～11日	レスキューロボットコンテスト 2024	神戸サンボーホール、 オンライン	—	7,549

5. 表彰及びコンクール

学会賞委員会

実施時期	顕彰などの名称 受賞者名・受賞論文/授賞理由など	開催場所	賞品	副賞
1月10日	【SICE International Young Authors Award for SII 2024】：10名 (1) 「Goal-Oriented Task Planning for Composable Robot Control System Using	Vinpearl Resort and Spa in Halong, Ha Long, Vietnam	賞状	賞金 10万円

	<p>Module-based Control-as-Inference Framework」 Taiki YANO (2) 「Robotic Automation System of Polymer Press Process for Materials Lab-Automation」 Yuki ASANO (3) 「Development of an Environmentally Independent Mobile Manipulation System for Product Disposal in Retail Stores」 Ryogo KAI (4) 「Real-Time Failure/Anomaly Prediction for Robot Motion Learning Based on Model Uncertainty Prediction」 Hideyuki ICHIWARA (5) 「Situation-based Proactive Human-Robotic Systems Interaction and Collaboration in Future Convenience Stores」 Atsushi SUGIMOTO (6) 「Fast and Lightweight Scene Regressor for Camera Relocalization」 Bach-Thuan BUI (7) 「Instance Segmentation-Based Markerless Tracking of Fencing Sword Tips」 Takehiro SAWAHATA (8) 「Formal Verification of Merging Arbitration Control System for Logistics Robots」 Nobuhiko MIYAMOTO (9) 「Different Age Groups Comparison on Impression Evaluation of Rewarding/Punitive Behavior with Gestures and Gaze of Robots」 Otono UCHIKAWA (10) 「Fault Detection and Fault-Tolerant Control for Water Hydraulic Robots Driven by Air-Hydraulic Servo Booster」 Yuki WATANABE</p>			
<p>3月18日</p>	<p>【2023年度学術奨励賞】 研究奨励賞：10名 (1) 「歪みゲージを用いたボルト型力覚センサの開発－クライミング動作計測による実験的検証－」、中嶋峻大、第23回システムインテグレーション部門講演会 (2) 「モデル予測制御器のオンライン自動生成による多様な運転タスクの実現」、本田康平、第10回制御部門マルチシンポジウム (3) 「大規模な線形時変システムに対する特異値分解を利用した最適アクチュエータ選択－Lorenz 96モデルへの適用－」、佐々木康雄、第66回自動制御連合講演会 (4) 「波動制御のための分布・集中定数結合モデルに基づくパラメータ同定」、志方鴻介、第66回自動制御連合講演会 (5) 「長期記憶性と高い説明可能性を有する新しいリザーブコンピューティングベース手法」、小西文昂、第22回コンピューテーショナル・</p>	<p>上智大学 四谷キャンパス &オンライン</p>	<p>賞状 楯</p>	<p>なし</p>

	<p>インテリジェンス研究会</p> <p>(6)「階層型多目的強化学習による自律分散型交通信号制御」、齋木匠、第21回コンピュータショナル・インテリジェンス研究会</p> <p>(7)「バルーンピンアレイグリッパ機構—多様な物体の把持を可能とする2段階形状なじみメカニズム—」、釘持優人、第23回システムインテグレーション部門講演会</p> <p>(8)「Temperature dependent Soft Robotic Gripper」、Prashant Kumar、第23回システムインテグレーション部門講演会</p> <p>(9)「遊星歯車機構を用いた角ダクト用清掃機構の試作とブラシ軌跡の検証」、人見峻広、第23回システムインテグレーション部門講演会</p> <p>(10)「抽出する筋肉の数が筋シナジー解析結果に与える影響：筋骨格シミュレーション結果を用いた調査」、上西康平、第35回自律分散システム・シンポジウム</p> <p>技術奨励賞：5名</p> <p>(1)「巻き付きを活用したヘビ型ロボットの障害物利用推進手法および実機実験」、富山峻、第23回システムインテグレーション部門講演会</p> <p>(2)「予測制御と制御バリア関数に基づく港湾環境下での船舶自律誘導制御」、八田直樹、第10回制御部門マルチシンポジウム</p> <p>(3)「パラメータ事後分布評価に基づくプロセスモデル逐次更新」、山内敏嗣、第65回自動制御連合講演会</p> <p>(4)「WRS Future Convenience Store Challenge トイレ清掃タスクにおける競技採点システムの開発」、刈谷友洋、第23回システムインテグレーション部門講演会</p> <p>(5)「負圧発生機構を用いた壁面登攀が可能な多連結移動ロボットの開発」、岩井隆人、第23回システムインテグレーション部門講演会</p>			
8月29日	<p>【2024年度学会賞】</p> <p>論文賞・9件23名： (論文賞・蓮沼賞) 「Nondestructive evaluation of Air Voids in Concrete Structures using Microwave Radar Technique」 信州大学・高山潤也、日立建機(株)・尾原雄輝 (論文賞・武田賞) 「A Recursive Riccati Interior-Point Method for Chance-Constrained Stochastic Model Predictive Control」 Utopilot Technology Co., Ltd.・張 靖宇 京都大学・大塚敏之 (論文賞) 「モデル予測制御による歩行者への配慮を意識した自動運転の設計」 TII・アルン ムラリーダラン 名古屋大学・奥田裕之、鈴木達也 (論文賞)</p>	高知県立県民文化ホール	賞状 楯	なし

	<p>「入力制約下で最適サーボ系を実現するデータ駆動型フィードフォワード入力設計」 北九州市立大学・藤本悠介</p> <p>「 Personalized control system via reinforcement learning: maximizing utility based on user ratings」 慶應義塾大学・井上正樹 (論文賞)</p> <p>「Adaptive Output Feedback Control with Cerebellar Model Articulation Controller-Based Adaptive PFC and Feedforward Input」 トヨタ自動車(株)・大財望夢、 (株)本田技術研究所・赤池宏太、 熊本大学・國松禎明、水本郁朗 (論文賞・友田賞)</p> <p>「2者間自動交渉における「頑固な交渉戦略」の最適性」 スイス連邦工科大学チューリッヒ校・仲野太喜、麗澤大学・津村幸治 (論文賞)</p> <p>「 Proposal of New Topology Information Face-List for Manipulation Planning of Deformable String Tying」 岡山大学・戸田雄一郎、松野隆幸 (論文賞)</p> <p>「3-layer modelling method to improve the cyber resilience in Industrial Control Systems」 (株)日立製作所・辻 大輔、藤田淳也、松本典剛、田村 悠、デーモンホフ イェンス、重本倫宏</p> <p>技術賞・2件10名： (技術賞)</p> <p>「小型プログラマブルジョセフソン電圧標準装置の導入について」 アズビル(株)・新沢陽介 (技術賞)</p> <p>「 Development of Comprehensive Soft-Sensor Design Tools」 富士電機(株)・田中雅紀、村上賢哉、吉川 譲 奈良先端科学技術大学院大学・船津公人 東京農工大学・金 尚弘 三井化学(株)・大寶茂樹 UBE(株)・山田幸治、古屋敷啓一郎、土井佑介</p> <p>著述賞・2件2名： (著述賞)</p> <p>「Python による制御工学入門」(2019年・オーム社) 大阪大学・南 裕樹(著)</p>		
--	--	--	--

	<p>(著述賞) 「スモールデータ解析と機械学習」(2022年・オーム社) 名古屋大学・藤原幸一(著)</p> <p>新製品開発賞・3件: (新製品開発賞) 「ダイヤモンド・リスポンスモニタ SORTiA™-Demand Response」 アズビル株式会社 (新製品開発賞) 「現場の課題を解決するマスフローコントローラ 形F4Q」 アズビル株式会社 (新製品開発賞) 「ネクスフォート™DD」 アズビル株式会社</p> <p>国際標準化賞・奨励賞1名: (国際標準化賞 奨励賞) 三菱電機(株)・王時 暁楠ニコル</p>			
8月29日	<p>【2024年度フェロー称号】 フェロー称号授与・4名: 安藤慶昭、鈴森康一、橋本芳宏、望山 洋</p>	高知県立県民文化ホール	楯バッジ	なし
8月30日	<p>【SICE FES 2024 Annual Conference Award】6名: (International Award: Basic Technology) 「Some Implications of Positivity with Interior Equilibria Via Asymmetrically Scaled Sectorial Supply Rates」 Hiroshi ITO (International Award: Application) 「Robotic Mastication Simulator That Can Reproduce Food Bolus Formation」 Yusei SUZUKI, Akihide SHIBATA, Kazuhiro HORI, Mitsuru HIGASHIMORI (Young Authors Award) 「Enhancing System Identification through Transfer Learning in Gaussian Process Models: Bridging Sim-To-Real and Cross-Environment Applications」 Jyothiraditya RAMASWAMY</p>	表彰式は台風のため中止、Webにて広報	賞状楯	なし
10月18日	<p>【SICE International Young Authors Award for IROS 2024】: 10名 (1) 「Magnetic tactile sensor with load tolerance and flexibility using frame structures for estimating triaxial contact force distribution of humanoid」 Takuma HIRAOKA (2) 「Object Pose Estimation by Camera Arm Control Based on Viewpoint Estimation」 Tomoki MIZUNO</p>	Abu Dhabi National Exhibition Centre (ADNEC) Abu Dhabi, UAE	賞状	賞金 10万円

	「ツイン投光差分方式を用いた厚鋼板表面検査装置」大野紘明, 楯真沙美, 飯島慶次, 大重貴彦			
--	--	--	--	--

制御部門

実施時期	顕彰などの名称 受賞者名・受賞論文・授賞理由など	開催場所	賞品	副賞
3月19日	制御部門パイオニア賞 ※1件 河野 佑 (広島大学) 非線形大規模ネットワークの解析・制御	広島大学 (MSCS2024)	表彰状 ・盾	なし
3月19日	制御部門パイオニア技術賞 ※1件 畑中 健志 (東京工業大学) CPHS・ネットワーク化ロボティクスのスマート農業への展開	広島大学 (MSCS2024)	表彰状 ・盾	なし
3月19日	制御部門マルチシンポジウム賞 (基礎分野) ※2件 高尾 勇輝 (JAXA, 現在九州大学) 森 治 (JAXA) 渡邊 秋人 (サカセ・アドテック) 武井 祥平 (nomena) 江川 主民 (nomena) 藤井 樹里 (nomena) モード励振を用いた薄膜構造物の連続形状制御システムとそのハードウェア開発 本田 康平 (名古屋大学) 奥田 裕之 (名古屋大学) 鈴木 達也 (名古屋大学) 伊藤 章 (名古屋大学) モデル予測制御器のオンライン自動生成による多様な運転タスクの実現	広島大学 (MSCS2024)	表彰状	なし
3月19日	制御部門マルチシンポジウム賞 (技術分野) ※1件 濱田 吉郎 (JAXA) 菊地 亮太 (JAXA, 現在名古屋大学) 井之口 浜木 (JAXA) 風速誤差に対してロバストな予見フィードフォワードによる航空機の突風応答軽減	広島大学 (MSCS2024)	表彰状	なし
3月19日	制御部門奨励賞 (基礎分野) ※5件 寺西 郁 (電気通信大学) 暗号化制御系における最適な制御器とセキュリティパラメータの設計 Lee Kunwoo (京都大学) 非線形系のベイズ推定のための可観測性グラミアン 青木 悠人 (東京理科大学)	広島大学 (MSCS2024)	表彰状	なし

	<p>制御 Lyapunov 関数に基づく実用安定性アシスト制御</p> <p>宮崎 誠也 (慶應義塾大学) 化学マスター方程式の反応パラメタを保存した低次元化法</p> <p>柴田 康智 (慶應義塾大学) デマンドレスポンスを含む負荷周波数制御系における Passivity-Short を用いた安定性解析</p>			
3月19日	<p>制御部門奨励賞 (技術分野) ※2件</p> <p>本田 康平 (名古屋大学) モデル予測制御器のオンライン自動生成による多様な運転タスクの実現</p> <p>橋本 侑樹 (慶應義塾大学) 確率最適制御と極値探索制御を用いた SI エンジンの燃焼ばらつき抑制</p>	広島大学 (MSCS2024)	表彰状	なし
3月19日	<p>制御部門マルチシンポジウム優秀ポスター発表賞 ※7件</p> <p>大嶋 俊之 (東京工業大学) 水上環境モニタリングのための水上ドローン協調制御手法の提案</p> <p>杉山 大輝 (京都大学) 価値交換により駆動するマルチエージェントシステム</p> <p>田中 健太郎 (広島大学) 制御性能評価に基づくデータベース駆動型 PID 制御系の一設計</p> <p>名村 榛乃 (慶應義塾大学) プラスミドのコピー数制御を用いた帰還遺伝子回路の外乱抑制</p> <p>矢嶋 優樹 (群馬大学) リチウムイオン二次電池の放電測定装置の作成とシステム同定: 内部抵抗値の充電率依存性</p> <p>竹野 紘一郎 (東京都立大学) 排出ガス後処理システムにおける予測型触媒温度制御とロバスト性解析</p> <p>青山 凌大 (愛知工業大学) ドローンの既存のセンサを用いた対気速度と風速の推定手法の提案</p>	広島大学 (MSCS2024)	表彰状	なし

3月19日	SIYA IFAC 2023 ※3件 大石 航志 (豊田中央研究所・京都大学) Resilience Evaluation of Entropy Regularized Logistic Networks with Probabilistic Cost 鹿田 佳那 (九州工業大学) Robustness of Disturbance Observer Based Servo Systems 坂野 幾海 (名古屋大学) Controllability Maximization of Network Systems: Gradient Computation Based on Offline Data	広島大学 (MSCS2024)	表彰状	10万円
3月19日	SIYA CDC2023 ※2件 杉山 大輝 (京都大学) Consensus Control Driven by Value Exchange 寺西 郁 (電気通信大学) Optimal Controller and Security Parameter for Encrypted Control Systems Under Least Squares Identification	広島大学 (MSCS2024)	表彰状	10万円

システム・情報部門

実施時期	顕彰などの名称 受賞者名・受賞論文/授賞理由など	開催場所	賞品	副賞
11月14日	システム・情報部門貢献表彰 畠中利治, 市川学, 後藤裕介	富山県民会館&オンライン	賞状	有
11月14日	SSI 最優秀論文賞 (1件) : 杉浦健太郎(名古屋大学)他, 「可誘導性:歩行者間インタラクションにおける判断感度と可制御性に基づいた評価」	富山県民会館&オンライン	賞状	
11月14日	SSI 優秀論文賞 (5件) : ・小野功(東京科学大学)他, 「Gait Training of patients with stroke in sitting position using Wearable Robot for arm-swing rhythm assistance using synchronized stimuli」 ・石樽大晟(富山県立大学)他, 「マイクログリッドにおけるEV放電量・価格交渉の最適化モデル」 ・島凜乃介(富山県立大学)他, 「ロードヒーティングを含む配電システムのスイッチングによる予測制御-複数のPV・負荷からなる住宅地を想定したシミュレーション検証」 ・若松宥太(東京大学)他, 「起立動作中に手すりにかかる力を用いた高齢者の下肢関節トルクの推定」	富山県民会館&オンライン	賞状	
11月14日	SSI 最優秀発表賞 (1件) :	富山県民会館&オンライン	賞状	

	<p>篠原晃大 (大阪大学) 他, 「ネコ後肢の足場の喪失に対する適応メカニズムの神経筋骨格モデルを用いた解析」</p> <p>SSI 優秀発表賞 (5 件) :</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古菅翔生 (横浜国立大学) 他, 「3 次元 Deformable Attention を用いた End-to-End Transformer による精子検出・追尾モデルの構築」 ・飯田高裕 (横浜国立大学) 他, 「GADF を用いた時系列データの画像変換による 12 誘導心電図解析モデル」 ・大西智貴 (関西大学) 他, 「機械操作の習熟過程における操作主体感と反射性眼球運動」 ・池本隼也 (日本電気株式会社/産業技術総合研究所) 他, 「微分可能モデルを用いた 2 段階アンサンブル方策最適化」 ・古関駿介 (東北大学) 他, 「反射制御に基づく二脚筋骨格モデルを用いた広範な速度域を網羅する高効率歩行メカニズムの構成論的理解」 	ライン		
11 月 14 日	<p>SSI 研究奨励賞 (5 件) :</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古菅翔生 (横浜国立大学) 他, 「3 次元 Deformable Attention を用いた End-to-End Transformer による精子検出・追尾モデルの構築」 ・飯田高裕 (横浜国立大学) 他, 「GADF を用いた時系列データの画像変換による 12 誘導心電図解析モデル」 ・篠原晃大 (大阪大学) 他, 「ネコ後肢の足場の喪失に対する適応メカニズムの神経筋骨格モデルを用いた解析」 ・國枝武史 (千葉大学) 他, 「深層強化学習における軌跡の分類を用いた Reward Shaping～自動運転による緊急回避制御の実現に向けて～」 ・長谷川勘太 (同志社大学) 他「超音波センシングによる自走ロボットを用いたコウモリの音響混信回避戦略の構成論的検証」 ・山田晃誠 (富山県立大学) 他「エゴマ畑作圃場における除草ロボットのための遠隔操作支援を想定した軌道追従走行」 	富山県民会館&オンライン	賞状	

システムインテグレーション部門

実施時期	顕彰などの名称 受賞者名・受賞論文授賞理由など	開催場所	賞品	副賞
1 月 26 日	SIYA-SII 2024	Ha Long, Vietnam	表彰状ほか	有
10 月 18 日	SIYA-IROS2024	Abu Dhabi, UAE	表彰状ほか	有

産業応用部門

実施時期	顕彰などの名称 受賞者名・受賞論文授賞理由など	開催場所	賞品	副賞
11 月 20 日	技術賞伊藤 雄,小野将英,松田大輝,高柳洋一,深井 英五(東芝インフラシステムズ株式会社) 「産業制御システムのエンジニアリング業務	産業応用部門大会	表彰状	有 20000 円

	および働き方に貢献する nVTools クラウド」			
11月20日	技術賞 只野 耕太郎(リバーフィールド株式会社) 「空気圧と電気駆動を融合し力覚フィードバックを実現した手術支援ロボット「Saroa」の開発」	産業応用部門大会	表彰状	有 20000円

ライフエンジニアリング部門

実施時期	顕彰などの名称 受賞者名・受賞論文・授賞理由など	開催場所	賞品	副賞
8月29日	ライフエンジニアリング部門シンポジウム2024 研究奨励賞 ● 中村 晃大 (大阪大学) 「仮想倒立振子の運動学習による間欠制御の獲得と運動関連脳波ベータ帯域同期の増強」 学生奨励賞 ● 田村 茜 (千葉大学) 「耳介のサイズと硬度が軟骨伝導の知覚に及ぼす影響: 耳介腫者と小児における検討」 高橋 尚也 (千葉大学) 「遠位呈示骨導超音波の刺激呈示の最適化のための呈示位置と振動子固定方法の検討」	大阪電気通信大学	賞状	研究奨励賞: 1万 学生奨励賞: 5000円 (いずれもAmazonギフトカード)

北海道支部

実施時期	顕彰などの名称 受賞者名・受賞論文・授賞理由など	開催場所	賞品	副賞
3月27日	北海道支部 支部奨励賞 (2件) ・鎌田 颯太 (北見工業大学) 「農作業用小型電動クローラの開発」 ・川口 舞子 (神奈川大学) 「架空送電鉄塔工事を支援する重量物搬送ロボットの開発」	北海道大学&オンライン	賞状	Amazonギフト券 5千円×2件

東北支部

実施時期	顕彰などの名称 受賞者名・受賞論文・授賞理由など	開催場所	賞品	副賞
3月7日	第347回 東北支部研究集会 学術奨励賞: 北原寛(東北大学) 「シナジーに基づく異なる速度の歩行運動における筋活動と運動の関連性の分析」	東北大学	賞状	図書券 (5500円/件)
5月31日	第348回 東北支部研究集会 学術奨励賞: 1) 星野翔(岩手大学) 「風洞装置を用いたスター型2次元超音波風速計の校正」 2) 田中裕人(東北大学) 「シナジーを利用した低品質な教示動作を含むデータセットからの模倣学習」	岩手大学 復興祈念 銀河ホール	賞状	図書券 (5500円/件)
7月12日	第349回 東北支部研究集会 学術奨励賞: 菅原聖弥(弘前大学) 「ステレオ視による鶏胸肉血管モデルの血管深さ推定」	弘前大学 理工学部	賞状	図書券 (5500円/件)
9月25日	第350回 東北支部研究集会 学術奨励賞: 高橋 日向子 (秋田大学) 「眼球運動を実現する眼窩エピテラーゼの開発」	秋田大学 手形キャンパス	賞状	図書券 (5500円/件)
12月17日	東北支部 60周年記念学術講演会 学術奨励賞: 1) Wentong Zhou (東北大学) 「マルチモーダルMRIを用いた脳腫瘍セグメンテーションの深層学習モデルに関する評価」 2) 長塚一	東北大学工学部 青葉記念会館	賞状	図書券 (5500円/件)

	真(東北大学)「平滑化フィルタを用いた画像ベース深層能動推論制御器の性能向上」			
--	---	--	--	--

中部支部

実施時期	顕彰などの名称 受賞者名・受賞論文授賞理由など	開催場所	賞品	副賞
2月10日	<p>第54期支部賞 ・教育賞4件 受賞者：田崎 豪(名城大学) 題目：自動運転ソフトウェアを利用した移動ロボット教育の実施 受賞者：計測自動制御学会中部支部教育工学研究委員会 代表 川福 基裕(大同大学) 題目：長年にわたる計測自動制御学会中部支部教育工学研究会の実施と教育工学論文集の発行並びに学生優秀発表賞の設置による中部支部への教育的貢献 受賞者：名古屋大学宇宙開発チーム NAFT 顧問 原 進(名古屋大学) 題目：学生宇宙活動における計測制御技術の積極的応用 受賞者：浅井 徹(名古屋大学) 題目：設計製図第3「一筆書きロボットの製作と制御実習」 ・奨励賞1件 受賞者：仲野 聡史(名古屋工業大学) 題目：3次元剛体の位置・姿勢制御系設計とドローン制御への応用</p>	名城大学 太白キャンパス	賞状	図書カード 20000円 ×5件
3月	<p>第55期学業優秀賞14件 加田愛貴(名古屋大学), 岡田全史(信州大学), 白井亮太(信州大学), 野上成美(名古屋工業大学), 高村莉玖(名古屋工業大学), 黒田真琉(名城大学), 久保田峻介(名城大学), 村田 晶斗(三重大学), 吉野草太(豊田工業大学), 岡野隼士(岐阜工業高等専門学校), 中谷尚生(岐阜大学), 内田裕貴(南山大学), 林凌生(豊橋技術科学大学), 山内愛貴(三重大学)</p>	—	賞状	図書カード 5000円
3月21日	<p>第175回教育工学研究会 学生優秀発表賞1件 題目：遠隔操作ロボットへのNucleoボードを用いたローカルフィードバック制御の実装 発表者：◎森本満喜(岐阜高専), 小林義光</p>	大同大学滝春校舎	賞状	3000円
9月2日	<p>中部支部シンポジウム ・別所耕吉, 信州大 ・松永泰成, 信州大 ・坂風樹, 信州大 ・花村朋樹, 信州大 ・熊本涼介, 信州大</p>	信州大学繊維学部		5000円 ×3名
9月17日	<p>第176回教育工学研究会 学生優秀発表賞</p>	大同大学滝春校舎	賞状	3000円 ×2名

	<ul style="list-style-type: none"> IoT に適した周期推定法 ARS の解像度の改善手法の提案 発表者：◎福田祐司（愛知県立大学），神谷幸宏 MATLAB/Simulink を用いた水素と水力を利用した 超電導発電システムの最適化に関する研究 発表者：◎三輪大和（豊田工業高等専門学校），都築啓太 			
11月27日	研究発表会 梅田恒志郎（岐阜工業高等専門学校 本科5年，指導教員 河野託也） 土屋遼平（岐阜工業高等専門学校 本科5年，指導教員 河野託也） 原田和真（豊田工業高等専門学校 専攻科2年，指導教員 田中淑晴，小谷明） 川崎磨那斗（南山大学 修士1年，指導教員 坂本登） 宮本 峻志（筑波大学 博士後期課程2年，指導教員 鈴木健嗣）	emCAMPUS STUDIO	賞状	20,000円

北陸支部

実施時期	顕彰などの名称 受賞者名・受賞論文/授賞理由など	開催場所	賞品	副賞
2月1日	北陸支部優秀学生賞（12件） 寺崎隼斗（富山大学），Razzaq Asad（富山大学），山田啓人（富山県立大学）、三宅春希（富山県立大学），石崎史眞（富山高等専門学校），東宗太朗（金沢大学）、赤坂啓輔（金沢大学），高田康伸（金沢工業大学），金澤怜生（金沢工業大学），石川敬太（北陸先端科学技術大学院大学），北川昂騎（石川工業高等専門学校），廣田成史（福井工業高等専門学校）	各所属機関にて表彰	賞状	図書カード5千円
8月11日	北陸支部 SICE Annual Conference 学生参加助成（2件） 東宗太朗（金沢大学），宮本樹（富山県立大学）	高知工科大学 永国寺キャンパス		1万円×2件
8月28日	北陸支部 SICE Annual Conference 若手奨励賞 宮本樹（富山県立大学）	高知工科大学 永国寺キャンパス	賞状	2万円×1件
9月14日	北陸支部優秀論文発表賞（2件） 石井諒（金沢工業大学），高木俊佑（富山県立大学）		賞状	図書カード5千円×2件

関西支部

実施時期	顕彰などの名称 受賞者名・受賞論文/授賞理由など	開催場所	賞品	副賞
1月12日	2023年度 計測自動制御学会関西支部支部長賞 奨励賞（3名） Lee Kunwoo（京都大学）「状態推定のための先見情報の有効性評価手法の提案」 角田祐輔（大阪大学）「シーブドッグシステムに	大阪工業大学 梅田キャンパス	賞状	2万円×3件

	学ばへテロ群移動体制御の創成：工学と理学の 双方向アプローチ 長谷川翔一（立命館大学）「Inferring Place- Object Relationships by Integrating Probabilistic Logic and Multimodal Spatial Concepts」			
--	--	--	--	--

中国支部

実施時期	顕彰などの名称 受賞者名・受賞論文授賞理由など	開催場所	賞品	副賞
1月15日	第32回中国支部学術講演会講演者表彰 2023年度支部優秀賞・奨励賞・技術賞選考小委員会において、支部優秀賞、奨励賞および技術賞を次のように選出した。 ■優秀賞 松田 裕真 山口大学大学院創成科学研究科 星野 元春 岡山大学 堀内 潤 広島大学 ■奨励賞 佐藤 裕介 広島大学 西田 翔 近畿大学大学院 西村 咲恵 鳥取大学大学院持続性社会創生科学研究科工学専攻 國澤 憲裕 山口大学大学院創成科学研究科 藤田 采花 山口大学 菅原 貴弘 広島大学 藤原 佳達 宇部工業高等専門学校 河口 駿介 岡山大学 ■技術賞 該当なし	オンライン	賞状	優秀賞 1万円× 3名 奨励賞 5千円× 8名

四国支部

実施時期	顕彰などの名称 受賞者名・受賞論文授賞理由など	開催場所	賞品	副賞
11月30日	優秀講演賞 赤田 和也（徳島大） 2段階検出を用いた物体検出の精度向上 牧野 愛翔（愛媛大） 植物工場における小型ドローンの自律飛行 阿瀬川 祥永（阿南高専） 小規模離島における災害初期対応支援システムの開発 高瀬 暖生（阿南高専） 鳥類の止まり木降着機構を模倣したドローンの着地性能評価	徳島大学 常三島キャンパス	賞状	SICE 2025 参加費

九州支部

実施時期	顕彰などの名称 受賞者名・受賞論文授賞理由など	開催場所	賞品	副賞
1月20日	2023年SICE九州支部奨励賞（3名） Annette Waithira Irungu 君（Nagasaki University） 講演番号：103B2 論文題目：Leveraging GANs for Whole Slide Image Generation in Digital Pathology	郵送	賞状・盾	ギフトカード3万円

	佐藤 匠 君 (熊本大学) 講演番号：101B2 論文題目：ポリトープ型不確かさを有するマルチレート系に対するモデル誤差抑制補償器の設計 岩上 颯太 君 (佐賀大学) 講演番号：202B1 論文題目：トマト自動収穫のための画像処理を用いた台車制御システムの開発			
1月20日	学生発表交流会における優秀発表者表彰(3名) 【最優秀発表賞】 小野 脩太郎 君 (佐賀大学) 発表番号：104C02 発表題目：複数選定されたトマトの自動収穫ロボットの開発 【優秀発表賞】 江藤 大輔 君 (九州工業大学) 発表番号：104C09 論文題目：エネルギー代謝調節における臓器間ネットワーク系のトポロジカルモデリング 香月 紫音 君 (長崎総合科学大学) 発表番号：104C10 論文題目：遠隔操縦型・自律型切り替え可能な小型水中ロボットの開発	郵送	賞状	図書カード(最優秀5000円、優秀3000円)

6. その他本会の目的を達成するための事業

インダストリ委員会

実施月日	行事・事業・会議（・委員会）などの名称	開催場所	発表件数	参加者数
7月2日	ARC アジアフォーラム 2024 (パネル企画/ブース出展)	両国 KFC ホール	—	236
10月30日～11月1日	計測展 2024 OSAKA 連携活動 (出展者セミナー/ポスター展示)	グランキューブ大阪 (大阪国際会議場)	—	7,680

メンバー委員会

実施月日	行事・事業・会議（・委員会）などの名称	開催場所	発表件数	参加者数
5月25日	ISCIE 連携会議	大阪工業大学&オンライン	5	12
8月28日	第10回 GiC(Girls in Control) 主催:IFAC,JAAC, 共催:制御工学教員協議会、SICE、後援:IEEE Japan Council	高知工科大学	2	10
11月23日	ISCIE 連携会議	姫路商工会議所&オンライン	5	12
12月1日	第11回 GiC(Girls in Control) 主催:IFAC,JAAC, 共催:制御工学教員協議会、SICE、後援:IEEE Japan Council	名古屋大学 東山キャンパス ES 総合館	1	6

計測部門

実施月日	行事・事業・会議（・委員会）などの名称	開催場所	発表件数	参加者数
3月4日～5日	パターン計測部会協賛企画・動的画像処理実用化ワークショップ(DIA2024)	別府国際コンベンションセンター	95	225

8月6日～9日	パターン計測部会協賛行事: 画像の認識・理解シンポジウム(MIRU2024)、参加者 1591 名、発表 629 件	熊本城ホール	629	1591
12月5日～6日	ビジョン技術の実利用ワークショップ (VIEW2024)	パシフィコ横浜 アネックスホール	100	708

システムインテグレーション部門

実施月日	行事・事業・会議（・委員会）などの名称	開催場所	発表件数	参加者数
12月18日	RSNP コンテスト 2024	マリオス盛岡地域交流センター	6	20

産業応用部門

実施月日	行事・事業・会議（・委員会）などの名称	開催場所	発表件数	参加者数
2月7日	制御システムセキュリティカンファレンス 2024 (協賛)	オンライン	7	450
6月20日	2024 年度春季フルードパワーシステム講演会	機械振興会館		

ライフエンジニアリング部門

実施月日	行事・事業・会議（・委員会）などの名称	開催場所	発表件数	参加者数
3月8日	第10回電気生理運動学研究会 (第22回日本電気生理運動学会と共催)		16	30
3月11日～12日	2024 年生体・生理工学部会講演会 (電子情報通信学会 MBE 研究会・NC 研究会と共催)		2	
8月26日～27日	Bioengineering Hackathon in 生体医工学サマースクール 2024 「生体医工学×歯科工学」 (協賛)	ホテル マホロパマ インズ三浦	6	26

北海道支部

実施月日	行事・事業・会議（・委員会）などの名称	開催場所	発表件数	参加者数
3月2日	複雑系マイクロシンポジウム (共催)	公立はこだて未来大学	29	48
9月15日	ロボットトライアスロン (協賛)	北見工業大学	16	86 (学生 67, 教員 9, 一般 10)

東北支部

実施月日	行事・事業・会議（・委員会）などの名称	開催場所	発表件数	参加者数
7月14日	【後援事業】学都仙台・宮城サイエンス・デイ 2024	東北大学 川内キャンパス		
12月1日	【後援事業】電気自動車エコラン競技大会 2024 World Electric Vehicle Challenge in NATORI	名取サイクルスポーツセンター ミドルコース		250

中部支部

実施月日	行事・事業・会議（・委員会）などの名称	開催場所	発表件数	参加者数
2月29日	日本設計工学会東海支部第 91 回見学会 (協賛)	三菱自動車工業株式会社 岡崎製作所		24
5月17日	精密工学会東海支部見学会 (協賛)	(株) ナベヤ 本巣精密工場		26
5月27日	統合知能メカトロシステム研究委員会講演会 模倣学習を用いた位置・力制御による 人間レベルの不定形環境操作	岐阜大学&オンライン		現地 19 オンライン 185
5月31日	日本設計工学会東海支部 2024 年度総会特別講演 (協賛)	名城大学 天白キャンパス		36
6月5, 7, 14日	日本設計工学会東海支部機械製図講習会 (協賛)	名城大学 天白キャンパス		7
7月5日	講演会 サンプル値制御系再訪ーサンプル点	南山大学	1	26

	間挙動最適化の重要性と今後の展望 (共催)			
7月12日	日本設計工学会東海支部第92回見学会(協賛)	日本特殊合金株式会社		10
8月22日 8月30日 9月11日 9月18日	日本設計工学会東海支部 2024年度幾何特性仕様(GPS)講習会(協賛)	名城大学 天白キャンパス		14
9月2日, 18日, 20日, 24日~25日, 27日, 30日	公益社団法人 精密工学会東海支部 講習会「ものづくり 実践講座シリーズ」全7講座(協賛)	実施回による		27
9月20日	東海地区国立2大学飛行ロボット授業優秀機選抜対抗戦「東海クライマックスシリーズ2024」(協賛)	岐阜メモリアルセンターふれ愛ドーム		156 (当日96 配信60)
10月11日	精密工学会東海支部 見学会・特別講演会「藤巻鋼材株式会社」(協賛)	藤巻鋼材株式会社 小牧工場		14
10月22日 ~23日	第13回 機械工学基礎講座「機械設計」(協賛)	名古屋大学		23
11月9日	日本航空宇宙学会中部支部 ジュニア研究成果発表会(共催)	名城大学	1	30
11月22日	第152回講習会 科学英語の書き方とプレゼンテーション(協賛)	オンライン	3	89
11月29日	公益社団法人 日本設計工学会東海支部 2024年度設計フォーラム 東海地区高専におけるPBL教育(協賛)	名城大学	4	25
12月17日	電気学会東海支部「次世代パワーエレクトロニクス」若手セミナー	名古屋大学	1	46

北陸支部

実施月日	行事・事業・会議(・委員会)などの名称	開催場所	発表件数	参加者数
3月8日~9日	日本機械学会北陸信越支部2024年合同講演会(共催)	富山県立大学 射水キャンパス	249	386
11月30日	令和6年度日本生体医工学会北陸支部大会	大学コンソーシアム 富山駅前キャンパス	11	42

関西支部

実施月日	行事・事業・会議(・委員会)などの名称	開催場所	発表件数	参加者数
6月27日 7月10日, 18日, 23日, 29日	精密工学会関西支部「生産技術特別セミナー」(協賛)	大阪公立大学 文化交流センター ホール		133
8月5日	システム制御情報学会・計測自動制御学会チュートリアル講座2024(協賛)	大阪大学 银杏会館 &オンライン		91
12月2日	日本材料学会関西支部 第19回若手シンポジウム ~材料分野の仕事と研究の魅力~	同志社大学 大阪サテライトキャンパス	20	31

中国支部

実施月日	行事・事業・会議(・委員会)などの名称	開催場所	発表件数	参加者数
5月24日	情報処理学会中国支部主催講演会 AIプロダクトの品質保証とテスト~AIを安全に社会実装するための技術とコミュニティ活動(共催)	広島YMCA 国際文化センター本館403号室&オンライン		
7月11日	電気学会中国支部主催講習会 『配電用変電所保護リレーシステム技術』(共催)	中国電力ネットワーク株式会社 本社 2-8 大会議室		
7月22日	電子情報通信学会中国支部学生会主催イベント	広島大学 東広島キ		

	トフレッシュ IT あわ〜ど 2024 (共催)	キャンパス/ 広島市立 大学 情報科学部棟 2階		
9月13日	電気学会中国支部主催講演会 "Decentralized frameworks for modern distribution networks" (共催)	広島大学東広島キャン パス工学部 A1 棟 1階 141 会議室		
11月20日	電気学会中国支部主催 (協賛)	中国電力株式会社 島根原子力発電所		

7. その他、運営委員会など

総務委員会

実施時期	行事・事業・会議（・委員会）など名称	開催場所	議題数	参加人数
1月17日	(2023年度)第16回総務委員会	事務局&オンライン	10	9
2月14日	(2023年度)第17回総務委員会	事務局&オンライン	9	11
3月7日	会誌等電子化準備委員会キックオフ会議	事務局&オンライン	5	14
4月1日	総務委員会引継ぎ会議	事務局&オンライン	11	12
4月22日	第1回会誌等電子化準備委員会	事務局&オンライン	3	12
4月24日	第1回総務委員会	事務局&オンライン	7	9
5月13日	第2回総務委員会	事務局&オンライン	8	9
5月25日	ISCIE-SICE連携プロジェクト第1回ステア リング会議	大阪工業大学梅田キャン パス&オンライン	5	18
6月17日	第3回総務委員会	事務局&オンライン	8	10
6月28日	第2回会誌等電子化準備委員会	事務局&オンライン	7	16
7月8日	第4回総務委員会	事務局&オンライン	8	6
7月26日	第4回電子化準備委員会	事務局&オンライン	7	11
8月21日	第5回総務委員会	事務局&オンライン	9	10
9月18日	第6回総務委員会	事務局&オンライン	11	8
10月7日	第7回総務委員会	事務局&オンライン	11	8
11月23日	第8回総務委員会	姫路商工会議所本館 &オンライン	8	10
11月23日	ISCIE-SICE連携プロジェクト第2回ステア リング会議	姫路商工会議所本館 &オンライン	4	17
12月17日	第9回総務委員会	事務局&オンライン	7	7

財務委員会

実施時期	行事・事業・会議（・委員会）など名称	開催場所	議題数	参加人数
5月15日	第1回財務委員会	オンライン	4	8
7月4日	第2回財務委員会	オンライン	3	9
11月29日	第3回財務委員会	オンライン	4	5

企画委員会

実施時期	行事・事業・会議（・委員会）など名称	開催場所	議題数	参加人数
4月1日	企画委員会引継ぎ会議	事務局&オンライン	1	12
6月3日	第1回企画委員会	事務局&オンライン	5	11
7月19日	第2回企画委員会	事務局&オンライン	3	7
8月8日	第3回企画委員会	事務局&オンライン	4	10
8月16日	拡大理事ワークショップ事前説明会	事務局&オンライン	1	15
8月26日	拡大理事ワークショップ (1日目)	高知城ホール	5	35
8月27日	拡大理事ワークショップ (2日目)	高知工科大学永国寺 キャンパス&オンラ	3	34

		イン		
学会賞委員会				
実施時期	行事・事業・会議（・委員会）など名称	開催場所	議題数	参加人数
2月5日	第4回学会賞委員会（2023年度）	オンライン	7	14
4月10日	第1回学会賞委員会	オンライン	8	16
5月27日	2024年度FA財団論文賞推薦論文選考委員会	オンライン	2	—
7月1日	第2回学会賞委員会	オンライン	8	13
7月11日	2024年度フェロー選考委員会	オンライン	6	8
8月29日	SICE FES 2024 Annual Conference Award 選考委員会	高知工科大学 &オンライン	2	—
11月28日	第3回学会賞委員会	オンライン	10	17
会誌出版委員会				
実施時期	行事・事業・会議（・委員会）など名称	開催場所	議題数	参加人数
1月19日	2023年度第6回会誌出版委員会	事務局&オンライン	6	17
3月5日	2024年度引継ぎ会	事務局&オンライン	5	4
3月29日	第1回会誌出版委員会	事務局&オンライン	9	19
5月16日	第2回会誌出版委員会	事務局&オンライン	6	24
7月30日	第3回会誌出版委員会	事務局&オンライン	6	22
8月9日	特別会誌出版委員会	事務局&オンライン	9	28
9月26日	第4回会誌出版委員会	事務局&オンライン	6	22
11月26日	第5回会誌出版委員会	事務局&オンライン	6	22
和文論文集委員会				
実施時期	行事・事業・会議（・委員会）など名称	開催場所	議題数	参加人数
1月22日	2023年度第3回和文論文集委員会	オンライン	5	9
4月11日	第1回和文論文集委員会	オンライン	4	10
5月15日	和文論文集編集委員会	オンライン	7	26
9月11日	第2回和文論文集委員会	オンライン	4	10
英文論文集委員会				
実施時期	行事・事業・会議（・委員会）など名称	開催場所	議題数	参加人数
1月24日	2023年度第3回英文論文集委員会	オンライン	6	10
4月12日	第1回英文論文集委員会	オンライン	4	11
9月13日	第2回英文論文集委員会	オンライン	4	8
9月30日	英文論文集編集委員会	オンライン	5	21
カンファレンス委員会				
実施時期	行事・事業・会議（・委員会）など名称	開催場所	議題数	参加人数
6月10日	第1回カンファレンス委員会	オンライン	6	16
インダストリ委員会				
実施時期	行事・事業・会議（・委員会）など名称	開催場所	議題数	参加人数
1月25日	SICE 安全のための計測・制御・システムを考える会 第134回タスクフォース会合	慶應義塾大学日吉キャンパス&オンライン	—	12
1月25日	SICE 安全のための計測・制御・システムを考える会 第134回タスクフォース会合	慶應義塾大学日吉キャンパス&オンライン	—	12
1月26日	SICE Wagora キックオフミーティング	オンライン	5	27
4月12日	第1回 インダストリ委員会	オンライン	11	11
4月24日	SICE Wagora 第1回ミーティング	オンライン	3	27
5月1日	SICE 安全のための計測・制御・システムを考える会 第135回タスクフォース会合	慶應義塾大学日吉キャンパス&オンライン	—	11

5月14日	国際標準化委員会 第1回委員会	オンライン	8	6
5月29日	SICE 安全のための計測・制御・システムを考える会 第136回タスクフォース会合	慶應義塾大学日吉キャンパス&オンライン	—	15
6月5日	第2回 インダストリ委員会	オンライン	11	9
6月11日	SICE 安全のための計測・制御・システムを考える会 第137回タスクフォース会合	慶應義塾大学日吉キャンパス&オンライン	—	11
6月13日	SICE Wagora 第2回ミーティング	オンライン	3	20
6月19日	国際標準化委員会 第2回委員会	オンライン	5	10
7月16日	SICE 安全のための計測・制御・システムを考える会 第138回タスクフォース会合	慶應義塾大学日吉キャンパス&オンライン	—	8
8月23日	第3回 インダストリ委員会	オンライン	11	12
9月19日	SICE Wagora コアメンバー会議	オンライン	—	11
10月16日	SICE 安全のための計測・制御・システムを考える会 第139回タスクフォース会合	慶應義塾大学日吉キャンパス&オンライン	—	7
11月4日	国際標準化委員会 第3回委員会	オンライン	8	8
11月25日	SICE Wagora 第3回ミーティング	TKP 神田ビジネスセンター&オンライン	—	13
12月4日	国際標準化委員会 第4回委員会	オンライン	8	8
12月9日	第4回 インダストリ委員会	オンライン	11	10

メンバー委員会

実施時期	行事・事業・会議（・委員会）など名称	開催場所	議題数	参加人数
1月24日	SICE DIA	オンライン	4	8
2月2日	2023年度最終回メンバー委員会	事務局&オンライン	8	12
3月1日	SICE DIA	オンライン	4	9
4月26日	SICE DIA	オンライン	4	9
4月26日	2024年度第1回メンバー委員会	事務局&オンライン	8	15
6月17日	SICE DIA	オンライン	4	7
7月29日	2024年度第2回メンバー委員会	事務局&オンライン	8	11
9月11日	SICE DIA	オンライン	4	7
10月21日	2024年度第3回メンバー委員会	事務局&オンライン	8	12
12月13日	SICE DIA	オンライン	4	7

部門協議会

実施時期	行事・事業・会議（・委員会）など名称	開催場所	議題数	参加人数
1月25日	2023年度第5回部門協議会	事務局&オンライン	5	11
4月8日	2023年度第6回&2024年度第1回部門協議会	事務局&オンライン	6	21
7月10日	2024年度第2回部門協議会	事務局&オンライン	5	14
10月4日	2024年度第3回部門協議会	事務局&オンライン	5	15
12月6日	2024年度第4回部門協議会	事務局&オンライン	4	13

計測部門

実施時期	行事・事業・会議（・委員会）など名称	開催場所	議題数	参加人数
2月9日	2023年度 第4回・2024年度 第1回 計測部門運営委員会	オンライン	7	12
2月29日	2023年度第3回センシングフォーラム運営委員会	オンライン	5	15
6月18日	2024年度第1回力学量計測部会運営委員会	事務局&オンライン	7	17
6月18日	2024年度センシングフォーラム運営委員会	オンライン	4	19
6月18日	2024年度第2回計測部門運営委員会	オンライン	5	9

9月12日	2024年度第2回センシングフォーラム運営委員会	長崎大学	6	21
9月13日	2024年度第3回計測部門運営委員会	長崎大学	4	9
12月2日	2024年度第2回力学量計測部会運営委員会	事務局&オンライン	7	27

制御部門

実施時期	行事・事業・会議（・委員会）など名称	開催場所	議題数	参加人数
2月6日	2024年度制御部門運営委員会メーリングリストの作成	オンライン		
3月11日～18日	2024年度第1回広報委員会	メール審議	2	4
4月19日	実学界で踊る現場制御理論調査研究会のホームページの開設	オンライン		
4月26日	MSCS2024とISCS2024のホームページの保存	オンライン		
6月4日	MSCS2025第1回実行委員会	オンライン	13	21
6月17日	MSCS2025のホームページの開設	オンライン		
随時	制御部門のホームページの更新	オンライン		
6月27日	制御理論若手合宿のホームページの開設	オンライン		
7月29日	MSCS2025第2回実行委員会	オンライン	13	19
7月30日	ISCS2025のホームページの開設	オンライン		
随時	制御部門のメーリングリストの更新	オンライン		
9月5日	MSCS2025第3回実行委員会	オンライン	11	18
10月30日	MSCS2025第4回実行委員会	オンライン	11	17
11月24日	Society 5.0に資する適応学習制御調査研究会第6回委員会開催	姫路商工会議所		13
12月23日	MSCS2025第5回実行委員会	オンライン	12	23

システム・情報部門

実施時期	行事・事業・会議（・委員会）など名称	開催場所	議題数	参加人数
4月23日	2024年度第1回システム・情報部門運営委員会	オンライン	6	12
6月27日	2024年度第2回自律分散システム部会運営委員会	オンライン	6	11
7月8日	2024年度第2回システム・情報部門運営委員会	オンライン	7	13
9月17日	2024年度第3回自律分散システム部会運営委員会	大阪大学&オンライン	7	12
10月8日	2024年度第3回システム・情報部門運営委員会	オンライン	7	10
11月14日	2024年度第4回システム・情報部門運営委員会	富山県民会館	9	12
11月14日	2024年度第2回知能工学部会運営委員会	富山県民会館	3	10

システムインテグレーション部門

実施時期	行事・事業・会議（・委員会）など名称	開催場所	議題数	参加人数
1月26日	第1回SI部門新旧合同運営委員会	中央大学後楽園キャンパス&オンライン	5	31
3月4日	第2回SI部門運営委員会	メール審議	5	-
3月30日	第3回SI部門運営委員会	メール審議	5	-
5月27日	第4回SI部門運営委員会	ライトキューブ宇都宮&オンライン	11	33
7月12日	第5回SI部門運営委員会	メール審議	8	-
8月27日	第6回SI部門運営委員会	高知工科大学永国寺キャンパス&オンラ	11	

		イン		
10月21日	第7回SI部門運営委員会	メール審議	5	-
11月22日	第8回SI部門運営委員会	メール審議	7	-
12月19日	第9回SI部門運営委員会	マリオス盛岡 地域交流センター	3	30

産業応用部門

実施時期	行事・事業・会議（・委員会）など名称	開催場所	議題数	参加人数
1月25日	ネット部会 OTセキュリティWG 第1回会議	オンライン	9	7
2月14日	産業システム・ネットワーク部会 第1回会議	東芝（川崎）& オンライン	8	14
2月14日	ネット部会 OTデータ連携WG 第1回会議	東芝（川崎）		
2月29日	第1回産業応用部門運営委員会	事務局&オンライン	5	11
3月27日	ネット部会 OTセキュリティWG 第2回会議	オンライン	6	9
5月14日	第2回産業応用部門運営委員会	オンライン	3	10
7月19日	第3回産業応用部門運営委員会	法政大学小金井キャンパス	3	10
10月4日	第4回産業応用部門運営委員会	オンライン	3	12
12月20日	第5回産業応用部門運営委員会	オンライン	3	10

ライフエンジニアリング部門

実施時期	行事・事業・会議（・委員会）など名称	開催場所	議題数	参加人数
4月9日	第1回部門・4部会合同運営委員会	オンライン	10	13
5月29日	拡大運営委員会	オンライン	5	10
8月29日	第2回部門・4部会合同運営委員会	大阪電気通信大学	-	10

支部協議会

実施時期	行事・事業・会議（・委員会）など名称	開催場所	議題数	参加人数
1月24日	2023年度第5回支部協議会	事務局&オンライン	5	14
4月2日	2023年度第6回&2024年度第1回支部協議会	事務局&オンライン	5	22
7月17日	2024年度第2回支部協議会	事務局&オンライン	6	16
10月2日	2024年度第3回支部協議会	事務局&オンライン	6	16
11月28日	2024年度第4回支部協議会	事務局&オンライン	5	16

北海道支部

実施時期	行事・事業・会議（・委員会）など名称	開催場所	議題数	参加人数
1月31日	2023年度第5回&2024年度第1回支部運営委員会	オンライン	3	8
3月27日	2024年度第2回支部運営委員会	オンライン	2	7
6月19日～ 24日	2024年度第3回支部運営委員会	メール審議	1	9
9月9日～ 13日	2024年度第4回支部運営委員会	メール審議	1	9
10月30日	2024年度第5回支部運営委員会	オンライン	5	8

東北支部

実施時期	行事・事業・会議（・委員会）など名称	開催場所	議題数	参加人数
2月14日	東北支部会議	オンライン	6	9

中部支部

実施時期	行事・事業・会議（・委員会）など名称	開催場所	議題数	参加人数
2月10日	支部会議	名城大学&オンライン	9	24
2月10日	第一回運営委員会・事業委員会	名城大学&オンライン	9	24
4月24日	第二回運営委員会・事業委員会	オンライン	9	21
7月31日	第三回運営委員会・事業委員会	オンライン	9	20
12月3日	第四回運営委員会・事業委員会	オンライン	9	29

12月3日	定例顧問会議	オンライン	9	29
-------	--------	-------	---	----

北陸支部

実施時期	行事・事業・会議（・委員会）など名称	開催場所	議題数	参加人数
1月12日	第28期（令和6年）新旧合同運営委員会	オンライン	6	12
1月12日	第28期（令和6年）支部会議	オンライン	5	15
5月15日	第1回運営委員会	オンライン	20	7
7月15日～ 8月10日	第2回運営委員会	メール審議	2	7
9月14日	第3回運営委員会	オンライン	6	7
9月26日～ 11月17日	第4回運営委員会	メール審議	6	7

関西支部

実施時期	行事・事業・会議（・委員会）など名称	開催場所	議題数	参加人数
1月12日	2023年度支部会議	大阪工業大学 梅田キャンパス	5	19
4月16日	第1回支部運営委員会	オンライン	8	18
6月5日	第2回支部運営委員会	オンライン	9	19
8月5日	第3回支部運営委員会	大阪大学吹田キャン パス&オンライン	9	18
10月9日	第4回支部運営委員会	大阪大学中之島セン ター	9	15
12月17日	2024年度支部長賞選考委員会	オンライン	6	11
12月18日	第5回支部運営委員会	オンライン	13	15

中国支部

実施時期	行事・事業・会議（・委員会）など名称	開催場所	議題数	参加人数
1月15日	第1回運営委員会	オンライン	9	21
1月15日	支部会議（総会）	オンライン	10	21
5月29日	拡大運営委員会	オンライン	5	10
11月20日	第2回運営委員会	メール	4	10

四国支部

実施時期	行事・事業・会議（・委員会）など名称	開催場所	議題数	参加人数
1月22日～ 2月9日	支部会議	メール審議	1	8
3月21日	第1回支部運営委員会	オンライン	2	8
11月30日	第2回支部運営委員会	徳島大学 常三島キャンパス	4	13

九州支部

実施時期	行事・事業・会議（・委員会）など名称	開催場所	議題数	参加人数
1月20日	九州支部 第1回拡大運営委員会（新旧合同）	オンライン	7	17
1月20日	九州支部 第54期支部会議	オンライン	7	18
7月4日	九州支部第2回運営委員会	オンライン	5	11
10月17日	九州支部第3回運営委員会	オンライン	9	9